

す

す(糞)【名詞】 野菜などに生じた繊維質の部分、穴、充実していない部分 [会話] スウな(が) たった言うのを、すいすいな たった。だいこな(大根が) かすかすん(に) なつとるやんない(なっているでしょう)。あいなのを(あんなのを) すいすいな(が) たった言うてなあ。芋な(が) かすかすん(に) なって来ると すいすいん(に) なって来たれ(来た)、まあ スな(が) たって来たれ 言うて。

す(簀)【名詞】 1) すのこ 簀子 初め竹で編んで作った物を言ったが、後には木を並べた物を言った。現在では竹、板その他隙間をあけて並べた物を言っている。台所、浴室、渡り廊下など水捌けを必要とする所に使用される。2) 日よけ、風よけなど葦で編んだ物を言われる すだれもその一種 [会話] 1) 板のストか、竹のスウとか。竹で編んだのお(のを) ス、巻寿司する スウとか、御飯 お櫃(釜から御飯を移す容器)へ しまつたもんで(して居たので、スウ 覆せおつたなあ(て居ました)。今し(今)の筆巻きみたよおなのおを(のよなのを) 覆せよつた(居ました)。竹で編んだおつきいのお(大きいのお)から、ちつさいのお(小さいのお)から。お櫃がなあ 一升どりや(一升入るとか) 二升どりや(だ) 言うて 有るもんでなあ(有るので)皆 それに応じて いくつも 大、中、小と 有りおつた(有りました)。それい(に) 合わせて ス 変えおつた(て居ました)。餅 搗く じゅういも(重へも) スウ 敷くし(敷きます)。編んだ物 スウや(です)。竹でも 藁でも 編むとなあ スウみたよんなるやんかい(のようになります)。2) すだれも スウや(です)。スウ 掛けとけ(掛けておけ) 言うてなあ。葦簀は よしず、スや(と) 言うときいご(その時) ほっそいのおで(細いので) ござみたよおなのおやけど(莫座のようなのだが)又、それとも違うし、ちよいと(少し) ふつとおて(太くて) すいすいみたよんしとんのおを(のよりにしているのを) しおつたなあ(して居ました) 今し(今)の戸のかわりんしまつたのなあ(代わりにして居ました)。ス掛けとけまあ(掛けておきなさい) そやあれ(それ) 言うてなあ。

ず(づ)【名詞】 頭(志) [会話] ずこた。ズ

ウな(が) やめる(病める・痛む) 言うて。甘いもん(物) よけ(沢山) 食うと ズウへあがつた言うてなあ。あんまいもんな(甘い物が) あんまり(あまり) どくらしとだ(毒々しい・強烈であるとね) ズウへ 上がったよお言うて。ズへ あがるばか(だけ)なら ええんけど(いいが)、うしろこんぶ(後頭部)な やめて来る。ぜんざいな(が) 大好きで食べよおつたねけど(食べて居ましたが) とし(年齢)が いて来たや(取ったら) 嫌いん(に) なつて(なつて行って) ちよいと食べたや(少し食べたら) うしろこんぶ な いとおて(痛くて)。工場い(に) いとる(行って居る) 時んなあ(に) 飴をくれたや(くれたら) えらい(大変) 美味しいもんで(ので) 一つで おいときや(やめておけば) よかつたのになあ も(もう) 一ねじ(巻) くれ(下さい) 言うてなあ、も(もう) ひとねじ もろて(貰って) 食べたやなあ(食べたら) まあ これな(が) やめて(痛くなって) 来てなあ こんぶな(が)、弱つた事な(が) あんね(有るのです)。ひとねじ言うのは 水飴 箸でまるけんのを(丸めるのを) ひとねじ言うの。こおしといて(引っ張っておいて) きゅつきゅつと ねじんねやんかい(振じるのです)。くるくるつと。こやつて(こうして) 引っ張つといて(ておいて) きゅつと 取つて ひとねじ。ちつちよお(小さく) する にげ(人間・人) も あんねけど(有るのだが)、大きいねじを もろてしたや(貰ってしたら) あんまり 美味しいもんで(ので) も(もう) ひとねじ くれ言うたや(言ったら) 又、そげな(そんな) 大きな もろて(貰って) 好きやもんで(なので) 食べたや(たら) こんだ(今度は) ここい(後頭部に) のぼつて来てなあ なんやら(なにか) 具合な(が) わり(悪く) なつて来んねやんかい(来るのです)。あれを ズへあがる言うんやろなあ(言うのでしょうか)。

すい(酸)【形容詞】 酸っぱい 酸味が有る(桑郡、員、三、四、鈴郡、鈴市、亀、安、津、一、飯、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南、熊) [会話] すっぱいのなあ(のを) 御飯を食べ過ぎると スイげつぶな(が) 出たれ(出ました) 言うやんかい(言います)。食べ過ぎるとなあ スイ げつぶな

(が) 出て来るなあ。飯 食うた、うえい (食べた後に) 芋を二つくらい 食て見よえ (食べて見なさい) まあ 胸な (が) やけて スイ げっぶな (が) 出て来んね (来るのです)。

すいい【形容詞】 酔のような味が有る。酸味が有る酸っぱい (桑市、員、三、四、鈴郡、鈴市、亀、安、津、一、飯、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南、熊)

すいかす (すひかす)【名詞】 吸殻 (熊)

すいがす (すひがす) すいがらす (すひがらす)【名詞】 水分が無くなり粘り気がなくなったもの [会話] きい (木) でも スイガラスン (に) になって、中な (が) がざがさん (に) になってくと (いくと) ほくちんなつた (腐って行った)。

すいき【名詞】 血統 (志 (浜島、布施田)) [会話] あの家のスイキやよつてなあ (だから) 言うの (のです)。血統の事を スイキや (だ) 言うて、あや (彼は) 肺病のスイキや (だ) 言うて、血筋やれ (だ) 言やええのん (言え方がいいのに) スイキやれ 言うてなあ。

ずいき (芋茎)【名詞】 1) 野菜などの茎 (志 (布施田)) 2) 里芋の茎を乾かしたもの (桑市) [会話] 1) しやくしな 漬けもん (物) に すんのんええ の (するのによいのです)、ズイキな (が) あつ うて (厚くて) しろおて (白くて) よけあんのな (沢山有るのが)。ズイキ言う と 茎の事 葉っぱ やのおて (でなくて)。

すいきよ【名詞】【形容動詞】 酔狂 すいきょう 物好きな事 馬鹿馬鹿しい事 [会話] スイキョ言う と ものずき言うんか。

すいくさい【形容詞】 物がすえた匂いがする 腐り臭い [会話] ねぐさい (腐りくさい) 言うな (言うのは) スイクサイ。

すいさし (すひさし)【名詞】 吸いかけて途中でやめること 又、途中でやめたもの (南)

すいすい【名詞】 すいば いたどり 若芽を食べるタデ科の多年草 原野、畔道などに普通に自生している。茎は直立し高さは八十糎に達する。茎からすっぱい汁 (蓆酸) がでる。(志 (浜島)、鳥 (神島)、松、上) [会話] スイスイゴンボ言うな (言うのは)、なんやら (何か) すううい (酸い) スイスイのきい (木) 言うて、いたどりを あやいうんかい (あれは言うのですか)、中な (が) スイスイなたつとんのおを (空洞になっているのを) かあ

(皮) 剥いて 噛むと すいいて (酸っぱくって) それをだ スイスイや (と) 言よおつたやんかい (言っていたで有りませんか)。かあ (皮) 剥いと いて (でにおいて) 噛むんやんかい (噛むのです)。そすと (そうすると) すいいてな (酸っぱくて) 食われんねけど (食べられるのだが) すいの (のです)。

すいすい【副詞】 動作が軽ろやかで早い事

すいすい【形容詞】 薄くなって反対側が透けて見えるほど薄くなっている事 [会話] スイスイ言う と 透けて スイスイん (に) なつたてなあ (なつていった) 言うて、うっすうう (薄く) なつて、布でも うっすううなつてくと (薄くなつていくと) 広げて 向な (が) 見えるとなあ、スイスイに なつとんない (なつている) いたんで (古くなつて) 言うてなあ。いたんで スイスイん (に) なつとんのも (なつているのも) 有るし、もとより (始めから) スイスイんのおも (のもの) 有るけどなあ。寒冷紗みたよん スイスイん (に) なつて こや (これは) 寒冷紗みたよな (のようだ) 言うて、寒冷紗は スイスイやんかい (です)。

すいすい【名詞】 鬆 大根、芋などに生ずる繊維質す (鬆) 参照

すいすいごんぼ【名詞】 いたんどり 春出る若芽には酸味が有る すいすい参照 (志 (越賀、神明、甲賀)、鳥 (神島)、桑市、鈴市、安、一、松、多、度、伊)

すいすいなたつた 芋、大根などが繊維質だけになる鬆が入る

すいた (空) 1) 空席が出来た 2) 隙間ができた 3) 空腹になつた 4) 漏れてしまつた [会話] 3) 腹な (が) スイタ。4) 水な (が) まあ やぶれ とて (ていて) すいてて (ていつて) 言うな (言います) 1) 席な (が) スイタ。2) これん (に)、一杯 いつとつたや (入つていたら) まあ スイテななあ (ていつて) はんぶんなつたたない (半分になつていつた) 言うてな こやま (これは) もんねなあ (漏るのだ) 言うてな。

すいた (好) 好きになつた。このましい [会話] いろめな (が) ええなあ (よい) 言うて、いろめな (が) よおて (よくて)、スイタ よおな 色やなあ (だ) 言うて、きもんやどけの (着物などの) 色を選ぶ時なあ (に)。

すいだし (すひだし)。すいだしごおやく (すひだし)

がうやく (吸出) **【名詞】** 腫物、出来物の膿を吸い出す膏薬 [会話] できもん (出来物) の スイダシゴオヤク あかまん。スイダシや (だ) 言うてなあ。

すいだま (すひだま) (吸玉) **【名詞】** すいふくに同じ。ガラス容器の中の空気を温め患部に付けて吸引する物。すいふくべ [会話] ガラスやらなんやら (かなにか) ぬくとめて (温めて)、ポント、ひっつけるの。ちい (血) ぬくやら (とか) 言うてなあ、あれ うつぶけといて (うつむけておいて) ふうっとすると ぼんと みいななあ (身が) ふくれてくんのな (来るのです)。それをなあ スイダマや (だ) 言うてなあ、ガラスん まるくたいのおを (丸いのを) うつぶけといて (うつむけておいて) すると、ほおとしてきよおったの (来たのです)。あれを、スイフク かけてもらをやんか (貰らいましよう) 言うて、よお 肩のほおい (へ) ちい (血) 抜くや、じゃんじゃんと 突いてなあ 針で、そすと (すると) ちいななあ (血が) それから ぶちぶちとなあ してくんの (してくるので) その針で ついたとこ (所) から あれな (が) よお (よく) はやったことな (が) あったわ い (有りました)。

すいたよおん 好きな様に

すいたらし (好) **【形容詞】** 1) 好きになった 2) 好きなようだ

すいっちょ **【名詞】** 昆虫 馬おい うまおいむし キリギリス科の昆虫。雄は前ばねの基部に発音器があり、8~9月頃スイッチョと鳴き、雌は尾部に剣状の産卵管を持つ。全長約3.5cmの淡緑色で、頭部及び前胸部は褐色を帯びる。(一)

すいてく 1) 空になって行く 水、空気などが漏れる 少なくなって行く 2) 混雑が解消される [会話] 1) はっしゃんとて (乾燥して) ま こや (これは) 水 一杯いれといた (ておいた) スイテク 言うてな。はっしゃんどる言うてなあ 桶ななあ (が) ひい (日) に 照らしてすると 乾いてて (ていつて) すきまな (が) 出来んのをな (る) のを)、はっしゃんでた言うて 桶な (が) まあ はっしゃんどられ (乾燥して居る) 言うて。

すいとる (好) 好きになっている

すいとる 1) 隙間がある 2) 水、空気などが漏れて居る。[会話] 1) まあ 今日 は 芝居小屋な (が) よお (よく) スイトルなあ言うたりなあ に

げな (人間が) すけない (少ない) 事をなあ せんとえ (銭湯へ) 行きよおったもんでなあ (行っていたので) つんどるか (混んでいるか) 言うて スイトラレ言うて、スイトルよお (ている) 言うてなあ。ま、ぎちづみやれ (大変混んでいる) 言うて、言う時もあるしなあ、スイトラレ ま 今日 は 言うて、して (そして) 医者い (へ) 行てもまあ、一杯 (沢山) おると (居ると) 今日 は つんどて (でいて) 言うて、ま 今日 は がいん (大変) よお スイトルよお言うてな。

すいとる 髪を梳いている。

すいなる 酔っぱくなる。[会話] だいこづけ (大根漬け) つけたけど (が)、塩な (が)、うっすうて (少なくて) ま、スイナル言うてなあ。なあづけ (菜漬け) つけたけど (が) まあ スイナッテタけどなあ (ていつたが) これも食うと (食べると) うまいわれ (です) 言う。

すいの (すいのう、すいなう) (水囊) **【名詞】** 篩の一種 水囊の転略 粒などをふるったり裏ごしに使う目の細かい篩 水囊、古名ミズブレイ 形は篩いの様で目を細かく編み、水と物とを漉し分けるのに用いた (大言海) (志 (御座、布施田、鶴方、神明、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、松、上、張、名、度) [会話] スイノ こお (粉) ふるう、篩。篩の一番 ちっちゃいの (小さいのを)。粉 ふるうのを スイノや (と) 言う。とおしは あらくたいの (荒い) 穀物を通すやんない (でしょう)。スイノ言うのは 粉だけ ふるうの。

すいのみ (すひのみ) (吸飲) **【名詞】** 長い管状の口を持つ急須状の容器。病人に寝たまま水分を飲ませるのに用いる。

すいばん **【名詞】** 底の浅い四角な器 料理、料理の材料を入れるのに用いる 水盤 (台所) の転か [会話] スイバン 四角なおをなあ (のを)、鮎したり なんやかやすんのんな (するの) いれんのも (るのも) スイバン。

すいふく (すひふく) **【名詞】** すいふくべ (吸瓢) の略 中空のガラス容器の中を陰圧にして皮膚に密着させ悪血や膿汁を吸い出す器具 すいだま参照 [会話] 一つ眼鏡かけて 鼻から 吸いきつたと (きってやると) 目な (が) 血まなこん (に) なって、真つ赤ん (に) なるまで ひっついて来て、スイフク かけたよおん (に) なってくの (いくのです)。

すいみつ (水蜜)。すいみつとお (すいみつとう) 【名詞】 果肉が堅く甘味の少ない在来の食用桃に対して、大正初期から全国に普及した果肉が柔軟多汁の改良種に対する呼び名、水蜜桃。(志 (立神)) [会話] スイミットオ 桃のあっかい (赤いのを) の スイミットオ言うて。すもも言うのもあるしなあ、すもも、も、もも、も、もものうち、言うて 舌かんだるよおな すももや (だ) スイミットオや (だ) 言うてな。

すいもん 【名詞】 すまし汁 吸物 (上、阿、伊、南) [会話] スイモン (吸い物)、おすまし (すまし汁) 汁と飯や言うの こころ、だし汁いなあ (へ) とふ (豆腐) 入れて 葱 入れてすると、それ スイモンや (だ) 言うて。麩 入れたり みにいだ (具にです)。スイモンや (だ) 言うて 麩 を ひとつ うつ (一つずつ) 金魚の餌 の あれ を 入れおった わい (入れました)。醤油でした したじ (出し汁) を スイモンや 言うてなあ。

すいり (水人) 【名詞】 1) 水に潜る事 (志、鳥) 2) 潜水を見せ物にする人 [会話] 2) スイリ底入り。スイリい (へ) 昔や (は) 行きよおったもんなあ (行って居ました)。お客さんに見せんのな あ (見せるのです)。水族館みたよなのおな (のようなのが)、それい (へ) ぜん (銭) 放って貰うとそれ ひろて (拾って) お客さんに見せんの (見せるのです)。スイリや (と) 言うて 行きおったわい (行って居ました)。アメリカへ スイリン (に) いた (行った) 言うて 行きよおった (行って居ました)。あやまあ (彼女は) がっこおりて (学校卒業して) スイリン (に) いたね (行ったのだ) 言うてなあ。そすとさいご (その時) その時 剣舞やとか 踊やとか そいな (そんな) 芸も すんねなあ (するのです)。舞台 みたいなの お (のようなのに) いといて (行っておいて) そして 剣舞 踊ったりして そやよって (それだから) スイリいて (行って) 来る にげや (人は) 踊り じょおんなわい (上手です)。剣舞したり なんやかやすんの な (するのが) 上手なの (なのです)。スイリ いて (行って) 来ると なるて (習って) 来て そいな (そんなのを) お客さんに 見せんわいなあ (見せるのです)。海女さんな (が) 海女さん ならんうちん (ならない間に) がっこあがりのおりん (卒業した時に) よお行くわい (よく行きます)。そして 海女さんする 人らでも がいん (たいし

て) 海女な (が) 下手な人ら スイリ行たり しよ おったわい (して居ました)。昔や (昔は) スイリい (へ) 行きや (行けば) はよ (早く) ぜん (銭) に よけ (沢山) なるし、海女な (が) はざんもな (駄目な者は) 行ても (行っても) ちよいとより (少しより) ならせんやんない (ならないでしょう)。そやもんでなあ (それだから) 海女な (が) 下手な人ら (が) スイリい (へ) 行きおったなあ (行って居ました)。見せもんやわい (物です)。金 まいて ひろて (拾って) お客さんに見せたり そして そのあい (間) に 剣舞 踊ったり なあ。なんやかやして お客さんに見せて すんねやろなあ (するのでしょうか)。行て (行って) 来て にげな (人間・人が) 踊り 上手なもん (です)、スイリ 行て (行って) 来ると。

すいり (巢入) 【名詞】 1) 鶏が卵を孵化させるため抱卵する事 2) 婦人が産褥にあること [会話] 1) スイリ。とりな (鶏が) スイリする 言うてなあ 卵 ぬくとめる (温める) のを スイリする 言うて。2) 人間でも お産しとると (していると) まあ 嬢な (が) スイリしとて (して) 言うて 嬢な (が) スイリしとるもんで (している) 言うて 男の人らな (達が) 言うやんかい (言うで有りませんか)。

すう (巢) 【名詞】 ねぐら 食住をする所 [会話] たじこかんなべ (仇名) な (が) ぐみのきい (木) の下で スウ しとりおったやんかい (していました)。自分の家の事を スウも よお建てんと (建てられなくて) 言うてな、おらまあ スウな (が) のおて (無くて) 言うてなあ しやくやがりしとる となあ (借家を借りている) スウな (が) のおて (無くて) まあ 言うて。

すう (簀) 【名詞】 す 簀参照

すう (鬆) 【名詞】 野菜などに生じた繊維質の部分 す 鬆 参照

すう (酢) 【名詞】 食酢 酸性調味料 日本では酢が普及する前は梅の塩漬けで出来る梅酢が用いられた味加減を塩梅と言う語はこれから生じた (志 ((鶴方、布施田、片田、国府)、鳥 (鳥羽、神島)、度、鈴郡、鈴市、三、一、多、上、阿、張、名、伊、北、尾、南) [会話] スウ、スウ 買おて (買って) 来い。さんも (三文) の スウ こおて (買って) 来い 言うてなあ 食べる スウ。

すう (すふ) (吸う) 【他ワ五】 休む 休憩する。[会

話] なんやかや (何や彼や) スウたれまあ (吸ってしまいなさい) 言うてなあ。したじな (すまし汁が) よけ (多く) こぼれるやんかあ (こぼれるでないか) スウたれまあとか、乳 スウタレとか言う、スウも有るし。大工さんな (が) 一服 吸えまあ (吸いなさい) 言うて 一服しょおや 言うて、休も (休もう) 言うのを 一服しょおや (しましよ) 一服スオヤンカア 言うたり、煙草スウにげ (人間・人) は 一服スオヤ (吸いましょう) 言うし。煙草吸わんもな (吸わない者は) ただ休むのん (のに) ちよいと (少し) 一服しょおや、かいだり (疲れた・だるい) のに言うて。まあ 一服迄 きばれよお (頑張れ) 言うて。一服言うのは 休む事、ひといきいれる 言う事 一服言うて。そんしゃ (そうすれば) 煙草な (が) 吸いたいもな (者は) スウし 休みたいもな 休むし。

すう【名詞】 洲 海砂で浅くなって居る所 [会話] 遠浅いのおを (のを) スウや (だ) 言うて、スウい (へ) ややげたて (乗り上げてしまつて) 言うて。舟 漕んどても (でいても) 遠浅い (へ) 行くとまだ 波な (が) 打つとるもんで (ているので) ふっかい (深い) 思うと あつそおて (浅くて) 舟な (が) 進まんで (進まなくて)。

ずう (づう) (頭)【名詞】 頭 かしら ず参照 (志)

すうい【形容詞】 酸っぱい 酸い (三、亀、上、阿)

ずうきん (づうきん)【名詞】 頭巾 (志、鳥 ((坂手)) [会話] ズウキン 言うな 布でなあ 帽子こさえてなあ すんのを (するのを) ズウキン。昔や (は) ズウキンを みな まあう (丸く) たつと いて (切っておいて) へり (縁) つけてなあ ズウキンや (だ) 言うてな こさえてなあ (作つて) 八十八な (が) かぶるよおなのおをなあ (のを) サイロクズウキンや (だ) 言うてなあ あれ 子供らん (に) かぶせよおた (被せて居ました)。

すうくむ 1) 巣を作る (鳥、北) 2) 住む所を作る 家を建てる (志 (甲賀))

ずうずう【副詞】 ずうずうしいさま 無遠慮なさま 厚かましく恥知らずのさま

すうすうする 1) 隙間風が入る (志 (布施田)) 2) 隙間が有る 3) 肌寒い感じ 4) 気持ちがよい 気持ちがよく寝て居る [会話] 1) スウスウとすきま風な (が) 入つてきて さぶいわれ (寒いで

す) 言うたりなあ。4) 気持よお (よく) 寝とんの (寝ているのを) スウスウと 寝とられ (寝ている) 言うてな。3) きもんな (着物が) うつついと (薄いと) おた すこすことさぶいなあ (寒いです) 言うたりなあ、すこすことなあ きもん 着やなはざんわれ (着なければいけない) まだ言うて。はださぶい (肌寒い) のをなあ スウスウと まあ えらい (大変) さぶいわれ (寒いです) 言うてなあ。

ずうずし (づうづし) (図々)【形容詞】 恥を恥とも思わない あつかましい 図太い ずうずうしい [会話] ズウズシ なあ言うてな、あつかましことをなあ、ズウズウシイテ (しくて)。あんな (彼が) な (のは) なんでも くれくれ 言うたりな、人の家 いも (へも) ずかずか 入つてきてまあ ズウズシ なあ あや (彼は) 言うてなあ。あんまり (あまり) おっちやく (横着) なことをなあ ズウズシ うなあ (言います)。

ずうたい (づうたい) (図体)【名詞】 体 ふつう大きな体の意味をこめて用いる (鳥) [会話] ズウタイな (が) まあ おつきいて (大きくて) 言うな (のは) 体のことをなあ ズウタイ ばっか (ばかり) おつきいて なんもよおせんね (なにも出来ないのだ) 言うてなあ。あや (彼は) ま ずぼらやれ (怠け者だ) ズウタイ ばっかで (ばかりで) 言ううなあ。

すうだる【名詞】 酔を入れる樽 [会話] しよいだる (醤油樽) や スウダル や さかだる (酒樽) や 言うて。

ずうっと【副詞】 1) 引き続いているさま 2) いつも 絶えず 3) 随分 かなり (志) [会話] 2) じよっく来んなあ (いつも来る)、あのひたあ (人は) ズウット 来て ばっか (ばかり) おんなあ (居る)。

すうどん【名詞】 具の入らないうどんと、掛け汁ばかりのもの

すうないる 野菜などに鬆が入る。野菜の実が少なく 繊維が多くなる。[会話] スウナイル 言うてな、スウナ (が)、ハイツテきたれ (来た)、まあ、ひいて (一日) きりぼしん (に) きらな (切らなければ) 言うてなあ、あんまり (あまり)、長い事 おくと なあ スウナ (が) イツテキテ、そして、あんまり おつきい (大きく) なりすぎるとなあ、スウナ イツテくんね (入つて来るのです)。

すうなたつ。すうなどおつとる すうないるに同じ
ずうなたつかい (づうなたつかい) 偉ぶって居る
すうなめたようなかお【名詞】知らぬふり 知らぬ顔
(志(布施田)) [会話] 知らん顔、しとるとなあ
(している)、おおた、あやれ(あれ)、へえひつ
といて(屁しておいて)、スウナメタヨウナカオし
とられ(している)言うてな、えんじょ(遠慮)し
たふう(様子)も、せんとなあ(せずに)、ますら
(素面)、みたよんしとると(のようにしている)、
知らん顔しとんね(しているのだ)へえひつといて、
言うてな。知らん顔しとる、とぼけとんの(ている
のを)。

すうにあう 酷い目に合う 徹底的にやられる

ずうにのつて (づうにのつて) 調子に乗って

ずうにのぼる (づうにのぼる) 頭に血が上る 興奮す
る(志)

ずうんのつて 調子に乗って

すえ(末)【名詞】1) 木などの先端 末端(飯)
2) 将来 未来 見込み 3) 末子 [会話] 1)
きい(木)のスエ、2) にげ(人間)のスエ、あや
まあ(彼は)、家のスエやれ(だ)言うてな、あん
ごしとなあ(馬鹿だと)、ずばらみたよな(怠け者
のような)、のな(のが)、出来るとなあ、2) あや
まあ(彼は)家のスエやなあ(だ)、まあ、スエや
れ あいなもんな(あんな者が)出来てなあ 言う
てな 物のはしでも、スエや 言うしなあ。きいの
スエ、言う、と、上の方、とおげんなあ(に)すつて
んじょ、言うね(言うのです)。スエい(へ)まで、
なつとるわれ(なっている)言うて、なんでもなあ
先い(へ)まで、なると おおたまあ、こや、今年
や(は)まあ、ほおな(穂が)出たや(出たら)ス
エい(へ)まで みいな(実が)いったてやらなあ
(入ったとか)。

すえおそろし【形容詞】将来が不安である

すえずえ(末末)【名詞】1) 末を重ねた語 行く末
将来 2) 子供 3) しもじも 下の人の意

すえぜん(据膳)【名詞】1) 女の方から男に言い寄
ること 2) すぐ食べられるばかりに整えられた食
事 3) すぐ出来るようにしてある [会話] 1) ス
エゼン、食わん、もんあ(者は)、男の恥。3) スエ
ゼン、してもろてなあ(貰って)言うてな なん
(何)でもなあ じつぱん(立派に)、仕事するよ
んなあ(ように)、だんどり(準備)、ちゃんど(正
しく)、してくれるとなあ、おおた、スエゼンに

してもろてなあ(貰って)、言うてなあ。スエゼン、
言う、と、女の方から、言うてくのと(言うて行くの
と)、2) 直ぐに、食べられる様にしてあるのと、3)
仕事な(が)、だんどりをなあ、してもらうとなあ、
おおた、スエゼンにしてもろて、ま、こや世話なしや
なあ(だ)言うてな。

すえつぼ(末)【名詞】物の先端 はし 末端 [会
話] さわ(竿)の末、はね(釣竿)の すえと
か、その末と 本と 言うよつて(から)、スエツ
ボ言うてもええし(よいし)、はしつぼ言うてもえ
えし。

…すえとられ 盛んにして居る意を表す。[用例]、仕
事しいスエトラレ

…すえとる 動詞について、盛に行なわれて居る状態
を表す 泣きスエトル 怒りスエトル

すえなり(末生)【名詞】1) 果物などで普通の収穫
期の後で結実したもの 2) 末子(員) 3) 弱々し
い人 [会話] 1) とんが(冬瓜)の、スエナリや
なあ(だ)言うて、一番最後になってきたのを、ス
エナリ言うし、2) 子供でもなあ、一番、すえつ子
をなあ、まあ、とんがのスエナリやなあ 2) 2) 2) 2)
こや(こ
れは)言うてなあ。

すえぶた(据蓋)【名詞】置いておだけの蓋、すえ
る(置く、乗せる)蓋 [会話] うちおいぶた言う
て 縁な(が)周りん(に)あつて あつさい(浅
い)蓋で かぶせんのなあ(覆ぶせるのです)、ス
エブタや(だ)言う、よつたり(動いたり)する
やんない(でしょう) 寄らんよおん(寄らないよう
に)うちおいぶた。

すえぶろ(据風呂)【名詞】かまどの上に大きな桶を
載せてある風呂 [会話] スエブローや(だ)言うて
桶 据えて有りおつたんやろなあ(有ったのでしょ
う)。

…すえる【接尾語】動詞に付いて盛んに行う意を表す
どなりスエル(志(布施田)、度、北) [会話] 仕
事 しいスエル 言う時も 有るなあ。なんやかや
やりスエトラレ(ている)。隣な(が)泣きスエル
言う事も 有るなあ。鶯な(が)鳴きスエル 庭で。
子供は 泣ききつてたれ(ていった)言うてなあ。
あやれまあ(あれまあ)泣ききつてたない(ていつ
た)言うて、泣いて 泣いて、泣ききつて(ていつ
て)よお(よく)泣いとるときや(泣いている時
は)泣きスエル 言うて。鳥やどけは(などは)あ
やあれまあ(あれ)鶯な(が)囀つとる(ている)

言う時も 有るけどなあ 鳴いとられ 鳴きスエル
言うて、よけ (よく) 鳴くと。じきん (季節に) なると よお (よく) 鳴くやんかい (鳴きます)。ホーホケキョ ホーホケキョ言うて 鳴きスエル言うてなあ。撲りスエル 撲りスエテおこした とかなあ。普通より (よりも) よけ (多い) の事をなあ言うね やろなあ (言うのでしょうか)。まあ 激しい事を言う うんかな (言うのですか) 一口ん (に) 言うと。

すえる (据) 【他ア下一】 1) 物が動かないように一定の場所に置く 2) 灸をする [会話] 1) 石を、スエルとかな、なんでも、そこい (へ) スエトケ (置いておけ) まあ言うてな 鍋 くどい (へ) スエル 言うてな、しずえい (鍋敷へ) スエル言うてな。

すえる (鱧) 【自ア下一】 食べ物腐ってすっぽくなる (多、上、阿、北、尾、南) [会話] 酸っぱくなる、腐って来る 腐ってくの (ていくのを) スエル。すうなってかれ (なっていく)、こやまあ言うてな 言うねなあ (言うのです)。

すえろくじゅうにち 【俚諺】 死亡前の看病 嫁の務

すか 【名詞】 1) 期待が裏切られる事 当てが外れる事 (志 (布施田)、多、阿、張) 2) 空くじ (阿、張、度、北)

すがい 【名詞】 柔らかくせず、そのままの藁で編んだ縄 すがい (スガフ、次、次々と、次ぐ事) からか (阿、上、伊勢神宮辺) [会話] スガイ のおとけ (編んでおけ) 言うて、じっぱんのわんと (立派に編まずに) さいわらで、打たんと (打たないで) ある藁で さっさと のおて (編んで) 真ん中かららげて (結んで) それ スガイ。

すがお (すがお) (素顔) 【名詞】 1) 化粧の無い顔 2) 酒気の無い顔 (志) [会話] 1) スガオ 言うのは 化粧も なんもしやせん (なにもしないのを)。化粧も なんもせん (全くしない) まっくろけえ (真っ黒) の顔な (が) スガオ (だ) 言う。2) 酒呑んどらん時や (呑んでない時には) すめん言うけど、スガオ も すめん も 一緒やけど (です)、今日は 呑んどらん (呑んでいない) すめん やなあ (だ) 言うて。

すがき (糞掻) 【名詞】 竹や葦の箆で台所の流しに敷く、箆子 [会話] 流しの 今しゃ (今は) ステンレス (とか) なんやかや (いろいろ) するけど (が)、竹で編んだ スガキ (だ) 言うて。竹を糸ですると 腐ってくもんで (いくので) 針金で編

んでなあ そして 茶碗あろたり (洗ったり) する台にしてなあ 下い (に) 甕 (が) いけてあって (埋めてあって) 水 (が) ザァー と それから 漏ってくの (漏れていくのを) スガキ 言うてな。流しの 今しの (今の) ステン 台の代りやわい (です)。そんな (それが) スガキ 言うて 竹でなあ 編みおったわい (編んで居ました)。今しみたよん (今のよん) コンクリ やなしん (でなくて) 栈 (が) 渡し として (渡しておいて) あるだけで。その上で 茶碗 あろたり 鍋あろたり して、水は 甕 (が) 受けてあって ザー と 漏ってくね (漏れてくのです)。その水を こんだ (今度は) 畑 (に) 皆 持って せせなげ (だ) 言うて、まあ 冬中 担 のとりよおったん (担っていました)。水鏡みたよん 写るよおなのおでも (のでも) こやし (肥料だ) 言うてなあ 流しの あろた (洗った) 汁を せせなげ も 持てよお (持ちなさい) 言うて 箸あろても (洗っても) 放ったると (捨てる) と 怒られてなあ。せせなげも 放んね (捨てる) のだ 皆 言うて 笑いおったねん (笑って居ました)。せせなげ 放る言うて。水みたよ なのおでも (のようなのでも) 皆 畑 (に) 持ち おった のお (持ちました)。それを こやし (大小便) の中い (に) 入れて、うめ として (薄めておいて) 掛け のおを (掛けるのを) おじ や。おじや 一かめ二かめ言うて どんぎれ (大便) とくのん (溶かすのに) その せせなげ を 皆 入れ の (入れるのです)。水は あん ねけど (あるのだが) 真水は どん だけでも (どれだけでも) 綺麗 なよってん (だから) こやし に ならへん やろ (ならないでしょう)。ほやよってん (それだから) どん だけでも 汚れた もん (物) あろた 汁は こやし (肥料) になると 思 うん やろ なあ (思うのでしょうか)。そやよってん (それだから) 米のかし汁や とかなあ (だとか) だいじん しょおった の (大事にして居たのです)。米のかし汁でも 放 ったた 事なら (捨ててしまつたら) それ こそ や (一大事です)。さみ ず (真水) を こやし (に) すると なん やら (なにか) もつ たいないよおな きし よく (気分) がしてなあ。水は もつ たいないも んで (もので、飲み水や 使 い水 (に) せん ならん も んで (しなくてはいけないので)、水 だ だ く さん (無駄に) すると 水 罰 (が) 当たる言うて。さみ ず はなあ もつ たいないよおな気 持ちな (が) し よ お つ た も ん

なあ (して居ました)。さみずを こえ (大便) うめよ (薄めよう) とすると、たあ (田) や 川で汲むのなら ええねけど (よいのだが)、家からの井戸水を こやしい (大便) にあける 言う事は 気持ちな (が) わりかった (悪かった)。せらったなあ (しませんでした)、絶対なあ (です)。そやよってん (それだから) 畑で 川の水 担のて (担つて) 甕 入れたり たあ (田) の水 したりすんのはええんけど (するのはよいが) 家の井戸水をなあこやしい (肥料に) すんのは (するのは) よおせらった (出来ませんでした)。

すかくう 約束を違えられる すか 空 当ての外れる事、又、でたらめ くじなどの外れ (志 (甲賀)) [会話] スカクウ すこたん食わした。あれん (彼に) すこたん 食わされた言うて、嘘言うた言う事を、すかんべかました (嘘ませた) 言うてなあ 人をだます事をなあ。仕事しん (しに) 行くとか なんしん (何しに) 行くとか言うてなあ 約束しといて (しておいて)、まあ それ せんとなあ (しないと) すこたん 食わされた言うてなあ。約束破る事を すこたんや言う、スカ クウタ言うて。

すかざら 【名詞】 嫌な人をののしる言葉、すかざるは、すかざるに同じ [会話] すかん (嫌な) 人を すかんびんや (だ) 言うて、スカザラ、すかんびんや言うてな。

すかざる (嫌猿) 【名詞】 嫌な人を卑しめて言う。[会話] すかんと (嫌だと)、さいご (その時)、おおた、スカザルやなあ (だ) 言うてなあ こんじよな (根性が) わり (悪る) かったりなあ、人のいなん (要らぬ) こと、言うたり、人を じいっと見とたりなあ (見ていたり) なんか (なにか)、すかん (好まない) 人な (が) おるやんかい (居ます・居るで有りませんか)。そすと あや (彼は) スカザルやなあ (だ) 言うてなあ ひとづら (人の顔) ながめて、スカザルやわあ (だ) 言う。自分がきらいやとなあ (だと)、あや (彼は)、スカザルや (だ) 言う。

すかしべ (透屁) 【名詞】 音のしないようにする屁 (員、上、阿、南) [会話] 音させんと (させずに) 足のとも (かかと) で 尻 押さえとると (ていると) プー言わんと (言わずに) スー言う。屁の科目やねえけど (でないが) スー、プー、ピーの三種有り言うて。スー プーは なかなか あれやてや (大変です)。それやよってん (それだから) 人

なかい (大勢の中に) 行くと、へえな (屁が) 出て来ると 音立てると はざんもんで (いけないので) 足のともで 尻のぼら (穴) 押さえといて (ておいて)。スーは 声小さくて 匂い強し言うて、そして (そんなにして) すかすのを スカシベや (です)。へえ (屁) と火事は 元から知らず言うて、屁は 音さえ せなだ (しなければ) 判らせんけど (判らないが) そんでも (それでも) 匂いな (が) して来んのでなあ (来るので)。スカシベや (は) べつん臭おて (特別に臭くて) 声は 小さくて 匂い強し言うて プーは 声大きくして 匂い少なし言うて。

すがしら (素頭) 【名詞】 海女が潜って獲物のない事 (志 (布施田)、鳥 (国崎)) [会話] スガシラ言うな (言うのは)、磯 (海女作業) 行くとなあ なんも 獲らんと (獲らずに) 出て来ると、スガシラで出て来た言うわい (言います)。なんやかや 獲って来る時や (は) ええねけど (よいのだが)、なんも 獲らんと (なにも獲らずに) せんぎりほおても (充分に匍って探しても) なんもおらんと (何も居ないと) そんなり (そのまま) 出て来ると スガシラや (だ) 言うて。

すかす (透) 【他サ五】 1) 透かして見る (志 (布施田)) 2) 音のしないように放屁する (志 (布施田)、松、尾) 3) 体をやすめる 4) その場を離れる 5) 空間を作る (松、尾) [会話] 2) へえ (屁) スカス。3) 体も、スカス、あしこいいて (あすこへ行って) ちよいと (少し) スカシテ こお言うてなあ、ちよいと (少し) 遊びん (に) いて (行って) 言うのをな ちよいと スカシン (に) きたよお (来ました) 言うてなあ。ちよいと (少し) まあなあ 体をなあ スカスよってん (から) だくん (楽に) 休める 言う事をなあ。まあ たんの (飽きて) してきた、ちよいと スカシテこお言うてな、遊びん (に) 行くのをなあ スカシンイク言うて、スカシテきたよお言うたりなあ。1) スカスと よお めえんね (見えるのだ) 言うてな きもん (着物) の じいな (生地が) うつすうてもな (薄くても) おた すけとんな (透けている) こや (此は) 言うてな、スカシテみよまあ (見なさい) スカサな (なければ) めえやせん (見えない) てやら (とか) 言うてな。2) 音のせんよおに へえ (屁) スカスの、へえ (屁) スカシテおこしてまあ くそおて (臭くて)、知らん顔 したんのをなあ (してい

るのを へえ (屁) スカシタよん (ように) しとん
ねなあ (しているのだ) あのひた (人は)。

すかさか【副詞】 1) 刃物のよく切れる様 2) 物に
隙間の有る様 3) 味が無い [会話] 2) スカス
カ (に) なつとんの (なっているのを) なんも
(少しも) まあ 力な (が) のおて (無くて)、なん
でも スカスカやなあ (だ) 言うてな、古う (古
く) なつてくるとなあ この、きもん (着物) なん
や (なにか) じいな (生地が) うっすうなつた (薄
くなった) スカスカやれまあ (だ) ほつたらなはざ
んわれ (捨ててしまえば駄目だ) 言うてな。

3) 食べれる (られる) もん (物) でも なんも
(少しも) うまないのな (が) 有ると こや (これ
は) スカスカ でああ うまないわれ (旨くない) 言
うて。1) 物がよお (よく) 切れると、スカスカ
切れんな (る) こや (これは)、言うて ほっちよ
ななあ (包丁が) よお 切れると、おた こいな
おでも (こんなおでも) こや (これ)、スカスカ
切れんねよお (切れるのだ) 言うてな。

ずかずか (づかづか)【副詞】 ためらわないで遠慮な
く物事を行うさま (志 (布施田)) [会話] あげな
(あんな) いいのくい (言にくい) こと ズカズ
カ 言うねよお (言うのだ) 言うたりなあ。ズカズカ
と 入 って き て 言 う て な。挨拶せんと (せずに) 入
り 込 ん で 来 る と なあ、お お た ズ カ と、人
の家
い (へ) 入 っ て 来 て 言 う て な。ずうずうしい言
う 訳 や わ い な (です) のぶとい (あつかましい) 訳
や
(です)。

すがたなり 形のまま [会話] 稲 撒いたのん (の
に) ふん (振る) ので くんたん こしやえんの
(作るのです)。く べ る と くんたん スガタナリ
で 炭 に なんねけど (なるのだが)、焚いたると
(焚いてやると) はざんねてや (いけないのです)
灰ん (に) な つ て く も ん で (いくので)。

すがたみ (姿見)【名詞】 鏡 全身をうつすことの出
来る大きな鏡 (志 (布施田)) [会話] スガタミ、
鏡 なんがいのなあ (長いです)。体、全体みん
の
を な あ (見るのを) スガタミ、普通 の 鏡 や な し
に
(でなくて) も つ と 大 き い、体、全体 な (が) み
え
ん の な あ (見えるのを)、スガタミ や (だ) 言
う
て な。

すがたみせん 来ない (志 (布施田)) 姿を見せない
[会話] スガタミ セン、ちくでんしてて (逐電して
いって) 言 う て なあ。 あ の な あ ど こ や か や い

(へ) いききつたるとなあ (行ってしまうと) 行
き
き つ て て (行ってしまうと) スガタミ セン 言
う
て な。此処い (へ) ひとつつも (少しも) こんよん
な
つ て く と (来ないように行って) この ご ら
(最近) スガタ、ミ セン 何 処 い 行 く ね や ら (の
か)、ま あ、言 う て な あ、此 処 え 来 や せん (来
ない) 言 う こ と な あ 此 処 い (に) ま あ 来 や せん
(来ない)、ひとつつも こんの を な あ (全く来ない
のを) スガタミ セン 言 う て、ま。

すがたみやせん 来ない 逢わない すがたみ せん 参
照

すかたん【名詞】 1) 約束を破ること 騙される事
すかかう参照 (志 (布施田)、鳥、員、鈴郡、張)
2) 好ましくない人 [会話] 1) スカタン 食 わ し
た 言 う な だ (言うのは) すか 食 わ す 言 う の も 一 緒 で、
だ ま 食 わ し た (嘘言った) 言 う 事 や (です)。約束
破る事 スカタン 食 わ し た。だま食わすな (のは)
スカタン やん かい (です)。スカタン 食 わ す 言 う ね
(言うのです)。嘘 言 う 言 う 事 な あ (を)、だ ま 食
わ し て 言 う て。

すかたんくう 約束を破られる (鳥)

すかたんくわされる 騙される 約束を破られる す
か か う、すかたん 参照

すかたんこかす 騙す 約束を破る すか か う、すか
た ん 参照

すかちん 約束に背いて会えない。行き違いになる
うまく会えない

すかっ【副詞】 1) 整然としている 晴れ晴れしい
(志 (布施田)) 2) 全部 残らず 3) 刃物の気
持よく切れるさま [会話] 1) スカット 言 う な
(言うのは) さ っ ぱ り と 言 う 事 や わ い な あ (で
す)。スカット し や せん な あ (しない) 言 う て、ど
も こ も し と る と な あ (愚図愚図している) は っ き
り し や せん (しない) 言 う 事 を スカット し や せん
な あ 言 う て。天 気 で も 曇 つ と る (ている) ひ い
(日) を 照 つ た り 曇 つ た り す と スカット せん
(しない) 天 気 や な あ (だなあ) 言 う や ん か い (言
います)。気 持 ち で も も や も や し と る と (してい
ると) ま あ スカット 気 持 ち な (が) せん で (し
なくて) 言 う て な。病 気 で も ぱ つ と よ お な つ て
来 ん と (よくなってこない) スカット せん で な あ
(しなくて) 言 う て。なん も か も (何も彼も) 全 部
や る そ い な (そんな) 時 も 言 う な あ スカット や
れ ま あ (やりなさい) 言 う て な あ 全 部 や る 事 を

スカット まあ 皆 放り出したれ言う時もあるなあ。

すがつとる つかまって居る つかまえて居る

すかっぱ スカッパ **Scupper** 【名詞】 舟の上の甲板の排水口

すかど 【名詞】 力の入らない 波の表面だけを漕いでいる櫓の漕ぎ方 [会話] 櫓へ 潮 乗せんと (乗せずに)、うわつら (表面) スカドで漕んどると (漕いでいると)、ひとつも (少しも) 先い (に) 行かせんの (行かないのです)、スカドで 櫓は 軽いねやんかい (のです)。どお (櫓) でも しおん (海水に) 乗せんと (乗せないと) スカド、スカド しゃくって (引っ張って)、おこして言うてな スカド、しゃくって、おこして ほん (本当に) 腹、うったない (打った) 言うてな。

ずがに 【名詞】 もくずがに 藻屑蟹 イワガニ科の中形の蟹。各地の河口や河川に住み、かなり上流まで登る。甲羅は殆ど、四角形で長さは約5cm、体色は暗緑褐色、はさみ足は大きく淡褐色の柔らかい毛が総状に生える。肉は美味、肺吸虫の中間宿主。たちうがに参照 (志、鳥、安、度、北) [会話] 当たり前の匍う がに (蟹) と ちごて (違って)、ひげな (が) 生えて くろういの (黒いのです) ズガニ。

すかべ (透尻) 【名詞】 音のしない尻 すかし尻 (上、阿、張、熊) [会話] すかすことやんかいなあ (です) へえ (尻) すかすのお (のを)、スカベやる (でしょう)。

すがめ (眇) 【名詞】 両眼の視線の一致しない目 ひんがらめ参照 すがみ目の約 スガは細き義 (大言海) (志 (布施田)) [会話] わがとは (自分) 普通の にげ (人) 向いとんねけど (向いているが) 目尻は 横向いとんのな (向いている)、目は横 向いとんね (向いているのです)。そいな (そんなのを) ひんがらめや (とか) からすめや (とか) スガメや 言うて。

すかみたいな 手答えがない 張り合いがない (阿、張、名) [会話] スカミタイナ言うな (のは) 嘘、みたよな (のような) なんも かかり (全く手答え) の 無いのを、なんが (なにが) ここん (此处に) あるかいな (有るだろうか) おもても (思っても) なんも (なにも) 無いよおな 感じな (が) しとる (している)、手がかりな (が) しゃせんのを (しないのを)、それ、スカミタイナあ言うて

言うのな (のです)。食べるもん (物) でも なんやら (何か) スカミタイナあ言うて 食べてもなあ 食べたよん (ように) 無いしなあ なんが なん (に) 食べとんねやら (ているのか)、わからん よおなのおを (のを) たよらない事をなあ言うとな。

すかり 【名詞】 すかるに同じ 海女の獲物を入れる網の袋 (志 (志島、国府)、鳥)

すがり 【名詞】 櫓などを漕ぐ時、その櫓に手を沿えて漕ぐのを助ける人、手助けする事 [会話] どおな (櫓が) おっきいとなあ (大きいと) 一人で 引くのな (漕ぐのが) まあ えらいんてや (大変です) そして スガリな (が) 付くと かあるうて (軽くて)。

すかる 【名詞】 海女の獲物を入れる網袋 すかりとも (志 (布施田)、鳥 (石鏡)) [会話] スカル言うの はなあ 棕櫚で編んだり、糸で編んだり 袋ん (に) してあんのを (してあるのを) スカルや (だ) 言うてなあ。朝鮮行く時やなあ (は) 棕櫚で皆 なあ (縄) のおて (編んで) しよおったけど (して居ましたが) 今しゃ (今は) ナイロンで するよつて (から) 棕櫚より いかつい (強い) けど、棕櫚ですると そんでも (それでも) 二、三年は もつわい (保ちます)。桶とは 別ん (に)、桶んのおを (のを) 今度 ふたくらめ (二度目) 又、かずきん (潜りに) 行くやる (でしょう)。その時の 桶んのおを スカルい (に) 活けといて (ておいて) 舟い (に) さがらかしてといて (吊しておいて) 潮へつけとくの (入れておくのです)。ひぼ (紐) つけといて (ておいて) どまくらい (胴枕に) 引っ掛けといて (ておいて) 海で 潮くれとんの (海水与えているのです)。今は あげな (あんな) 事せんと (せずに) かんこい (舟中の生簀に) 水 しといて (しておいて) かんこの ひい (栓) 抜いといて (ておいて) それい (に) 活けんのおで (活けるので) 今しゃ (今は) あんげん 吊らかしやせん (あんなに吊さないが)。わしらな (が) 大島 やどけい (などに) 行くと、そいな (そんな) スカルやどけ (など) 使う程 よお獲らんし (多く獲らないし) 桶い (に) 入れとくと (入れておくと) 泡ぶいて ぬくとお (温かく) なって、ひい (日) に 照らされて、水よお (よく) 替えると ええねけど なあ (よいのですが) まあ ひい (火) に 当たるとと (していると) まあ 水な (が) 煮えて来るやんない (温度が上がってくるでしょう)。そすと

(そうすると) まあ くだめやどけも (流貝子なども) あおぬいて (仰向いて) 来てしよおった (して居ました)。しろお (白く) なってくと (いくと) 目方 (重さ) も無いし みば (見栄え) も無いし、するけど、今は かんこ (生糞) の ひい (栓) を 抜いといて (抜いておいて) 底から ぼおぼおと あたらしのおな (新しいのが) して来る 活きが (が) ええわい (よいです)。

すがる (糺) 【自ラ五】 1) 頼りとして取り付く しっかりとつかまる しがみつく 2) 手を添える 手助けをする 3) 蠅などがたかる とまる (南) [会話] 2) 団子 食いたきゃ (食べなければ) スガランセ (手伝いなさい) 言うて、粉 挽くのん (のに) 臼で 一人挽いとると (挽いていると) かいだりもんで (疲れるので) スガルと 又 かある いんてや (軽いのです) 二人で こお (粉) 挽くと。 どお (糞) 漕んどても (漕いでいても) も (もう) 一人な (が) うなしよおん (同じように) して、すん (する) のを スガリかけて言うて てったうねえけど (手伝うのだが)。 こお (粉) 挽く時や どお (糞) 漕ぐ時は スガル言うの 二人ですん (する) のを。

すがる 【自ラ五】 **すがる** (末枯) 【自ラ下一】 草や花などが盛りを過ぎてしおれる (員、一)

すかろ 【名詞】 すかどに同じ 潮を乗せないで漕ぐ櫓 [会話] スカロ 言うななあ (のはです) 潮 (海水) 乗せんと (乗せずに) きゅっと 引いて来ると かあるい (軽い) もんで (ので) ごとんと来て 腰骨い (へ) ごとんと当って。下手なもんで (ので) かたげんと (傾けないで) 真っ直ぐん (に) 引いて来ると かあるい (軽い) 代りに 潮な (が) 乗らせんもんで (乗らないので) きゅっと 来るもんで。 そやよって (それだから) こっちやい (こちらへ) 来る時や (は) むこおい かたげて (傾けて) 行く時や (は) こお突いて かたげて 引くと 潮な (が) 乗んね (乗るのです)。 潮な (が) 乗って舟も 進むんけど (進むのだが) スカロやったら (だったら) 舟進ませんね (進まないのです)。スカド ねんばり 言うて。スカドで引いて来ると 下手な まん (者は) どお (糞) 漕ぐの (のが) 下手なし (です)し 力な (が) 無いもの (者は) スカドで引いて なんも (少しも) 舟な (が) 先い 行かせんの (行かないのです)。むこおへも かたげて (傾けて) 前も こおしてすると 潮な (が) 乗んねけど

(乗るのだが)。スカドは どおは軽あるいもんで (ので) しゃくりとばして来ると 腹打つねやんかい (打つのです)。

すかん 好きでない 嫌い 嫌いだ (志、多、阿、張、名、度、伊、北) [会話] スカン 嫌いな事をなあ。スカンヤロめは 尻であかせ言うてなあ。おおたあのひたあ (人は) 嫌いやわ (だ) 言うやんない (言うでしょう)。あのひた (人は) スカンわなあ 言うて 嫌い言う事を スカンなあ言う。

すかんこ 【名詞】 嫌な子供 (南)

すかんとこ 【名詞】 嫌だ、嫌な人

すかんとらし 【形容詞】 好きでない 気に入くない たらしいは接尾語 (志 (布施田)) [会話] スカントラシ すかん事 よお (よく) 似た言葉やわい (です)。スカントラシなあてら (とか)、憎たらしなあとか 一緒の言葉やわいなあ (です)。すかんのも通り越して、それより まだ すかんのを あやなあ (彼は) スカントラシなあ言うて、言うの (のです)。ただ すかんだけやなしん (だけでなくて) まあ すかんのおへ しんにゆう (輪) かけとんねやろなあ (かけているのでしょうか)。

すかんぴやん 【名詞】 嫌な人 好きでない人 すかんぴん [会話] 嫌な人を言う言葉。すかんぴんは もの すごお (大変) すかん (嫌な) 人を すかんぴんや (だ) 言うの (のです)。すかざら スカンピヤン言うて。

すかんぴん (素寒貧) 【名詞】 1) 虫の好かない 嫌な人 嫌いな人 (志、鳥) 2) 非常に貧乏な事 金の全く無い事、又、そのさま 或いは人 かんぴん 寒貧 ひどく貧しい事 す 接頭 形容詞について 普通の程度を越えている意を添える [会話] 1) すかん すかんとらし、よお (よく) 似た言葉やんかい (です)。すかんと さいご (その時) スカン ピン よ (奴) 言うてな、すかん わ (です) 言うて おおた スカン ピンやなあ (だ) 言うもん なあ (言います)。スカン ピンやなあ (だ) あや (彼は) 言うなあ 嫌いな事を、一緒の事や (です)。もの すごお (大変) 嫌いなんてや (なのです)。あの スカン ピンや (だ) 言う事はなあ。2) スカン ピンで なんも (何も) 無い、ぜん (銭) も 皆つこた たり (使ってしまった)り) 物でも 皆 食べた たり (食べてしま)たり) スカン ピンに した た なあ (してしま)った 言うなあ。お金が なんも 無い よん した ると (ようにしてやると)、財布 スカン ピンに し

たたよお (してしまった) 言うてなあ、スカンピンにしたたな (してしまった) 言うて 空ん (に)、なつてくと (いくと) そげん (そんなに) 言う時な (が) 有るわい (有ります)。そすと (そうすると) 嫌いな人言うのと なんも無い言うのと。

すかんべ 【名詞】 1) 約束を破ること 2) 嫌な人 [会話] ₂) スカンベよ言うて。すかんと、さいご (その時) あや (彼は) スカンベエやなあ (だ) 言うてな 好かん人をなあ。

すかんべ 【名詞】 音のしない放屁 (阿、張、南)

すかんべかました 約束を破った 違約した

すかんべかます 約束を破る [会話] すかんべえ言うて へえ (屁) かますこと (嘔ます、食わす)、へえひつて (屁して) かがすこと 言うんやろな (言うのでしょうか)、すかんべえ こいてまあ (して) 言うて。人ん (に) 頼んだことでもなあ したるわい (してあげます) したるわい 言うてなあ 引き受けてくれといっておってなあ (くれて居て) しやせんとなあ (しないと) まあ スカンベカマス 言うなあ (言います)。

すかんべくろて 約束を破られて [会話] スカンベクロテ言う時は、約束を破られて言うことやなあ。したる (してやる) 言うといっておって (ておいて居て) してくれんと (してくれなくて) 言うてなあ。

すかんべこいて 違約する 約束を守らない [会話] スカンベコイテまあ言うて、人ん (の) たのだ (頼んだ) 事でも したるわい (してあげます) したるわい 言うて、引き受けてくれといっておって (くれて居たのに) しやせんと (しないと) スカンベコイテ。

すかんべこかされる 約束を破られる [会話] スカンベココサレルと、約束事でも、すっこかされると (破られると) へえ (屁) かまされた言うて。

すかんやつ。すかんやろ 【名詞】 嫌な奴 (上、阿)

すかんやろ 好きでないでしょう

すかんよ 嫌だ

すき (好) 【形容詞】 自分の思うように振る舞う事 スキ勝手

すきあう (すきあふ) (好合) 【自ワ五】 互に好きになつて居る

すぎうら 【名詞】 杉の木の瘤の多い所 先端の部分 [会話] 松元、スギウラか言うて 松のもと (根元) や 杉のうら 割るよおん (ように) なるとふしばっかで (瘤ばかりで) どいらい (大変) 割りのくいんやんかい (割りにくいのです)。

すきかつて (好勝手) 【形容詞】 【名詞】 自分の都合のよいようにするさま 自分の思いのままに振る舞う事 [会話] わがと (自分が)、すきなよおな事ばっか (ばかり) して、スキカッテにしてまあ、そいな (そんな) こと なつてくんの (来るのは) 当り前やれ (だ) 言うてな スキカッテなことばっか (ばかり) して言うてなあ、自分がしたいよおん (に) してなあ 思うよおんしてまあ 人のこた (事は) かまわんと しとんのをなあ (しているのを) スキカッテなことばっか (ばかり) してまあ。

すぎかわ (すぎかは) (杉皮) 【名詞】 杉の幹から剥ぎ取った樹皮

すぎげた (杉下駄) 【名詞】 杉の木で作った安物の下駄 (上、阿)

すぎざめ (鋤鮫) 【名詞】 さかたざめ サカタザメ科の海魚。体は扁平な鮫型。胸鱗は口より前に始まる、第一背鱗は腹鱗より著しく後位、胸鱗と腹鱗は密接する、口前吻長は口幅の3倍より大。両鱗間の距離は第一背鱗基底長の3倍以上。体色は一様な淡褐色。形が鋤に似ているので、或は杉の形からか。(志、南、熊)

すきしゃ (好者) 【名詞】 1) 物好きな人 2) 好色な人

すきすき (隙々) 【形容詞】 隙間の多くある事 空席の多い事 [会話] にげな (人間が) すいてたよつて (少なくなったから) 入るや (入りましょう) 言うのと、スキスキやつたよお (だった) 言うて にげな すけないと (少ないと)。

すきずき (好々) 【名詞】 各人の好み次第

ずきずき (疼) 【副詞】 傷の痛むさま (志 (布施田))

すきっぱら (空腹) 【名詞】 すきはら 空腹を強めて言う [用例] 薬 飲んでて (でも) スキッパラい (に) 飯 喰うたよおん (ように) そげん (そんなに) はよおなるかれ (早くよくなる)。

すぎでつぼ 【名詞】 竹で作り、杉の実を弾にする 子供の玩具 杉鉄砲 (上、阿、熊) [会話] スギデッポ言うてなあ 杉のみい (実、種子) を こめといて (詰めておいて)、しよおつたんなあ (して居ました) 子供らな (が) あれやてやら (あれだとか) かぶろのもも (実) やてやらなあ そやけど (しかし)、スギデッポは ちっちゃあいのおでなあ (小さいので) あの ほつそおい (細い) 竹で しよおつたな (して居ました)、スキデッポや (だ) 言うてな みずでつぼあ (水鉄砲は) 水だけ こお 吸

うといて (ておいて) しゅつとなあ。紙、噛んどいて (ておいて) しよおった (しました) あや (あれは) かみでつぽ (紙鉄砲) 言うのな (です)。

すきどおし【名詞】 恋人 恋仲 (度、南)

すきときらいといっしょにきたら、ほおきたてたり、こかしたり【俚諺】 ざれ言葉 [会話] きす (すき) と、かんす (すかん) と 一度ん (に) 来たや (来たたら) かんすかやして (すかん帰して) きす 泊めた言うてなあ スキト、キライトイチドニキタラ ホオキタテタリ、コカシタリ 言うて。

すぎとられ 身分以上である

すきに 自分勝手に 思うように

すぎのきのまご【俚諺】 杉の木を焚いた時に出る火の粉を防ぐ言葉 [会話] 杉の木 焚くと 火の粉な (が) ばちばち 跳んでくんね (来るのです)。そすと (そうすると) やけずって (火傷して) 火ぶくれん (水膨れに) なったり、磯ジョッキも ぼら (穴) あけて 焼いたたりすんね (てしまったりするのです)。そやもんで (それで) 杉のきい (木) 焚くと スギノキノマゴや (だ) 言うて、くべる (燃やす) 時に そげん (そんなに) 言うて くべると 火な (が) 跳んで来やせん (来ません) 言うて。

すぎのずうきんかぶる 舟が転覆してその船に覆われる [会話] 舟まけたて (転覆させて) 舟の下敷きん (に) なつてくと (いくと)、スギノズウキンカブル。舟は杉で 作って有るやんない (有るでしょう)。

すきま【隙間】【名詞】 隙の時間 間の時間 (南)

すきめ【隙目】【名詞】 隙間 (志 (布施田)、一、飯、張、名)

すきもん【名詞】 物好きな人 好色者 好者

すぎもん【名詞】 身分以上の物 すぐれた物 過物 過者 [会話] のら (お前達) に スギモンやれ (だ) そや (それは) 言うて、身分以上やなあ (です)。

すきやう (すきあう、すきあふ) (好合)【自ワ五】 互に好きになって居る

すきよとる 互に好きになって居る

すぎる【過】【自ガ上一】 1) ある数量や程度に比較して、それ以上になるさま (南) 2) その人の身分、地位やその場所の様子などにふさわしくない程、物事の度合いが高くなる。分を超える [会話] 1) スギル、仕事な (が) スギタンやれ (のだ) まあ。

2) 体、ねうちん (様子に) あわんこと すると、そや のらん (お前に) スギトラレ (ている) 言うてなあ。身分以上やなあ (です) のら (お前) に まあ すぎもんやれ (ものだ) そや (それは) 言う。

すく【結】【他カ五】 結く 糸で網を編む

すく【透】【自カ五】 透く 田などに大水が出た後で次第に減る 桶などの水が次第に減る 漏れ出す 少なくなる

すく【鋤】【他カ五】 土地など高い所を低くする

すく【梳】【他カ五】 頭髮を調える 櫛を入れて髪をとく [会話] 腹な (が) スク言うし、高いとこ (所) を ひっくうすん (低くする) のを スク言うし 水がスク言うのも 有るし。水な (が) 漏れてくの (を) (いくのを) スク言うて すいてたな (すいていった)、はっしゃん (乾燥して) いて、水あ (は) すいてて (ていって) なんもねえ (無い) 言うてなあ。漏れ出して なんも無い 空ん (に) なつてたれ (いった) 言うし。たつかいとこ (高い所を) 土スイタル (てやる) 言うてなあ。物がすくのお (少なく) なるのもスク。芝居などで にげな (人間・人が) 減つて くのも (いくのも) スク。にげな すいてたよつて (から) 入るや (入りましょう) 言う時も 有るし。網スク 網を編むのを スク言うんよつてん (言うから)、網 編む言わせんね (言わないのです)。網スク言うねよつてなあ (言うのだから)。スク言うのは 新し (新しい) 網を はな (始め) から ずうつと 作るのおは (のは) 網スク言うのなし (言うのです) 今度 そんな (それが) 破れとんのおは (破れているのは) きよる言うのなあ そくらいすん (修理する) のをなあ。頭をスク 髪スク 梳き櫛 スク言うのなあ。腹な (が) スクも有るし 人な (が) 空いてくのと (いくのと) スクのも有るし 人な (が) スクのと 嫌も有るし、好き嫌いの スクと。芝居見に いたや (行ったら) にげな すいてたよつて 入るや 言うのと すきすきやつたよお (だった) 言うてなあ にげな 少ないと。

すく【剥】【他カ五】 薄く削り取る そぐ

すく【空】【自カ五】 腹が減る

すく 1) 客が減る 2) 空間が出来る (志)

すく【好】【他カ五】 1) 多情 好色である 異性に好意を持つ 2) ある事を好む

すぐ【直】【副詞】 時間、距離を置かないさまを表す

語 [会話] まあ、あの人な (が)、来たらスグ
(に) 仕事い (に) かからな (なければ) 言うのも、
一緒や なあ (です)。あの人な (が) 来たらまあ
スグと (に) 仕事い (へ) かかって言うたり、ま
スグん (に)、でてたどよお (出て行った) 言うた
りなあ、あや (彼は) あげん 言うたや (あんなに言
ったら) スグん (に) 来たれ (来ました) とかなあ。
ただちに言うことや な (です)。時間おかんと (ず
に) タツタスグ言うのをなあ、たつたいまし (今)
言うてな、たつたいまし そこい (へ) でてたれて
やら (出ていったとか) 言うてなあ。今のは、時間
やけど スグ そこや スグん (に) そこん (に) そ
やれ (それ) 言うてなあ。

ずく (づく) (尽く) 【名詞】 根性。性格 (津) [会話]
あんな (彼は) 腹わりや なあ (悪い) 言うて、ズク
な (が) わり (悪い) 事 こんじよ な (根性が) わ
り 事言うたり したりして 人に わり 事すると
あのひた (人は) ズク わり や (悪るだ) 言うて。

すくい (すくひ) (掬) 【名詞】 穀物を掬うための農具
(志) [会話] スクイ言うな なあ (のは)、つぶ
もん (穀類) すくん (のは) (掬うのは) みい (箕) の
ちっさい の (小さいのです)、きい (木) で こさ
えて あん の (作って有るのです)、スクイ言うの な
(が) あつて。麦でも、米でも、すく よ お つ た ん や
ん か い (掬くって居たのです) みい (箕) の ちっ
ち ゃい の お で な あ (小さいので) きい み た よ な も ん
で な あ (木のような物で)、スクイも 今 し ゃ (今
は) なん も な い し な あ (有りません)。スクイでま
あ なん で も す く つ て な あ あの米でも、麦でも、
スクイに 一杯つまあ言うてなあ、たい が い (大
体) 一升ぐらいなあ、みい (箕) の ちっさい の
(小さいのです) そ す と 一升ぐらい はい ん ね ん
な あ (入るのです)、大きいスクイはなあ。

すくう (すくふ) (巢) 【自ワ五】 1) 巢を作る 2)
住む 3) かくれる [会話] ₃₎ スクウ、あしこ
いすくど れ (んでおれ)、言うてなあ。雨な (が)
降って来た あ し こ (あすこ) の軒い (へ)、すく
んどれ とかなあ、あのきい (木) の 陰い (へ)
行て スクウとかなあ。

すぐから 【副詞】 直に すぐ (志)

ずくし (熟柿) 【名詞】 1) じゅくし よく熟した柿
(志 (浜島、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安
乗)、鳥 (答志)、多、伊) 2) 果物の熟した物
[会話] ズク シ 言うの 柿 の ズク シ 言うのな あ (で

す) じゅく言 わ せ ん ね (言わないのです) ズク や
(です)。子供ら な (が) お手玉で遊 ぶ の ん な あ
(遊ぶのに) ど こ や ら の (どこかの) 裏 山 柿 山 ず
く し 言うてなあ “柿のズク シ も な つ た け ど 隣 の
子ら ら に 皆 取 ら れ 後 に 残 る は き い ば か や
(木ばかり)” 言うて 遊 び 事 し よ お つ た な あ (し
て居ました)。ど ん つ ば き す ん の (お手玉するのに)。
よ お (よく) 熟した柿を あ か ら ん だ (赤くなっ
た) 事を ず く (熟) した言うて、₂₎ なん で も
あ か ら む と 熟して、今で言う 熟したのを ズク
シ や (と) 言うね。まあ ズク シ て 来 た れ (来まし
た) あ や あ れ (あれ) 無花果な (が) とか言うてな。
落ちる時期ん (に)、なつて来ると ズク シ や
(だ) 言うてなあ。柿だけや な し ん (で無しに) 他
のも ん (物) でも なん で も 赤 ら ん だ の お を (の
を) ズク シ ん (に) な つ と ん ね よ お (なっているの
だ) 言うて。ぐみでも ズク シ ん (に) な つ と ん な
い (なっている) 言うて、ぐみや い た ち ん ぼ (楨
の実) でもなあ 赤 ら ん で 来 る と。食べ も な (物
は) なん も 無 い し、昔や (は) い た ち ん ぼ や (と
か) ぐ み や ぐ ま ん じ ょ の み い や (実だ) 言うて
時期な (が) 来ると い ま ど き や つ ら (今頃だつ
たら) い た ち ん ぼ な (が) あ か る で (赤らんで) そ
こ ら ん (に) お つ と る (落ちて居る)、それ ひ ろ
て 食 う た り (拾って食べたり)、ぐみの渋いの 食
う て 尻 い (に) つ ま ら か し た り (つまらせたり)。
広の浜い (へ) よ け (沢山) ぐ み 取 り ん (取りに)
い き よ お つ て な あ (行って居ました)。そしたら
私や (は) 大阪い (に) 六年も い と り よ お つ て
(行っていて) 松のき い (木) も なん も (全部)
無い よ ん な つ て て (ようになっていって) あの立派
な 松 林 な (が) 台風で 皆 枯 れ て て (てしまっ
て)、台風ば か や な し ん (ばかりでなくて) あ や
(あれは) 油かけて 枯 ら し た 言うて。そ や も ん で
(それなので) わ し ゃ (私は) 大阪から来て 掛 け
(買掛) 集 め ん (に) 行 た や ん か い (行って居まし
た)。そ す と ま あ (そうすると) 一つも 松 の 木 や
(は) 無い や ん な い (でしょう)。そ や も ん で (そ
れなので) そ こ で 一句読んであ “広の浜 松の林
の影も無く 友と ぐみ取る 細道恋し” 細道も
くぐって行き よ お つ た や ん か な (行って居たので
す)。ぐみ取りに き い な (木が) 繁つ て 松のき
い (木) の あい (間) になあ 入 つ て く (いく)
と こ な (所が) 判 ら ん で (判らなくて) ど っ か ら 出

たねやら (どこから出たのか) 出るとこな (所が) 判らんよん (判らないように) なってて (てしまつて) 道の無いとこ (所) へ ほっそおい (細い) 道こさえてなあ (作つて) それを たどつていきおつてもんで (行って居たので) こお こんだ (くぐつて) すると じゃおつく (いつも) 通るとかあ (所は) こんだけ (これだけ) あいとて (開いていて) その道 探しても うつぶいて (俯いて) 上見やんと (見ずに) 下向いて 歩きよおつたの (歩いて居ました)。

ずくずく (づくづく) 【副詞】 腫れ物などの痛む様 [会話] ズクズク やめて (痛んで) 言うて、うづく (鈍痛のする) のを おおた (ああ) はあな (歯が) ズクズクやめて とか、出来もんな (物が) 出来たや (出来たら) 膿んでくのかして (膿んでくるらしく) ズクズク よんべや (昨夜は) やめて 言うてなあ 気持ちな (が) わりいて (悪くて) ズクズクやめて 言う。はあな (歯が) ズクズクやめたり (痛んだり)、出来もんな (出来物が) 膿んで来る時の やめんのなあ (痛むのを)。ズクズクと つうんつうんと すんねてや (するのです)。それをなあ ズクズクやめて 言よおつたの (言つて居たのです)。昔や (は) まあ その出来もんな よけ出来よおつてなあ (多く出来て)、そすと (そうすると) 出来て来た時や (は) ちよいとしとんねけど (少ししているのだが) 膿持つと (化膿してくると) ズクズクと よさり (夜) 寝るとなあ やめて。はあ (歯) でも やめんのおを (痛むのを) ズクズクはあなやめて (歯が痛んで) きしょくなわり (気色・気持ちが悪い) 言うて。昔や (は) おできな (出来物が) よお出来おつたわい (よく出来て居ました)。そすとさいご (その時) 膿持つ前んなあ (に) やめんねやんかい (痛むのです)。そすとまあ (そうすると) 膿 まうみしたると (真膿してやると) 晝 (青く) なって来ると、よけ (あまり) やめやせんねけど (痛くないのだが)、青 (青く) なるまで やめんねてや (痛むのです) ズクズクと。まうみん (に) なる迄の ちよいと (少し) 赤味持った時ん (に) やめんの (痛いの) ズクズクと。まうみ 青黄色い 色ん (に) なんの (なるの)。膿な (が) 青お (青く)。まあ (もう) 潰したれ (潰してやれ) 言うてなあ はよ (早く) 針の先 焼いとて (焼いておいて) 潰せ言うてなあ 針の先をだ 微菌な (が) 無いよん (ように) そんでも

(それでも) そんだきや考えとんね (それだけは考えているのです)。針の先を マッチの棒で 焼いとて (ておいて) ちゅつと 突いたると (突いてやると) 膿な (が) 飛び出してくんねやんかい (来るのです)。そすと (そうすると) こんだ (今度) は その後い (に) じゅうやく付けたり 色々の事して 治しおつたの (治して居たのです)。

すくだ 隠れた 住んだ [会話] スクダ。おおたこや、スクダれまあ 此処い (に) 言うて、はよ (早く) スクドレよ (でおれ) 言うてな。そして子供らん (に) そや ほつぼな (鼻が) くんど (来るぞ) はよ スクメ言うとなあ、きもん (着物) かぶつて しょおつたやんかい (して居ました)。

すぐち (素口) 【名詞】 1) 客客に湯茶の接待をしないている 2) 飲食しないている 3) 食物の無い事 [会話] 1) スグチ言うな (言うのは) なんも食べやせん (何も食べないのを)、なんも食べんと (食べずに) スグチで帰してなあ ちゃあ (茶) も出さんと (出さずに) スグチで言うて。

すくで 【名詞】 藁ぐず 藁袴 (志 (布施田、国府、安乗)、伊) [会話] 藁の スクデ 尻拭きになあ 藁を こお すぐつて 新らし (新しい) 藁を。すぐる言うな (のは) スクデを取んのを (取るのを) すぐる言うね (言うのです)。すぐつて (ておいて) そして それをなあ 尻拭きん (に) すんのなあ (するのです)。鎌で このくらいん (20~30cmに) 長さん (に) 切つて からげて (束ねて) 家い (に) 持て (持って) 来て 便所のつかいぜん (尻拭) に 入れよおつたね (入れて居たのです) 昔や (は)。そして 打つたこおんのおは (粉のものは) やいこおて (柔らかくて) ええねけどなあ (よいのですが) 尻に ひつついてなあ はざんのおでなあ (駄目なので)、そんで (それで) あらくたい (粗い) すぐつたのおを (のを)、切つて からげて持て来ると そやなあ (それは) 痛いんけど (痛いけれど) 尻い (に) 埃な (が) 付かせんねやんかい (付かないのです)。藁に 節から 出とる (出ている) はあ (葉) が だれとんのな (ているのが) 有るやがな (でしょう)。そのはあ (葉) を 根本んのおを (のを) 千切つたんねやんかい (千切つてやるのです)。中の芯だけを じゃおり (草履) 作つたり なあのおたり (縄なつたり) すんのなあ (するのです)。その はかま言うて その はあな (葉が) 枯れて 下る あれをなあ 千切つ

たんの (千切ってやるのです)。一番 おおかわ (大皮、外皮) を すぐつたる (てやると) わけ、すぐつたんの (てやる)。それを 尻拭き になあ すんね (するのです) スグデを。

すくで 隠れて

すくでく 萎縮する 縮む [会話] スクデク言うな (のは)、稲でも 泥から よお 首あげてこんと なあ (来なくて) ほかんな (他ののは) 肥料な (が) やってあるもんでなあ (もので) ひい (日) 一日とまあ おっきいなんねけど (大きくなるのだが)、いもちな (が) 付いたりすると まあ おっきいならんと (大きくならずに) ただまあ 下い (へ) ちっそお (小さく) なってな ずりこんでく のなあ (落ちて行くのです)、スクデクね (のです) まあ いもちで スクデクよお言うてな。栄養 よおとらんと (取れずに) まあ にげ (人間) で言うともあ 肺病で 痩せ乾いてく (ていく) よおな もんやなあ (ものです) 立枯な (が) いく言うよお なもんや (ものです) まあ なんもなあ (少しも) ま よお おっきいならせんの (大きくならないのです) スクデクの そこだけ まあなあ だんぼち みたよん (穴のように) なってく (て行く) 時な (が) 有るわい (有ります) まあ こや (これは) いもちな (が) 付いて言うてなあ。

すぐと (直) 【副詞】 時をおかないで ただちに 間をおかないで 直接 (志 (片田)) [会話] スグト、今し (今) スグト 先生な (が) 来い 言うたや (言ったら) ま、スグト来たれ (来ました) 言うてな。直ぐに言うんか 時間をおかんと (置かずに)、ほん (本当に) たった今し (ただ今) 言うて、たったいましまあ来たない (来ました) 言うてなあ。

すくどて 隠れて居て [会話] 今日 誰もおらせん (居ない) 思て (思つて) 浜い (に) 行くと、舟の影い (に) 皆 スクドテ わわお言うて 出で来て、人垣ん (に) おおて (あつて) しまいにや (終りには) 桶も 皆 取られたんね (取られてしまうのです)。

すくどる 体を小さくして隠れている 潜っている (志 (甲賀))

すくどれ 隠れておれ 体を小さくしておれ

すくな 【形容詞】 少ない事

ずくなし 【名詞】 根性無し 意気地なし ずく参照

ずくなわり 根性が悪い ずく参照 [会話] ズクナワリ言う こんじよなわり (根性が悪い)、心な

(が) わり人 を ズクナワリ言うね、ズクナワリやとか (だとか) はらわりやとか 言うて。

すぐに (直) 【副詞】 直ちに (志 (鶴方、浜島、志島)、鳥 (坂手))

すくのお 少なく (北)

すくのな 少なくなった (北)

すくむ 【自マ五】 身を縮めて小さくなる 物陰などに かくれる (三重県全域) [会話] そこい (へ) スクモヤ (すくみましょう)、そこい スクメまあ (すくみなさい) 言うてなあ、さぶい (寒い) 風な (が) 吹いて来た そこい (に) スクメまあ 陰い (に) 言うて。隠れる事 スクム言うてなあ。犬や猫でも あすこい (あそこに) スクドラレ (すくんでいる) 言うて なんか 陰い (に) スクムとなあ。人間も 物陰い (に) 隠れても、鳥も猫でも スクムのなあ。鳥も あしこ (あその) のきい (木) の陰い (に) はあ (葉) へ スクドラレ言うし 猫も スクダレ (隠れた) 言うし。スクム言うて 小屋の中い (に) 入つてなあ、狭いもんで (ので) 充分に立つたり 出来やせんねやんかい (出来ないのです)。そやもんで (それで) スクム言うて。スクンドレ (でおれ) 言うて。体をちっちよお (小さく) して、雨な降つて来たよつて (から) 小屋い (へ) いて (行つて) スクモヤんカ (かくれましよう) 言うて。しよずくなつて (中腰になつて) 狭いもんで 一杯入られやへんもんで (入れないので) しよずくなつて。冬ん (に) なると、綿入れやとか (だとか) 大きなはつぶい 着よおつたもんで (着て居たので) 道歩いとて (て居て) 風が吹いて来ると、早よ (早く) これい (へ) スクメ言うて こらら (子供) を 両方い (へ) はがいえ (羽) を 包む よおんな (ように) 鳥のはがいみたよんして (のようにして) しよおつたわな (しました)。

すくめる 【他マ下一】 身体を小さくする 隠れる

すくも (檜) 【名詞】 榎穀 米を包んでいる外皮 (志 (浜島、鶴方、立神、志島、国府、安乗)、鳥 (本浦)、度) [会話] 榎穀の事 なあ スクモ言うの。米のかあ (皮) 上皮 を スクモ言うの 榎穀を。芋 つぼい (へ) 入れたり、くだもん (果実) も こんで (これで) 活けたの (のです)。

すくりめし 【名詞】 米を炊いた時、中央の米の部分だけを掬った御飯 中央からすくう御飯 [会話] 麦飯の中へ 米を入れといて (入れておいて) 米のと こ (所) を 皆 こねたらんと (混ぜ合わさずに)

米のとこだけ 擲つといて (でおいで) 後をこねた
の (混ぜ合わすのを) スクリメシ 真ん中で 擲つ
て来るもんで (ので)。

すくりん【名詞】 大きな貝殻で小さな貝殻をすくう遊
び

すくる 擲う 網などですくう 柄杓などですくう
(志 (鶴方、立神、安乗)、上、阿、張) [会話]
すくってこい言うてなあ、どじょお スクルでや
(とか)、めだかスクリん (に) 行けとか言うのも
あるし、なんでも (なにでも) そこい (へ) つぶも
んな (穀物が) あると、それ すくってくれ (下さ
い) 言うて、言うしなあ。

すぐる(選)【他ラ五】 1) より分ける 藁など使用
する部分としない部分をより分ける (志 (布施田、
鶴方、神明、立神、国府、安乗)、張) 2) 終了す
る 終わる シスグル [会話] 1) 藁 スグル
こやってこやって こ すんのをな (するのを) ス
グル そして にげ (人間) でも、スグッタよおな
なあ (ようだ) 言うてな、賢こいのおや (のだと
か)、偉い人ばっかなあ (ばかり) こ すると ス
グッタよおな (だ) 言うてな えりスグッタよおな
人らやなあ (だ) 言うてな。2) 仕事な (が) 終
るとまあ、よおよお (ようやく) シスグル言うて。あ
の子らな (が) はしか (麻疹) しても はしか シ
スグル言うてなあ、よお言よおったなあ (よく言っ
ていました)。

すぐれやせん 不健康である 気分、調子が悪い
[会話] 具合いな (が) わりて (悪くて) 体な
(が) しゃんと せん (しない) 時でも よたよた
しとんなあ (している) あや (彼は) まだ 体な
(が) スグレヤセンねなあ言うて。

すぐれもん【名詞】 勝者、物 すぐれて居る人 立派
な人、又は物

すぐれる(勝)【自ラ下一】 よい状態である 気分、
調子などがよい 健康である [会話] スグレル。
人よりスグレテ あのかあ (子は) 偉い子やなあ
(だ)、とかなあ。人より、スグレテ よお (よ
く) 走るとかなあ、あのかあ (子は) まあ ほんと
ん (本当に) スグレンネよってん (ているのだから)
言うて、かしこいんよって (賢こいのだから)
言うのをなあ。なんでも、仕事ななあ (が) えらい
と、人よりスグレテあんな (彼が) えらいんでや
(のだ) 言うてな、人並スグレンネよってん 言
うてなあ。気分な (が) スグレンで (なくて) 言う

てな、いつもかも 気分な (が) スグレンで 仕事
な (が) したないね (したくないのだ) 言うてなあ。
今日はまあ、気分な (が) スグレル まあ ええ
(よい) 気持ちやよお (です) 言うたりなあ。

ずぐろい【形容詞】 真っ黒 どす黒い [会話] ズ
グロイなあ言うて。真っ黒やなあ (だ) ズグロイな
あ言う。ズグロイ言うの (のです)。ずぐろい言
わへんけどなあ (言わないが)。真っ黒 言う時も
有るしなあ。そして あんまり濃いのおは (のは)
ズグロイなあ言うて、にげな (人間・人が) 色な
(が) くうろいと (黒いと) おおた あの人の色見
よ ズグロイなあ言うて。

ずくわり 根性の悪いこと 意地の悪いこと 又
その人 [会話] こんじょくさり (意地悪) 言う
のをな、あや (彼は) しょおわりやどお (性根が悪
いぞ)、ズクワリやどお、言うたりな、ズクワリ言
うてな あのひた (人は) ズクナ (が) ワリイテ
(悪くて) 言うてな、こんじよな (根性が) わ
り人なあ。

すぐん(直)【副詞】 すぐに ただちに 早速 (鳥
(答志)) [会話] 父さんな (が) スグン入って来
たもんで (ので) すっての事ん (もう少しで) 見つ
けれんねやった (見つけられるところだった)。

すぐんと【副詞】 すぐに 直ちに 早速 [会話] ス
グント 持てこいよお (持ってこい) 言うて、今し
(今) ちゃっと (さっと)、今し (今) 言う事を
すぐ言うてなあ。スグント持てこいよお とか、ス
グントしたれよお (してしまいなさい) これを言う
たり、スグント言うの すぐ言うのをなあ。

すくんどる 隠れて居る

すけ(助) 手伝う事 助ける事、又その人 (志 (甲
賀)) [会話] スケてくれ 仕事 てつとてくれ
(手伝ってくれ) 言う事なあ。仕事な (が) 張るも
んで (自分の能力以上なので・多いので) ちよいと
スケていえ (少し助けて下さい) 言うてなあ。飯も
もやげておこすと (盛り上げてよこすと) おおた
(ああ) 多いわい (です) スケてくれまあえ (助け
て下さい) 言うて、分けたと (分けてやると) 言
うし。助けてくれ言うのを スケてくれ言う。

…**すけ(助)【接尾語】** 助と人名に多く使われる事か
ら名詞などにつけ、人名化した語を作る 或る特徴
をとらえて、その人の呼称とする。[会話] 人の名
前 後や先い (に) ついて スケベイ言うて。クイ
スケやとか ノミスケ 酒よけ飲むひたあ (人は)

ノミスケや(だ)言うし、飯 よけ (沢山) 食うひたあ クイスケやなあ (だなあ)。ちっさい(小さい)人は チビスケや (だ)言うて。

すけすけ【形容詞】 透けている。物を通してよく見える(志(布施田))

すけっと(助人)【名詞】 手助けする人

すけて(助手)【名詞】 手伝人 助手

すけて 助けて下さい すける参照

すけてくれ 助けて下さい 少なくして下さい すける参照

すけない(少)【形容詞】 少ない 少量 すくない 数や量が小さい すこしである わずかである とぼしい すくなしの転訛。スコイラシ(少甚)の意(大言海)(志(布施田、浜島、鶴方、神明、立神、志島、国府、安乗)、鳥、桑市、員、三、鈴市、鈴郡、安、一、久、松、多、上、張、阿、名、度、伊、北、南)[会話] 少ない事を スケナイ言うのなあ スケナイ 今日 おらげや(俺家は) スケナ カタ よお 言うて じょおし(漁師) でも 大漁 やった かいてや(でしたかと言えば) スケナ カタ よお 言うて。

すげない(素気無)【形容詞】 辛い 思いやりが無い 冷淡だ [会話] つらい 言う事やわい(です)、スケ ナイ 言う事な(は)。

すげないめ 少ない目 少量

すげなかった 少なかった [会話] じょおし でも (漁師) でも 大漁 やった かいてや(でしたかと言えば) スケ ナ カタ よお 言うて。

すげのおて 少なくて

すげのおて 辛くて 思いやりがなくて [会話] スケ ノ オテ 言うの も 辛い 言う事やわい(です)。

すげべ(助平)【名詞】 好色な事 又、そのようなさま その人。末尾母音の消失。スキ(好)を擬人化した語(大言海)(三重県全域)[会話] まあ あや(彼は)、スケ ベ で まあ よっけ(沢山) こお(子) こ さ え て(作って) 言うて、私 ら、こお な(子が) よ け(沢山) あ る も ん で(有るので)、べ つ ん も(特別に) スケ ベ み た よ ん め え る け ど(のように見えるが) 言うて。

すげば【名詞】 藁草履の前鼻緒をつける時に使用する竹製のへら 先を丸く尖らせて後ろの部を二つに割って中に鼻緒になるものを挟む [会話] スケ ボ 言う ね(言うのです)、じょ お り す げ や(草履すげだ) 言う の を、ま え ば な わ(前鼻緒) を つ け る と

き ん(に)、竹 で 藁 は さ ん ど い て な あ(でにおいて)。

すける(助)【他カ下一】 助ける 手伝う スク(助)の口語。スキ(透)を補う義(大言海)(志(布施田、立神)、鳥、員、張、北)[会話] ちよ い と(少し) スケ テ エ マ ア(下さい)、わ し や(私は) 仕 事 こ げ ん よ け(こんなに沢山) 一 人 で よ お せ ん ね よ お(出来ないのです) 言うて、て つ た う(手伝う) 言う 事 スケ ル 言う て な あ、スケ テ ク レ 言う 時 は 助 け て く れ、スケ ル 言う の は 助 け る 言う こ と や わ い な(です)。仕事 が よ お け(沢山) あ る よ つ て ん な あ(から) あ ん た(貴方) も、スケ テ く れ え 言う て な あ。 て つ と て く れ え 言う わ け や な あ(です)、私 一 人 で 出 来 や へ ん よ つ て(出来ないから)、あ ん た(貴方) も、スケ テ イ エ(下さい) 言う ね よ つ て(のだから) 助 け て く れ(下さい)、言う 事 や な(です)。

すける 少なくなる 盗まれる

すげる(挿)【他カ下一】 はめる 差し込む 結ぶ スグ(播)の口語。ツク(着)の転(大言海)(志(布施田、鶴方、神明、立神、国府)、松、多、度、北、尾)[会話] 下 駄 ス ゲ ル と か、鼻 緒 ス ゲ ル と か、ほ っ ち よ(包丁) の 柄 な(が) 抜 け て た(いった) スケ テ ク レ 言う て な あ、ほ っ ち よ の 柄 さ し て く れ 言 わ せ ん ね(言わないのです) スケ テ ク レ 言う ね(言うのです)。ほ っ ち よ でも 鎌 や ど け でも(などでも) 鎌 の 柄 スケ テ も ろ た(もらった) と かな。下 駄 ス ゲ ル 言う の は 下 駄 の 鼻 緒 を 通 す 事 を ス ゲ ル 言う の な(言うのです)。前 鼻 緒 な(が) 切 れ た よ つ て(から) スケ テ く れ 言う て 通 す の お を(のを) ス ゲ ル 言う の。ほ っ ち よ や(包丁とか) な ん か は 柄 の 抜 け と ん の お を(抜けているのを) 直 し て も な あ 柄 ス ゲ ル 言う て、煙 管 スケ テ も ろ た 言う て ら ふ を 差 す の を 言う や ん か い(言います)。

すけろくげた【名詞】 丸い厚い台の下駄 [会話] た つ か あ い の お は な あ(高いのは) スケ ロ ク ゲ タ や(だ) 言 よ お つ た や ん か い(言って居たで有りませんか)。

すご【名詞】 蛆虫 蠅の幼虫 素子(卑賤なもの)からの語か(志(越賀、神明、志島、甲賀、国府))[会話] 蛆 の 事、蛆 な(が) 湧 く。蛆 を ス ゴ や(だ) 言う ね(言うのです)。蛆 言 わ せ ん の な あ(言わないのです)、ス ゴ な(が) 湧 い て 来 た。昔 の お は ス ゴ な(が) よ け お り よ お つ た(沢

山いました) 汚い事ばっか (ばかり) するよって (から)。

ずこ【名詞】 頭 頭の頂き すこたん参照 (志 (布施田)、張) [会話] 頭のズコベな (が) いとおて (痛くて) 言うて ズコベや (とか) ズコや (とか)。

すこい【形容詞】 こそいの、すと、こを入れ替えた語 悪賢い ずるい (志 (布施田、浜島、鶴方、神明、国府、安乗)、鳥 (答志)、員、鈴市、鈴郡、安、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南、熊) [会話] スコイ あや (彼は) スコベエやなあ (だ) 言うて、狡猾な事すると、狡猾な言うて すべっこいとかなあ よお (よく) 似た言葉や (です)。狡猾でも すべっこても (くても) スコイともなあ、悪賢い。人のもん (物) を はんぶ (半分) とて 来たり、よけ (多く) 程とて (取って) 来たりすんの (するのを) あや (彼は) スコイもん で (ので) あやあれ (あれ) 言うて。

すこかす 1) 落す 2) 知らぬ顔をして約束を破る

すごく【凄】【形容詞】 大変 程度が普通でない

すこける 1) 抜け出す (志 (志島)) 2) 失敗する、倒れる [会話] 1) スコケル すっこけて 来た。今日は あしこい (あそこに) 行たんけど (行ったが) 用事な (が) 有るもんで (ので) すっこけて 来た言うて、途中で 抜け出すのを スコケル言うやんかい (言います)。

すこしすこしのじゅうさんばい【俚諺】 遠慮しながら腹一杯食べる事 (志 (布施田))

すこすこ【副詞】 1) 隙間のある事 (志 (布施田)) 2) 肌寒い様 (桑市、南、熊) [会話] 1) スコスコしとんなあ (している) 言うな (言うのを)、きちつと なつとらんと (なつてなくて) あいとる (あいている) 事をなあ。おつきいもん (大きい物) へ ちっちゃいもん (小さい物) すると スコスコやなあ (だ) 言うて きちんと 合わせんのを なあ (合わない)。

すこすこする 肌寒さを感じる (張、南) [会話] 今日はまあ はだぎむいな 言うて、ちよいと (少し) さぶいのおを (寒いのを) スコスコスル 言うてな。ちよいと、肌寒いと スコスコシテ どいら いわりなあ (大変悪いです)、言うてなあ。ま、一枚きもん (着物) きてかな (着ていかなければ) えらい (大変) こや (これは) スコスコスラレ (する) 言うてなあ。

すこた【名詞】 1) 嘘 2) 頭 (志 (布施田、鶴方、神明、国府、安乗)、桑郡、阿、張) [会話] 1) おなごな (女が) スコタ 食わす事を すまた 言う おもた (思った)。

ずこた (づこた)【名詞】 頭 (志 (布施田)) [会話] ズコタ。ずうな (頭が) やめる (痛い)。

すこたん【名詞】 1) だまされること。だますこと。すかたんの転 (大言海) すかくう参照 2) 頭 (志 (布施田)、鳥 (鳥羽、桃取)、鈴郡、鈴市、三、安、一、久、松、多、度、伊、北、尾) [会話] 1) スコタン食わした言うな (言うのは)、だまされた言うのなあ。行く言うといて (言っておいて) 行から ったりすと (行かなかったりすと) スコタン かした 言うて。2) 頭は すこた 言うやんない (言うでしょう)。頭は スコタンな (が) 痛いたら (とか) 言うやんかい (言います) 頭の事もなあ。

ずこたん【名詞】 頭 (志)

すこつく 1) 着物などに隙間が有って少し寒い感じがする。2) 容器に一杯にならない [会話] 1) なんやら (何か) 着物着とても (着ていても) さぶい (寒い) よおな感じの するやんない (でしょう)。それを すこすことさぶいよお (寒いです) 言うて。きもんな (着物が) うつつうて (薄くて) 肌寒いのおを (のを) すこすこして さぶいよお (寒い) 言うて。ちよいと (少し) 肌寒い時ん (に) でも。2) しなもん (品物) の時ん (に) も言うけどなあ。これい (へ) 入れても これ一杯ん (に) ならんと (ならないで) あいとんの (あいているのを) スコツク。

スコップ Schop【名詞】 シャベル 土砂等を扱うのに用いる用具 (度)

ずこつぺ。ずこべ【名詞】 頭 (志、度、伊) [会話] 頭のズコベ 言うてなあ、この皿を言うのなあ。頭のズコベな (が) いとおて (痛くて) 言うて ズコベや (です) 頭のずこや (です)。

すこぬける 1) 抜け落ちる 2) 抜け出す

すこむ すっこむ 隠くれる 引き下る (南)

すごもり【名詞】 巢籠。鶏が卵を孵化させる事、転じて産屋に入る事、更に転じてよく寝る人。病気になって寝る事

すごもる (巢籠)【自ラ五】 1) 産屋に入る 2) 家にとじこもる

すごほおづき【名詞】 蝶の卵 オニサザエの卵囊 [会話] スゴホオツキ言うのは すごみたいん (蛆)

みたいに) よっけんなんの (沢山になるのです) 塊
つてしとんの (しているのです)。

すこよも【名詞】 狡い人 [会話] あのひた (人
は) スコヨモやなあ (だ) 言うて、すべっこい (狡
い) 事 する。

すさ(寸紗)【名詞】 壁土のつなぎとして入れる 10c
m位に切った藁 (志 (片田、布施田)、鳥 (答志)、
桑市、員、伊、南)

すじ(すぢ)【筋】【名詞】 1) 細長く連なっている物
血管 (志 (船越)、鳥 (国崎)、松、阿、張、名、度、
伊、尾、南) 2) 考え方などの全体を貫いている一
本の線 3) 血統 家柄 血筋 (志 (船越、鶴方、
甲賀)、鳥 (国崎)、南) 4) 筋肉 5) 接尾語 細
長いものを数える単位 [会話] 1) 4) てえのスジ
とか 首のスジも あるし。3) それから 人間の
スジも言うしなあ。あや (彼は) スジメな (が) わり
り (悪い) 言うて。スジメな (が) わり。スジメ言
うのは 血統の事をなあ、スジが ええ (よい) わり
りい 家柄が そいなのおも (そんなのも) 言うし
なあ。スジな (が) わりいや (悪いとか)、ええ
(よい) とか言うな (言うのは) 血統も言うし 家
柄の事も。2) 言う事が スジが通らん よこりく
つ (横車・屁理屈) 言うと、スジな (が) 通らん
事ばつか (ばかり) 言う時んなあ (に)。よこりく
つ言うと スジな (が) 通らん (通らない) 事やわ
い (です)。屁理屈 こいて とか よこりくつこ
いて (言つて) とか言うて、まとも (まっとう・本
当) な事言うても そや (それは) 違う こげんや
(こんなのだ) 言うてなあ 言うのな (言うのが)
よこりくつ。4) スジな (が) わりい ここの
スジな (が) いとおて (痛くて) 言う事も言うし
すんばこスジや (だ) とか シンケイスジやとか
(だとか) 言うて。5) てのぐい (手拭) ひとスジ
ふたスジ言うて てのぐいを 一本 言わんと (言
わずに) ひとスジ ふたスジ言うて。てのぐいひと
スジ もろて (貰つて) 来たとかなあ。てのぐい
一本言うて 昔や (は) ひとスジや (です)。2) ひ
とスジ まあ いっしょけんめ (一生懸命) に そ
の人が 好きで 惚れとんのおも (惚れているの
も) 私や (は) あなたに ひとスジや (だ) 言うし
なあ。

すじあい(すぢあひ)【筋合】【名詞】 因縁 わけ
道理 (上、阿) [会話] スジアイな (が) とおらん、
言う時も、あんな (有ります)。お前な (が) 言う

こた (事は) なんも (全く)、スジアイな (が)、と
おとらへんやんかい (通っていないでないか) 言
うてな、理屈 (に) あわんこと言うとなあ、お前
な (が) 言うこた なんも (少しも) スジアイな
(が) とおらせんやんかい、すじな (が) とおらせ
ん (通らない) 言うてなあ、道理 (に) あわん
となあ (合わぬ事です)。

すしおけ(すしをけ)【鮓桶】【名詞】 鮓を作るための
飯を入れて冷ましたり、調味したりする丸い浅い桶
[会話] ゆり言うのは 椀の盥 スシオケみたいな
の。

すしおす 鮓を作る 鮓は押し鮓が主流で有った (関
西系) (志 (布施田))

すじかい(すぢかひ)【筋違】【名詞】 1) 突っ張り
2) 柱と柱の間に斜めにかけてわたして固定するもの
[会話] 2) スジカイ 入れとかなはざんわれ (入
れておかなければ駄目だ) 言うて、家 柱 建てて
も まだ 天井も えごと (完全に) せんとおと
と (しないでいると) ぐらぐら するやんない (でし
ょう)。そやもんで (それなので) スジカイ入れる
言うて はすかいん (斜めに) スジカイ 入れなは
ざんわれ 言うてなあ。

すじかつお(すぢがつお)【名詞】 鯉 まがつお
(志)

すじかわにくない【名詞】 痩せて居る人

すじがわり 素質がない 性格が悪い 血縁が悪い
すじなわり参照

すじくちなあ【名詞】 蛇 [会話] スジクチナアでも
なんでも 種類 問わんと (問わず) ねずみとりで
も まむしやし (ですし) なんでも なあがいもん
(長い物) 見ると まむしや (だ)。

すじこい(すぢこい)【形容詞】 1) 筋が多い 2)
強情だ

すじこぼる(筋張)【自ラ五】 1) 筋肉が堅くなる
2) 血管がよく見える [会話] 2) 怒つて、スジ
コバツンネ (ているのだ) 言うて、額え (に) い
もがら (芋の茎) 干したよんしとる (ようにしてい
る)、ごおなわいてくると (腹が立つて来ると)、こ
こい (額へ) 青すじな (が) こおしてくるやんない
(出て来るでしょう)、そすと ごおわかして (腹
立てて) いもがら ほしとられ (干している) 言う
てな。1) 肩ななあ (が)、指も どこもかまあ
スジコバツテ来たよお、言うてなあ、かつとおなつ
てきたのをなあ (固くなって来たのを)。

すしざら【名詞】 鮓を盛り付ける大きな皿 (南)

すじちがい (すぢちがひ) (筋違)【名詞】 見当違い
間違い おかどちがい [会話] スジチガイやれ
(だ) そや (それは) 言うてなあ、道理ん (に) あ
わんこと、言うて そや (それは) スジチガイやね
えんかい (で無いのですか) 言うてなあ。見当違い
そやまあ (それは)、そいな (そんな) こと 言う
たらまあ スジチガイや (で)、ねえんかい 言う
て。

すしつけ【名詞】 鮓を作る事 [会話] スシツケ言
うのは、巻鮓 巻いたり、さいら (秋刀魚) したり
あげずしたり にぎりもしたり それ全体を ス
シツケ。

すしつける 鮓を作る [会話] スシツケル、言うの
なあ、こしらえるのを、鮓、まくのをなあ スシツ
ケん (に) 頼まれてた (て行った) 言うてな。あの、
すしまくのん (に)、てったいん (手伝いに) 来て
くれ (下さい) 言うて、スシツケに まあ 頼まれ
て言うてなあ。にぎりでも なんでも すしつくる
ことを なあ スシツケル言うの (のです)。

すしな (鮓魚)【名詞】 鮓に使用する飯以外のもの
(志 (布施田)、度、伊) [会話] 鮓の中の こお
(具) の事 スシナ。スシナも こさえとけ (作っ
ておけ) 言うて、鮓のこお の事を、巻鮓い (に)
入れる芯をなあ スシナも こさえとかな (作って
おかなければ) 言うやんかい (言います)。スシナ
炊いたか言うてなあ。この時は 魚の事も言うわい
(言います)。魚のこお (具) も 鮓の中のこお
は 全部 スシナや (と)、言うのなあ。スシナは
こさえといて (作っておいて) 有るし、鮓や (は)
まあ 巻きやええばかや (巻けばよいばかりだ) 言
うの。中のこお を 皆 こさえると (作ると) 魚
も 骨取って さばいて 煎って 摺って、わり
な (ずいき)、ごんぼ (牛蒡) や 人蔘や 干瓢や
言うのを こしらえておいとくと (作って置いてお
くと) スシナも こさえたか (作ったか) 言うてな
あ、そいな (そんな) 時に スシナや (だ) 言うの
なあ。にぎりの上い (に) 載せる 刺身やどけは
(などは) あれもだ 鮓のこおや (具だ) 言うけど
なあ 鮓のこお へんでくれ (剥いでくれ) 言うて
刺身へぐ (剥ぐ) 時や (は) 鮓のこお へんでもら
おやんか (剥いでもらいます) 言うてなあ、刺
身に うっすう、へぐ (薄く剥ぐ) のを 刺身にす
ん (する) のを へぐ言うなあ。うっすう へぐも

んで (剥ぐので) 鮓のこお も へんでもらわなは
ざんなあ (剥いでもらわないと駄目だ) 言うて。

すじなたつとる 道理に叶っている (志 (布施田))

すじなわり 血統が悪い 遺伝病などがある [会話]
スジナワリわれ (悪いです)、あの家や (は)。すじ
めな (が) わり (悪るい) 言うてな、血統な (が)
わりのなあ (悪るいのです)。あの家や (は) スジ
ナワリねよつて (悪るいのため) 言うて。今しや
(今は) まあ そいな (そんな) こと よけ言わせ
んけどなあ (沢山言わないが)、昔やなあ (は)、そ
のすじめな (が) わり (悪るい) 家やなあ (は) き
ろてなあ (嫌って)、嫁な (が) なかよおったね
(無かったのです) 嫁や (とか) もらいてなあ
(貰う人が)。テスジな (が) ワリ 言うてなあ、
じい (字) 書いても、テスジな ワリイテてなあ
(悪るくて)、下手な (の) (もの)、すじな (です)
テスジや (だ) 言うのなあ (です)。テスジな ワ
リイテ まあ じい (字) 下手で はざんね (駄目
なのだ)、言うて。

すしのこお【名詞】 鮓に使用する飯以外のもの すし
なに同じ参照

すじばる (すぢばる) (筋張) 1) 血管がよく見える
2) 筋肉が凝る 筋が緊張して痛くなる [会話]
1) おやじ、スジバツトノオ (ていますね)、言う
たや (言ったら) あらなあ (荒縄) で きびつてあ
んねもん (くくつてあるのだから) 言うて。どいら
い (大きな) どんび (陰囊) 干しとてなあ (出して
いて)。おやじ、スジバツトノ (ていますね) 言
うたや (言ったら)、あらなあで しばつてあんね
もん 言うてなあ、わがとな (自分の) どんびや思
わせんし (陰囊だと思わないし) その、ほかのもん
わ (物) なあ (縄) で しばつとたんやろん (くく
っていたのでしょうか) じいやん (爺さん)、スジバ
ツトルやんかい (ていますね) 言うたや おお、あ
らなあで しばつてあんねもんなあ 言うて。スジ
バルも、すじこばるも 一緒やわいな (です) すじ
こばつとる言うてなあ。

すじひく 1) 遺伝する (南) 2) 線を引く [会話]
2) スジヒイテせな (しなければ) いがましたられ
(歪ましてしまう) 言うて、じい (字) 書いても、
スジヒッパツトイテ (ておいて) 書かな (なけれ
ば) いがましたられ 言うて、いがみんちよん (歪
んでいるに) なつてかれ (行く)、言うてなあ そ
して 畑い (へ) いてな (行つて) 敵 あげてもな

あ スジヒクよん (ように) なあばりしといて (縄張りしておいて) なあ (縄) を、はっといて (張っておいて) 敵あげななあ (なければ)、いがみんちよんしたて (歪ましてしまつて)、ええわれ (よろしい) まあ いがみはちこく (歪み八石) 言うてよお (よく)、とれられ (獲れる) 言うてなあ。いがみ、はちこく言うて いがんどると (歪んでいる) よおとれんねどお (よく獲れるのだ) 言うてなあ、真つ直ぐん、よお あげんで (あげなくて) なあ (縄) をな 張つといて (ておいて) スジ ヒイトイテなあ (ておいて) なあがい (長い) 敵ん (に) なるとなあ いがましたて (歪ましてしまつて)。¹⁾ スジヒクで悪い病気な 遺伝する。すじめな (が)、わりねよつて (悪るいのだから) あの家や (は) 言うてなあ。

すじむかい (すじむかひ) (筋向い) 【名詞】 斜めに向かい合つての事 特に道を挟んで斜め向こう側 [会話] スジムカイ 向い合わせの事 スジムカイ 言うんなあ。スジムカイの人な (が) あんた (貴方) と わし (私) と さしむかいしとる (している) 時に、他のもんな (者が) 話しすんのん (するの)に スジムカイに おつた (いた) 人な (が) だれそれ (誰で) で言うてなあ、その時 向い合せに おる (居る) 人 を スジムカイや (だ) 言うけど。家の事でも 隣の向い合せに なつとるなあ (なつている) スジムカイの 隣な (が) 言うなあ。

すしまく 巻鮓を作る

すじめ (筋目) 【名詞】 1) 血統 系統 すじ参照 (志 (片田、布施田)、鈴市、一、上、阿、熊) 2) 折り目 3) 理由 正しい言動 [会話] ¹⁾ スジメ言うのは 血統の事をなあ あのうちや (家) スジメな (が) わりねよつてん (悪いのだから)。

すしめし (鮓飯) 【名詞】 鮓にする飯。砂糖、塩を入れた酢をうった飯 [会話] すしのめし (飯)。さと (砂糖) と、すう (酢) と 塩と うつて (入れて)、すんの (するのを) スシメシ うつて言うてな。すう、うたなはざんどお (なければいけない)、ひやがつてきたら (水気が無くなつたら) 言うてなあ。今し (今) は、酒や こぶ (昆布) や言うて炊きこんで、するもんで (ので)、飯な (が) うまい言うてなあ、昔やだ (は) 飯だけ、炊いてなあ、すうと さとと 塩を ちよつと (少し) 入れて味つけてなあ うちよおつたね (入れて居たので

す)。

すじょお (すじょう) (素性) 【名詞】 1) 人の生まれながらの血統、家柄、又、その生育した境遇 2) 生まれついでにの性質、物の本来の性質 [会話] ²⁾ スジョオな (が) ええ (よい) こや (これは) すうつとして 真つ直ぐん (に) 曲がらんといくとおおた スジョオな (が)、ええよお (よい) 見よ言うてなあ。²⁾ 人間のスジョオ言うて 曲がらんとなあ (ずに) 真面目なにげやなあ (人間です) スジョオな (が) ええよつてんなあ (よいから) 言うてなあ。

すず (数珠) 【名詞】 じゅず 数珠 仏教で礼拝時に用いる法具の一つ、本来は仏名を称える時その回数を数える物であるが、掌に掛けたり、首に掛けたりして用いるようになり、現在は仏教徒の目印として一般に用いられる。(桑郡、三、四、鈴市、松、多、上、北、尾、熊) [会話] ズズ なもだいしへんじよおこんごお (南無大師遍照金剛) 言う、ズズ。じゅじゅ (数珠) 言うのをなあ ズズ、言うの ズズも、持たんと来たよお (持たずに来ました) 言うてなあ。

すすぎ 【名詞】 藁を積み上げたもの。稲の穂をスズ (和歌山県日高郡) と言ひ、それを積み上げたもの (志 (波切、片田、浜島)、鳥 (答志)、安、上、阿、張、名) [会話] ススキすんのを (するのを) 藁やとか (だとか) 麦藁を ぼおし積んだよおん (ように) 言うて もやがつとると (盛り上がっている) と)。

すずきあら 【名詞】 あら あらます くえ参照

すずきます 【名詞】 ほうせきはた ぶんどます参照 (鳥)

すすく 【動詞】 稲むら 藁を積み上げた物を作る すすぎを作る (志 (布施田)、松) [会話] ぼおし (藁を積み上げた物・海草を積み重ねた物) を ススク。藁やとか (だとか) 麦藁やとか ぼおしん (に) 積むやんない (でしょう)。あれを ススク言うのなあ。ぼおしも こしらえんのを (作るのを) にわあつ、ひつつけて (二束ずつくっつけて) 組んでくのを (いくのを) ぼおし ススク。ぼおしも ススイトカナ (ておかなければ) 雨な (が) 降られ (降ります)。降ると 濡らしたられ (濡らしてしまう) 言うてなあ。藁や 麦藁を こいた (脱穀した) 時 だまけん (雑然と) してあると それを ススイトカナ 雨ん (に) 濡らす言うてな。秋

(秋の収穫の手伝い) 行くと よなべんなあ (夜の仕事に) 一日 こいた (脱穀した) 藁をなあ よさ り (夜) 夕方かけて 二時間位 (ずつ) かけて十も十五も ススキヨおったの (すすいで居ました)。その 一日ん (に) こいた 藁を。ぼおしを たっこお (高く) 積んでくの (行くのを) スク言うの。藁と藁と 組んでくねもんなあ (で行くのです)。 にわつひっつけて (二束ずつくっつけて) ゆわえてすんのをなあ (結んでするのを) ぼおしスク言うね (言うのです)。だまけ言うと こいたのおを (脱穀したのを) 放って有って、たあ (田) に 積んであんのを (あるのを) からげんと (からげずに) ゆわえんと (結ばずに) 積んであんのを だまけんしとる (にしている)。

すすぐ (濯) 【他ガ五】 1) 水で洗い清める 2) 汚名を除く

ずずぐる 1) 数珠をまさぐる 数珠玉をかぞえる 2) 口ごもる はっきりとしない [会話] 2) へえ (屁) ひつても、巫子な (が) ひつたと思うなよ、死んだ仏が ひつたぞ言うて。巫子寄せると ねぶったよん (眠ったように) 言うて、ズクッテ 嘘みたよおな (みたいに) 寝ぼけたよおな事言うて。

ずずぐろい (黒) 【形容詞】 黒い じじぐろいの変化した語 (張)

すすける (煤) 【動カ下一】 1) 煤に染まって黒くなる 2) 転じてぼやける 全体に明るさが無くなる

ずずご 【名詞】 だんごむし 節足動物 甲殻類等脚属 体長一糎位の虫 細長い小判型で背は丸みを帯び、刺激を受けると体を丸く曲げ 団子のように丸くなるので この名が有る。色は薄黒い物が多い。海岸の湿った砂の中に住むものを はまだんご虫、陸のものを おかだんご虫と言って区別する。[会話] ズズゴ言うると だんごむし。かたまつてくの (行くのです) 当たると きゅつとすると まるくとお (丸く)。ズズゴみたよおななあ (ようだ) 言うて まるくとおなつとると (丸くなっていると)、ズズゴみたよん (のように) まるくとおなつて言うて。これは 浜にも よおおるし (よくいますし)。昔やなあ (は) 浜い (に) 白浜ん (に) よけおりよ おったね (沢山居たのです)。 広やどけい (広の浜などへ) 行くと よけおったね (沢山居たのです)。 そやけど (それだが) 畑に よけおんの (沢山居るのです)。少々の おりかたやない (居方・数ではない)。なんか 物な (が) 有ると それん (に) 真

っ黒ん (に) なつとんのなあ (なっているのです)。 **ずずこなつとる** 沢山なつて居る ずずなりに同じ [会話] よつけ (沢山)、塊まってなつとんのをなあ (なっているのを)、ズズコナツトル (ている)、柿な (が) 言うたり。ぶどおみたよんなあ (のように)、重なつてなつとんのをなあ (ているのを)、ズズコナツトル 言うて、あの家のきいこや (木には) 柿な (が) ズズコナツトル ンネよお (ている) 言うて。よけ (沢山) なつとる (ている) 事なあ。あやれ (あれ) 柿な (が) ズズコナツトル、蜜柑な (が) ズズコナツトル 言うて、鈴な (が) 下がったよおん (ように) ぶらぶらしとんのおで (しているので) 言うんやろなあ (言うのでしょう)。よつけなつとんのおを ズズコナツトル 言うね (言うのです)。

ずずこなり (鈴生) 【名詞】 ずずなり 鈴生り 果実などが神楽鈴のように一杯に群がって、なっている事。

ずずし (涼) 【形容詞】 暑苦しくなくて気持ちが良い 程よくひややかである。[会話] ズズシイ すやすやとしとると (していると) おおた すやすやと、ズズシて (しくて) ええなあ (よい) 言う ずずしい言わんと ズズシ言うね (言うのです)、い言わんとなあ (言わずに)、おおた、ズズシよ (です) ここな (が) 言うて おおた 此処な (が) また どいらい (大変) ズズシなあ (です) 言うてなあ。

ずずしこ (涼粉) 【名詞】 汗取りの粉 亜鉛華澱粉を主成分とする [会話] ズズシコ、言うて まるくたい (丸い) がながん (缶缶) えなあ、ズズシコも塗つてくれな (くれなければ) はざんわれ (いけない) 言うて 子供らな (が) 風呂から、あがるとなあ (出ると) 塗つてくれよおったわい (くれて居ました)。大人でもなあ、あせほな (あせもが) 出る言うて 首たまい (へ) 汗な (が) 出てくると、そして それ振るとなあ さらつとるもんで (なるので)。

ずすだけ (煤竹) 【名詞】 1) 大掃除の時、軒や天井の煤を払うのに使う竹 2) 煤に依り赤黒くなった竹 [会話] 1) 竹切つて 天井 かるやんない (払うでしょう)。そやよつて (それだから) スダケ 言うね。

ずずつなぎ (数珠繫) 【名詞】 数珠玉を糸に通したように多くのものが連なっていること [会話] 便所

で ズツナギん (に) なるんどたやんない (並んで居たでしょう)。ズツナギん (に) なって、言うて。おおい (後ろに、尾に) ついてなあ つなん でくのを (繫いで行くのを) ズツナギ、言うて ずずみたよんなあ (数珠のように) こお 並んで なあ ま うしろいつられやあるいてなあ (後ろいつかまって)、すんのをな (するのを) ズツナギ。ズツナギ、言うのも ずんずんつなぎ 言うのも 一緒やなあ (です)。ずんずんつなぎ、言うにげ (人間) も有るしなあ、ズツナギ言うにげ も 有るしなあ。じゅずつなぎ言うのを、ズツナギ、言うの な (です)。

すすで 1) 進んで 先に立って 2) 好きで 嬉ろこんで [会話] 2) すすんで 言わんと (言わずに) ススデ、いたね (行ったのだ) 言うね (言うのです) すすんでいたね 言うの (のを)。ま 言うて すきでいたね 言う事やけどの (だが)、わが (自分の) 方から、すすんでいた (行った) 言うてな、それを、ススデいた。先ん立った 言うんやなしに (言うのでなくて) 自分と (自分が) まあ いきとおてなあ (行きたくて) 行た 言うのをなあ すすんで 言うのを 喜び勇んでいた (行った)。

すすどい 【形容詞】煤のような 黒い [会話] 叢雲言うのは 真っ黒な ススドイ雲な (が) もやもやして、ちよいちよいつ (少しずつ) 千切れて来ると 叢雲な (が) 来たれ (来た) 言うて。

すすとり (煤取) 【名詞】煤払い 屋内にたまった煤埃を払って掃除する事。特に年末、正月の準備に家の内外を大掃除する事。すす 煙に混じって飛ぶ黒色の炭素の粒。煙が煤と一緒に固まって壁、天井などに付いた汚れ (桑市) [会話] スストリ言うて大掃除な (です)。しょんがつ (正月) 前ん (に) 畳まくって 干すやんない (でしょう)。ススハキ せな (しなければ) 言うて。昔はなあ 今しや (今は) 大掃除せな 言うて するけど。昔や (は) 皆 ひい (火) 焚きおったもんで (焚いたので) 煤な (が)、てんじょいも (天井にも) 真っ黒んなりお ってなあ (になって居て)。そやもんで (それで) ススハキ 言うて 昔や (は) しよおったね (して居たのです)。竹切って来て かるやんない (払うでしょう)。すす竹 言うてなあ。あんで (あれで) 皆 かんねや (払うのです)。かつ といて (払っておいで) から こんだあ (今度は) 拭くのなあ (拭くのです) 天井 を。昔や (は) ひい (火) 焚くもんで

真っ黒ん (に) なりおったやんかい (なつて居たで有りませんか)。今し (今) の家や (は) 拭いてもよし 拭かんでもええよん (拭かなくてもいいように) しとるけど (しているが)、その煤で 真っ黒ん (に) なつて 雑巾やどけや (などは) 真っ黒ん (に) なるほろ (ほど) 煤な (が) 積んね (積るのです)。そやよつて (それだから) ススハキ 言うてなあ。今しや 大掃除や (です)。そんで も (それでも) お寺やとか (だとか) 宮さんとかの、のお でも (だとかの) でも ススハライ 言うて るやんかな (言っております)。ススハライ 埃をなあ 大仏さんやどけの (などの) 埃な (が) たまつとんの (たまっているのを) 払うのおな (のが) ススハライ 言うて するけど、ここら (は) ススハキや (です)。スストリ も言うし ススハキや (です)。スストリ も せんとおつて (しないで居て) 言うて、昔や (は) 苦しよおったね (気苦労にして居ました)。今しや 常に じつぱに しとるよつて (立派にしているから)、して (そうして) ひい焚かせん よつて 煤もなんも付かせん (なにも付かない) けど、昔や きい (木) くすべて 真っ黒ん (に) なりおったんよつて (なつて居たから)、やんない (でしょう) 埃やてら (だとか) けぶりやてら (煙だとか) 勝手するよん (ように) になると、鼻ぼら (鼻孔) も 真っ黒ん (に) なつて、顔も真っ黒ん (に) なりおったね (なつて居たのです)。勝手 スストリ すると 煤な (が) よけ (沢山) 積もつと て (積もっている)。

すすなり (鈴成) 【形容詞】果物などが沢山ついているさま 神楽鈴の様に群がり房になっている状態 (志 (布施田)) [会話] すすこなつとる (なつている) 言う、よつけなあ (沢山) かたまつて、なつとんのをなあ (なつているのを) スズコナツンネ (なつているのだ) 柿な (が)、言うたりな、ぶど おみたよんなあ (のように) かさなつて なつとん (なつている) のをな、おおたえれ スズコナツンナイ (ている) あや 言うてなあ、おおた ま あの家 の きいにや (木には) 柿な (が) スズナリ や よお 言うてなあ。

すすなりおつた 喜んだ はしゃいだ [会話] しょんがつな (正月が) くんのな (来るのが) 嬉して (嬉しくて) スズナリオツタ けど 今しや (今は) なんも嬉しないね (少しも嬉しくないのです)。

すすはき (煤掃) 【名詞】すすとりと同じ 但し正月

前のみ(十二月十三日を以てよしとする)(志
(布施田)、鳥、阿、張、名、熊)

すすはらい(すすはらひ)(煤拂)【名詞】大掃除 す
すはき すすとり参照

すすぼける(煤)【自カ下一】**すすぼる(煤)**【自ラ
五】煤にまみれる 煤だらけになる すすぼる 煤
で汚れて黒くなる すすける(上、阿)【会話】ス
スポル言うてなあ 煤、けぶり(煙)で 真っ黒ん
(に) なっとんの(なつて居るのを) スポケル言
うて、スポル言うの(言うのは) 煤な(が) こお
なあ しとるもんで(しているの) 言うんやろな
あ(言うのでしょう)。くさやぶきん(藁屋根の家
に) 入つとるにぎゃ(入っている人は) スポット
ンナア(ているなあ) 言うて、言よおつたなあ
(言っていました)。スポットテ くうるお(黒
く) 顔も スポケル。その 煤な(が) 積もつた
よおな感じな(が) しよおつたなあ(して居まし
た)。風呂 よけ(多く) 入らせんもんで(入らな
いので) けぶり(煙) かぶつたのおな(のが) 肌い
(に) しゅんどんねやろなあ(染み込んでい
るの) なんやら(なにか) くすぼつたよおな顔
しとりおつたなあ(してました)。べつんも(特
に) 家内中な(が) 鼻の こころの方い(へ) 煤な
(の) 積つたよおな感じな(が) しとりおつたなあ
(してました)。色が薄黒いよおなのも そいな
のおもだ(そんなのも) すすぼつたいよおな色やな
あ(だ) 言うて そいな(そんな) 感じな(が)
する人や(です)。くさやぶきの にげや(人は)
おおた なんやら(なにか) スポケタ よおなな
あ 言うて。

すずみだい(涼台)【名詞】暑さを避けて涼む時に用
いる広さ一畳位の腰掛け台【会話】夕影を見なが
ら一杯飲んで言うて、縁台で。縁台言うて スズ
ミダイを 皆 こしやえとて(作っていて)夕影
みいもて飲んどりおつた(見ながら飲んでいま
した)。

すすむ(進)【自マ五】1) 仕事か渉る 2) 食欲が
出る よく食べる【会話】1) 仕事する時ん
(に) 手順な(が) よおて(よくて) よおススム。

すずめ【名詞】1) 海雀 2) よく喋る人(阿)

すずめのなみだ 極く少量を言う(志((布施田))

すすめる(勧)【他マ下一】そうするように人を誘い
促す 飲食物を出して、それを飲食するように促す
【会話】お前もまあ 芝居、見いんいかんかい(見

に行きませんか)、おらまあ(俺は)、やめとかれ
(やめておきます)、そげん言わんと(そんなに言
わずに) いこやんかい(行きましょう) 言うのをな、
ススメル言うの。あの人ん(に) ススメテ、つれて
こや(連れて行きましょう) 言うてな、さそてこや
(さそつて行きましょう) 言うのをなあ、さそいん
いこや(さそいに行きしょう) 言うてな、スス
メン(に) 行くのをな おや(俺は)、ややれ(嫌
だ) 言うとんねけど(言っているのだが) さそいん
(に) いこやんか(行きしょう)、みんなな(皆
が) 言うてな、いこや(行きしょう)、いこや
言うて さそいん(に) いこや 言うて ススメン
(に) いこや 言うのをな。

すすり(噉)汁などを口に吸い込む事 鼻水などを吸
い上げる事【会話】素麺 ススル、うどん すす
つて こおかてやろなあ(来ようかとか)、おかい
(粥)を まあ すすつて来た言うたりなあ やい
こいもん(柔らかい物)をなあ すうつと すんの
をな(するのを) ススリ言うの。飯ならなあ 飯
くおや(食べよう) 言うんけど(言うのだが) おか
いや(粥だ) 言うと ススロやんか(すすりましょ
う) 言うてなあ。ごとばな(が) さがつて来た
すすつたれ言うて。

すずりいし(硯石)【名詞】すずり 石や瓦などで作
り墨を入れて磨りおろすのに用いる道具 一方に窪
んだ部分(海)があり平坦な部分ですつた墨や水を
そこに貯える スミスリ(墨研)の約(大言海)
(南)【会話】墨する。今しや(今は) あいなもん
(あんな物) 使わせんやかなあ(使わないのでし
ょうか)。この頃 書道やなんや(とか何か) 言う
て 使うけど つねや(常・平素は) 一般の人は
墨汁や(とか) ペンや(とか) あいなの(あのような物)
使うもんで(ので) スズリイシは 使わへん
やろなあ(使わないでしょう)。習字 稽古するも
ん(者) 位やわい(です)。

すすりこむ(噉込)【他マ五】1) 液汁を勢いよく口
に吸い入れる 2) 垂れた涙や鼻水を息と共に吸い
入れる【会話】1) ススリコム言うてなあ 一緒
やわい(です)。すすん(る)のも ススリコム言
うのもなあ まあ、うもおて(旨くて)、うもおて
ススリコンデ来た言うて。

すする(噉)【他ラ五】1) 吸い上げる 勢いよく口
に吸い入れる。2) 鼻水を吸い上げる。【会話】
1) ススル言うの、素麺ススル言うて、あんして

(あんなにして) ススルのを ススル言うて、お粥
ススルたらなあ (とか) ²⁾ 漬、ススル、ごとばな
(青漬) ススツタテ (てやって)。鼻水ススツテ
(ていて) 鼻水あ (は) 出るけど そすと (そうす
ると) すうすと ススツタテモ (てやっても) じ
つきん (すぐに) 下がって来てなあ、今日 この頃
なんやかや (色々と) もな (物価は) 上がって さ
がん (下がるのは) 水鼻だけやれ (だ) 言うて。
水鼻 じつきん (すぐに) 下がって来て すとまあ
(すると) ススツタテモ (てやっても) 下向くと
すぐん (ん) 下がってくんね (来るのです)。お粥
さんや (だ) とか 素麺や (だ) とか うどんやな
あ (とか) 蕎麦や そげなもん (そんなもの) スス
ル、これは 食べる言う意味やし (ですし)。鼻水
やどけは (などは) 吸い上げる 漬な (な) 下がっ
て来てまあ ススリコンダタレ (でしまった) 言う。

すそ (裾) 【名詞】 下の方を示す 1) 山のふもと
2) 浜辺 波打ち際 浜のスソ 川のスソ 川口部
3) 着物の下端 4) 下の方 末の方 [会話]
³⁾ 着物のスソも有るし、²⁾ 浜のスソも有るし、川
のスソ 言うのも あるしなあ。川のかわじり 一
番下をなあ 川のスソや (だ) 言うて、川のスソで
洗るてきた (洗って来た) 言うてなあ 浜のスソい
まで ながれてた (で行った) 波うちぎわの事をな
あ 浜のスソや (だ) 言うてな。川のスソ言う時は、
一番さいごのとこ (所) を 川のスソ ¹⁾ 山のス
ソ言うな (のは) さがってきた 谷い (へ) ついた
とこ (所) をなあ ヤマスソ、スソ言うね (言うの
です) ふもととも言うしなあ (言います)。

すそつぎ 長い事を表す [会話] きりもん (着物)
でも、三尺のせえ (身長) のにげな (人が) せえな
なごなって (長くなって) 来て、きもん (着物) な
みじこなって (短くなって) 来ると、スソツギ し
たやええわれ (してやればよるしい) 言うて、裾え
継ぐのを。春のひい (日) は、なんがいもんで (長
いので)。そして なんでも なんがいもな (もの
は)、春のひいん (に) スソツギしたよおななあ
言うて、なんがいのおえ (のに) 又 足すのを、お
おた、春のひいん スソツギ したよおななあ言う
て、春のひいは、なあごおてすんのを、又 こんだ
(今度は) 裾い足すと どいらい (大変) なんごお
なると。のびとるにげは (ぼんやりしている人は)
春のひいに スソツギしたよおななあ言うて、気の
なあがい (長い) にげ (人間) はなあ、春のひいに

スソツギ したよおな にげやなあ言うてなあ

すそばり (裾張) 【名詞】 女好きの男 裾は体にては
腎を言う、故に性欲の義 (大言海) (志 (布施田))
[会話] スソバリ言うて 男な (が) おなご (女)
好きでなあ どのおなご (女) も このおなご も
皆 其処ら中なでまあすねない (のだ) 言うて お
なご 見たら 誰でも引っ張りまあしてすんのなあ
(廻してするのです)。

すそよけ (裾除) 【名詞】 ゆもじ 腰巻きの一種 着
物と腰巻きの間に巻き、足さばきを楽にするための
布[会話] スソヨケ言うな (言うのは)、腰巻きの
上いなあ (に) も (もう) ひとつ モスやとか (だ
とか) 縮緬やとか 言うて、スソヨケや (だ) 言う
て、きもん (着物) と 腰巻きのあい (間) に き
んのを (着るのを) スソヨケ。スソヨケも着て言う
て 腰巻きはすねけど (するのですが) 腰巻きの
上い (に) 又なあ それを 今し (今) で言うて
長じばんやわい (襦袢です)。昔や (は) 長じばん
言うて しやせんやんない (しないでしよう)。長
じばんの代わりやなあ (です)。美しええ (美しい
よい) のをなあ 友禅 昔や (は) モスを 友禅言
よおった (言っていました) 友禅やとか 縮緬やと
か そげなのおで (そんなので) 上い (に) きやん
よおな (着ないような) 派手なのおを (のを) しよ
おったわい (して居ました)。若い時や (は) スソ
ヨケ出して 色気だして。そいな 絹のおおは (の
は) 着るもん (着る物・着物) 着る時ん (に) すん
のなし (するのですし)、常は 緋か ネルか そ
いな (そんな) のを着て、脛 (膝) まで はっふい
着て 腰巻き出して。こえ持つのも その緋の腰巻
きや ネルの腰巻きを出しといて (出しておいて)
はっふいして、きゃはん (脚絆) はいて、こえ (肥
料) 持ちおったね (持って居たのです)。「志摩の姉
ら(娘達)の 粋な鉄 粋な 磯まげ といや (問
屋) てのごい (手拭)」言うて 磯まげ ゆうて
(結って) といや てのごい 覆って 手拭、のり
ばんばんにしといて (しておいて)。

すそわけ 貰い物の一部を分け与える

すざい (図大) 【副詞】 1) 大きい事 2) 人の良い
事 [会話] ²⁾ あやまあ (彼は) ズダイやなあ
(だ) 言うて、人な (が) ええと (よいと) ズダイ
や (だ) 言よおった (言っていました)。あのひた
あ (人は) にげな (人間が) ズダイやもんで (なの
で) 言うて。 ¹⁾ 大きな人も ズダイや (だ) 言よ

おったなあ(言っていました) どいらいおっかい
(大変大きい) 人もなあ。 大っかいのおを (大きい
のを) ものすごい 特別おっかいのおを 特大、特
大言う事を ズダイや (だ) 言うんやろなあ (言う
のでしょ)。

ずたずた (寸寸)。**ずだずだ** 【形容詞】物を寸断する
様(志(布施田)) [会話] ズタズタン (に) しと
いていない (しておいて行った) 言うてなあ、き
れぎれん (に) したると (してやると) ちっそお
(小さく) 切ったる (てやる) 事をなあ、ズタズ
タン (に) しやれたよお (された) 言うてな。 きもん
(着物) をなあ 破ったるとなあ (てやると) おお
た きもん 破って、ズタズタン (に) しといてい
たない (しておいて行った) 言うてな、ズタズ
タも 一緒や (です)。 ちぎれ、ちぎれにま
あ したた (してしまった) 言う事やわい (です)。
こまこお (小さく)、したることなあ ズダズダ
(に) 言うて。

すだつ (巢立) 【自タ五】生長する 独立する (志
(布施田))

ずだつ (づだ)。**ずたつぶくろ**。**ずたぶくろ** (づだぶ
くろ) (頭陀袋) 【名詞】 1) 頭陀行を行う僧が仏具、
経巻、御布施などを入れ、首に掛ける袋 2) 死人
を弔う時にその首に掛ける袋 雑多な品物を入れ運
ぶ簡単な作りの布製の袋 **ずだ** 頭陀 衣食住に
対する欲望を払い除ける修行 (志、南、熊) [会話]
死んでく (行く) 時ん (に)、¹⁾ 又、遍路さんな
(が) さがかして (吊して) 来るやんない (でしよ
う)、しろいのおを (白いのを)、あれ ズダツブ
クロ 言うて。²⁾ ズダツブクロ 言うて 死んだ時や
(は) こさえるやんかい (作ります)。 死んだ時ん
(に) なんやかい (色々と) 皆 それい (に) 入れ
込んで 棺へ 入れたるわい (入れてやります)。
遍路さんな (が) 回って来る ズダツブクロ 横い
(に) 下げて 米 貰うと それい (に) 入れたり
なんやかや貰うと 入れよおったやんない (入れて
居たでしよ)。ズダツブクロ 言うて。

すたりもん 【名詞】流行しなくなった物 すたれもん
参照

すたる (廃) 【自ラ五】 1) 流行らなくなる 流行遅
れ 廃る 衰えて流行遅れになる すたれる 物事
が衰えたり役に立たなくなって駄目になる 人の名
誉や面目が失われる 2) 元気がない人 3) 家督
が無く家が絶える [会話] ¹⁾ スタッテタ なあ

(いった) 言うて、時代ん (に) 遅れたもん (物)
を スタル 言う。 着るもん (物) でも スタッテタ
なあ言うし、²⁾ にげ (人間) でも スタッテク
(ていく) よおな にげやなあ (人間だなあ) 言う
て、なんやら とぼつとしたよおな にげ (人間)。
スタトル よおな にげやなあ 言う時もあるわい
(有ります)。流行りに 遅れた 流行遅れの事 な
あ。³⁾ 家な (が) しやらくしてた (斜落・おちぶ
れていった) よおな時も スタル 言うなあ。あの家
も スタッタ なあ言うてなあ。跡取り (後継者) も
無いし あんで (あれで) スタッテクねなあ (行く
のだなあ) 言うて、スタッテクんやれ (いくんだ)
あのうちや (家は) 言うてなあ。

すだれ (簾) 【名詞】小竹、竹ひご、すすき等で編み
連ねた物 夏、風通しと採光を兼ね窓、入り口に吊
す (南) [会話] さがかすのお (吊すのを) スタ
レ なあ、スタレ も 掛けとけ (ておけ)。スタレ
すう (貰) 垂らすもんで (ので) スタレ 言うねやろ
けどなあ (言うのでしよ)。

すたれもん 【名詞】流行おくれの物 [会話] こや
すたってたれ (行った) きよおねん (去年) はやっ
たけど (が) 今年や (は) すたってたなあ (ていつ
た)、こや (これは) スタレモンやれ (だ) 言うて。

すっからかん 【形容詞】無一文 すっかんびんに同じ。
更に物がすっかり無くなることにも。(志(布施
田)) [会話] ぜんな (銭が) 一銭ものおて (無く
て) スッカラカン に、なつたよお (なつていつ
た) 言うてな、財布な (が) からん (に) なつたの
を スッカラカン になつた (ていった) 言うて。
一銭もないわれ (有りません) まあ スッカラカン
やれ (だ)。お金だけやなしに (で無くて) なん
でもなあ なんもないよん (少しも無いように) なつ
てくとなあ (て行く) スッカラカン。米櫃な
(が) スッカラカンやれ 言う時もあるし みずが
めも 汲んどけ (でおけ) スッカラカン になつたら
れ (なつている) 言うたりなあ。

すっから 【副詞】悉く 全部 すかりの急呼 (大言
海) (志(浜島、国府))

すっかんびん 【名詞】 1) 無一文 (南) 2) 嫌な人
[会話] ²⁾ すかん (嫌な) 人を、スッカカンビンや
(だ) 言うてな、物凄お、すかん (好かない) 人を
なあ すかんびんや (だ) 言うの、すかざら すか
んびんやん 言うてなあ 一緒やわい (です)、すかん
びん も スッカカンビン もなあ そのにげ (人間) に

よってなあ 言い方な 違うよってんなあ (から)。

1) スッカンピン言う時に、財布なスッカンピンや (だ) 財布もまあ すっからかんやれ (だ) とか、すかんぴんになってたれ (しまった) とかなあ、すっからかんに なってて (なっていて) まあ 一銭もないわれ (有りません)。

すつきり さっぱり、心の晴れるさま

すっこい【形容詞】 狡猾である 悪賢い (志 (船越、鶴方、神明、立神、志島、国府)、鳥、上、阿、張、名、伊、北、南、熊)

すっこかず【他サ五】 落とす

すっこけた 1) ずり落ちた 2) 失敗した 3) 抜け出した [会話] 3) スッコケテタ (ていった) まあ あしこい行たやなあ (あすこへ行ったら) まあ 用事な (が) あんねけど (有るのだが) おそな ってくもんで (遅くなって行くので) まあ なつとも言わんと (なんとも言わずに) スッコケテ来たよ お言うてな。1) 帯しとても (していても)、帯な (が) ゆるいもんで (もので) ま スッコケテタよ お (ていった) 言うて、まあ 腹な (が) へってた や (空いて行ったら) 帯な (が) スッコケテやら (とか)、なかね (腰巻) の ひぼな (紐が) スッコケテやら 言うてなあ。スッコケタ言うて 抜け出してく (て行く) 言う事やなあ (です)。

ずっこけた 失敗した [会話] ズッコケタヨオ言う 時も あんね (有ります) 失敗した時ん (に)。

すっこけてく 抜け落ちて行く ずり落ちて行く [会話] 腰い (に) 巻くのな (が) おおびな (海女の腰にまく縄) 言うて、おおびなも せな (しなければ) 言うて おおびなをしといて (しておいて) いそづなを 引つ掛けんのお (けるのです)。スッコケテくもんで (ので)、抜けてくもんで (ていくので) おおびなを しっかり締めて言うて。

すっこける【自カ下一】 1) ずっこける ずり落ちる 普通の状態からはずれる 脱落する 2) 抜け出す 逃げ出す [会話] 1) スッコケル言うて、おつてくのおを (落ちて行くのを)、紐でもなあ ゆうううしとると (緩くしておく) スッコケテクナイ (ていきます) そわあれ (それ) 言うて、そわあれ しっかり縛らな (縛らなければ) スッコケテクナイ 言うて。2) にげな (人間が) 座敷から 抜けてくのも (いくのも) スッコケル、スッコケテ来たよ お 言うて。帯でも なんか (何か) からげても ゆるいと さいご (その時) まあ そや (それは) スッ

コケテクナイ 言うてなあ すっば抜けるも スッコケル スッコケルも。

すっこぬける すり抜ける すり落ちる すっこける 参照 (志 (布施田)、多)

すっこべ。ずっこべ【名詞】 頭 (志 (甲賀)、度、伊、北) [会話] ずっこべかい (ですか)。ズッコベ ずっこべ言う人も 有るしなあ。ズッコベ 頭で ずこたんや (です)。こべ ズッコベはなあ ずっこべや (と) 言うたり (言ったり) ずこたんや (と) 言うたり。

すっこむ【自マ五】 その場から退く ひっこむ (志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府)、鳥 (加茂)、桑郡、桑市、三、四、鈴市、鈴郡、安、一、久、上、阿、張、名、伊、南、熊) [会話] スッコム言うな (言うのは) 亀の首な (が) スッコム言うて、入り込んでく (いく) 言うの (のを) スッコム。いっこんだり (入り込んだり)、スッコム言うて。いっこんでた (ていった) 言うにげ (人間) も 有るし、スッコム言うにげも 有るし。亀の首な (が) スッコム言うに (いった) とか、なんでも 入ってくと (いく) 陰に隠れたりしとるやろ (しているでしょう)。そいなばやいも (そんな場合) あやあれまあ スッコムドンナイ (でいる) 言うの。物陰へ隠れるよおな時は スッコム。

すっこめてく 引き込める 下げる (志 (布施田))

すっころ【名詞】 練習中の舟人。上手な海女が舟の上で休んで居る間に舟人としての稽古をさせて貰う海女

すっころこん【形容詞】 剃り立ての頭 すっ すの促音添加 名詞、形容詞についてその意味を強める [会話] 頭を スッコロロンに剃って来たない (来ました) 言うて、どんどろぼおずん (に) しとる (している) 言う。寺のおっさんな (和尚さんが) えごつとしとるやんない (立派にしているでしょう)。あれも どんどろ坊主 えごつと剃つとんのおを 寺のどんどろ坊主あ (は) いざりご もおけた (産んだ) 言うて 盆のくどき (盆踊りの文句) に 有るやんない (でしょう)。“坊主抱いて 寝や (寝れば) やたけに 可愛い 何処を撫でても すべすべと (滑か) 何処が 尻やら 頭やら” 言うね (言うのです)。何処を撫でても すべすべと 言うのも有るし。やたけ言うのは 無茶苦茶可愛い 言うの。

すっころづち【名詞】 筵などを編む時に使用する木で

んかあ (有るでないか) 言うて。

すってんてん【形容詞】全く何も無い (志 (布施田))

すってんぺん【名詞】最も高い所 すってんじょ参照 [会話] 山の スッテンペン言うてな スッテンペンや (だ) 言う、峠の事をなあ スッテンペン。きい (木) のまあ スッテンペンえまで 登ってたれ (行った) 言うたりなあ。たっかいとこいなあ (高い所へ)、一番たっかいとこ (高い所) スッテンペンや言うてな、すてんじょや (だ) 言う時も有るしなあ (有ります)。

ずっと【副詞】1) はるか、時間 距離等について二者の間にはなはだしい へだたりや 差のあるさま 2) いつまでも (志 (布施田)) [会話] 1) ズット前んなれ (に) のげい (お前の家に) いたやなれ (行ったら) 言うてな、2) ズットまあ のげん (お前の家に) おったれ (居ました) 言う時も 有るしなあ。のげい いてなれ (行って) ズウットまあ 待つとたけど (ていたが) こんでなあ (来なくて) 言う時もある。まあ ズット おれげん (俺家に) おやええわれ (居ればよろしい) 言う時も 有るしなあ、ズット言う時は いつまでも、いつまでも 続けて言うのなあ (です)。

ずっとる ずれて居る 位置が少し違って居る

ずつな【形容詞】苦しい (津) [会話] 飯 よけ食うたや (沢山食べたら) ズツノオテ (なくて) まあ うつぶかれやせんわれ (うつむけません) 言うたりなあ。風邪ひいたりする時もなあ 咳な (が) 出てズツノオテまあ言う時も 有るしなあ 苦しいおをなあ (のを) ズツナ言うの。

ずつない【術無】【形容詞】術無し づちなしの転 どうしようもない 苦しい つらい じゅつない 肉体的に苦しい 呼吸が苦しい (志 (浜島、布施田、船越、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (加茂)、桑郡、桑市、員、三、四、鈴市、鈴郡、津、安、一、久、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾) [会話] いきどし (いきどおしい・息苦しい) 事を。息切れな (が) するのを、ズツナイ言うね (言うのです)。飯 よけ (沢山) 食うたや (食べたら) ズツノオテ (なくて) 言うて、腹な (が) おっき (大きく) なって来ると ズツナイ言うてなあ、磯 (海女作業) 行ても (行っても) 底 いんの (入るのに) よけ (沢山) 飯 食うてすぐは ズツナイ言う。息切れな (が) すん (す

る) のを ズツナイ言うの。まんぼ (まんぼう) 食うて 磯行くと 入られやせんねよお (潜れません)。一年 (或る年) 浜で まんぼ こさえとて (調理して) それ もろて (貰って) 鍋で茹で味噌で食うたや (たら) うもおて (美味しくて)。食うたや (たら)、皆な (が) ブーブー言うたね (言ったのです)。息どして 入られやせんね (潜れないのです)。食べ過ぎやせんねけど (ないのだが) まんぼ食うと 息どしおしねてわい (そうです)。舟人 (海女の区別・舟で夫婦で作業する海女) の人 らな (達が) のら (お前達) 又なあ 磯い (に) おりんのん (入るのに) そいなもん (そんなもの) 食うもんな (者が) あろかれ (有りません・だめだ)、まんぼ食うたら 息どして 入られやせんねどお (潜れないのだ) 言うて わるわれた (叱られた) 事な (が) あんね (有るのです)。

ずつながる【術無】【自ラ五】苦しがる

すっぱ【名詞】お転婆娘 言語行動が活発で男子の様に行動する娘 戦国時代、村落に入りて人を悩ましたる者の稱と関係有るか。物の多い様を表す、ずっぱ (副詞) と関係あるか [会話] オトコスツパ言うて 男、みたよななあ (のような)、あの おっちゃん (横着な) 大胆な とこな (所が) 有ると、あや (彼女は) オトコスツパやなあ (だ) 言うてなあ、ちっさい (小さい) 時のなあ おっちゃん すると オトコスツパ言うて かまよおったんなあ (からかって居ました) 男のこお、みたよな (子のように) おっちゃん 事すると オトコスツパ言うて。

すっぱい【形容詞】酸い

すっぱり【副詞】1) きれいさっぱり 2) 残らず すっかり (志、度) [会話] 1) スッパリやめた言う時なあるやんかい (有ります)。スッパリとまあ やめた言うなあ、あのまあ さっぱり言うの スッパリやめた、言うたりなあ。まあ スッパリきめたらんかれ (してしまいなさい) とかなあ 話すん (する) のでもなあ。2) スッパリ もてけ (持って行け) まあ 言う時もあるやんかい (有ります)。まあ 皆 もてけ 言うの スッパリもてけ 言う時もあんね (有るのです)。スッパリも、すっぱりも 一緒やわいなあ (です)。スッパリ まあ もてかんかれ (持って行きなさい) 言う時もあるやんかい (有ります)。残らず スッパリには 綺麗にせえ (なさい)。

すっぺらぼん【副詞】 全て 残らず

すっぺり【副詞】 残らず 全部 (志(布施田、浜島、鶴方、神明、立神、国府)、桑郡、員、度) [会話] スッペリもてた (持って行った) 言うやんか (言うではありませんか)。皆 持てた なんもかも (何も彼も) スッペリ持てた。全部言う事やんかい (です)。なんもかもこっぺり 言う と 皆 全部言う事や (です)。こっぺりも言うし スッペリも一緒や (です)。

すっぼ【名詞】 1) 米麦の実の入らない素穂 2) 包茎 (皮かむり) 3) 筒袖 (志(浜島、布施田、御座、片田、立神、志島、甲賀)) [会話] 1) 麦のスポボ言うて。みいな (実が) いっとらせんな (入っていないのは) スッポ^ん (に) になって、かあな (皮・殻が) 剥けやせんね (剥けません)。2) 男のもん (物・陰茎) でも言うやんかい (言うではありませんか) スポボ言うて。父さん 剥けたか 剥けた言うたや (言ったら) 剥いたや (たら) 俺も ひとこくれや (一個下さい) 言うて。男のもん言う時あの時は 剥けとらせんのを (剥けていないのを) 剥かれやせん (剥かれないのが) あんねてわい (あるのだそうです) スポボ言うのな (言うのが)。らつきよみたよん (らつきようみたいに) しとてな あ (して) 有んね (有るのです)。〇〇小父な (が) スポボでなあ じょおつく (いつも) ちんぼ (男性器) 放り出しとんねやんかい (ているのです)。ひとつつも (少しも) 禪かかんと (せずに) 放し飼いにして ふりまらで (性器をかくさずに) おって (居て) そんな (それが) スポボやったんよ お (でした)。“一黒 二赤 三かり高 四でつぽお 五ひら 六まんだあら 七まがり はっする く、スポボ とおしろべえ” 言うて 男ののおを (のだ)。

すっぼ【名詞】 船の生簀につけて海水の入れ替りをよくするための竹筒

すっぼこだに【名詞】 人里離れた山峡 そっぼこだに (志(浜島、布施田、鶴方、神明、立神、志島、国府、安乗)、上、阿、張、名、北、尾)

すっぼちんぼ【名詞】 包茎 [会話] 男のもん (物、陰茎) も すっぼや (だ) 言うし (言います)、スポボチンボ言うてなあ、スポボチンボで気な (が) 行くなれば むけたちんぼは剥け損や (だ) 言うて。

すっぼぬける【自カ下一】 1) 一人だけ仲間から抜ける 2) すり抜ける

すっぼらぼん【副詞】 1) 全く すっかり すっぺらぼん すべて残らず すっからかん 全くからっぽで有るさま 中にも何も残っていないさま 2) 丸裸 [会話] 2) スッポラボン なんも (なんにも) 男も おなご (女) でも 腰巻きもせんと (せずに) 禪もせんと (せずに) スッポラボンやなあ (だ) とか、おなが (女は) おぬけぼらや (だ) 言うて、腰巻きもせんとおると (せずにいると) おぬけぼらで あやあれ (あれ) 言うて。ちっちゃい (小さい) こららな (子供達が) しとると (していると) しや (それ) おぬけぼらで はよ (早く) かこわなはざんわれ (囲わなければ・隠さなければ駄目だ) 嫁入り道具 (性器) 放り出して言うて。子供らな (達が) 腰巻きせんとおっても (せずに居ても) 子供らでも 干しとると (干していると・丸出しにしていると) わりやんない (悪いでしょう)。そやまあ (それ) 嫁入り道具も 囲わな (囲わなければ) 昔や (は) 嫁入り道具や (だ) 言よおったね (言って居たのです) 嫁入り道具 放り出して言うて。ぼぼおし (ぼぼほし・干し) も 一緒や (です)。“越後の ぼぼほし 乳 隠し” 言うて 越後い (に) 行くとなあ ぼぼあ (は) 干しとても (出しているも) 乳 隠す言うてなあ。

すっぼり【副詞】 1) 物が具合よくはまったり、かぶさったり、抜けたり、はずれたりするさまを表す語 2) すっかり 全部

すっぼんがめ【名詞】 亀の一種 すっぼん スポボン科 淡水産の亀 全長約30cm 背中はオリーブ色でほぼ円形 背甲に甲板は無く中央は少し隆起して堅いが、他は疣状突起の有る皮膚で被われ、柔らかい、首は長く口吻は細長く尖る。手足は水掻きを持ち、それぞれに三本の爪が有る。浅い水底にひそみ、魚、蛙、蟹を餌とする。肉は美味で栄養に富み血液は強壯剤などに薬用される。(志(志島)) [会話] すっぼん言うて、昔や (は) スポボンガメ売りに 来よおったやんかい (来て居たで有りませんか)。おなご (女) の 血の道 (婦人病) に ええ (よい) 言うて。

すっぼんぼん【名詞】 丸裸 全裸 [会話] 裸で、おんね (居るのです)、すもとや (相撲取りは)、裸で、スポボンボンや (だ) 言う、パンツも、禪もせんとおんの (せずに居るのを) スポボンボン言うんやわいな (のです)。

すてえしよ ステエシヨ【名詞】 駅 statio

nの訛 [会話] 伊勢の ステエシヨの ねきん売
つとんね (近くに売っているのです)。

すてかい【形容詞】大きい 非常に大きい すは図で
途方もない。語頭のため清音 てかいはでかい
(大)の転か(度) [会話] ステカイ言うの(ので
す)、おっかい (大きい) 事を ステカイ言うのな
あ (です)。おおた ステカイんなあ (のだ) 言う
てなあ、でっかいねなあ (大きいのだ) 言う人も有
るけどなあ (が)、ステカイねなあ (のだ) 言うて
な。普通の大きいやなしに (でなくて) 物凄お (大
変) おっかいのおをなあ (大きいのを) ステカイ
言うんなあ (言うのです) ステカイ言う人と どて
かい言う人と ある。どてかい言う人な (が) ある
な (有ります)。おおた どてかいんなあ (のだな
あ) 言うてなあ。どてっかいんなあ (のだ) 言うや
んかい (言います)。ステッカイんなあ (のだ) そ
や (それは) まあ 言う人もあるしなあ。おなじ事
やけどなあ (だが) なてかいなあ 言う人も おんな
あ (居ます)。男の人らなあ おおた なてちいね
なあ 言う人も有るしなあ (有ります)。おお、なて
ちいなあ 言う人も有るやんかい (有るでは有りま
せんか)。

すでがしこい【形容詞】狡る賢い 狡るい [会話]
いんちきしたり 人のめえ (目) くらましたりすん
のなあ (誤魔化したりするのです)。あや (彼は)
ステガシコオテ (こくて) 人のめえ (目) くらまし
て (誤魔化して) 言うてなあ。

すてがね (捨金)【名詞】使っても使かっただけの効
果の無い金 無駄金

すてさんぼ (捨三宝)【名詞】物を粗末に扱う事 捨
ててかえりみない さんぼう 三宝 接続語 思い
のままにさせる 思いのままにする 上の語の意味
を強める (尊い三宝をないがしろにする意) [会話]
なんもかも (何も彼も) 要るもん (物) でも ほり
さんぼに しとる (している) 事。放って有って
おおたまあ (やれやれ) こいな (こんな) 大事のも
ん (物) も こげん (こんな)にして 勿体ない
ステサンぼん (に) して言うて。放つとると (てい
ると) さいご (その時) 年寄りの人らなあ (達が)
放りさんぼん (に) して言うて、なんか (なにか)
物 ざっぱん (粗雑に) すると ステサンぼん
(に) して。

すてつかい【形容詞】おおきい すてかい参照 (北)
[会話] 大きいのを、ステッカイんなあ (のだ) そ

やまあ (それは) 言う人も有るし (有ります)。

すてっこい【形容詞】狡るい [会話] あやまあ
(彼は) ちよいと (少し) ずれとんねよってん (外
れているのだから) ステッコイ事すると。

すでっこい【形容詞】狡い 狡滑だ [会話] あや
(彼は) すれがしこおて (狡る賢くて) 言うてな。
ステッコイ言うて あんまり (あまり) 狡滑な事す
るとなあ。

すてっぺ。すてっぺん (素天边)【名詞】最も高い所
すてんじよ参照 (志 (浜島)、鳥 (桃取)、北、
南) [会話] きい (木) でも 屋根でも 物でも
一番たっかいとか (高い所は) ステッペンや (だ)
言うけど ステッペン盗言うけど。

すててこ【名詞】夏の下着 (鳥)

すてらかい【形容詞】大きい すてかいに同じ (志
(浜島))

すてんじよ【名詞】物の頂き 頂上 最も高い所
(志 ((御座、浜島、立神、安乗)、鳥) [会話] た
っかいとか (高い所は) ステンジョとか、すてっぺ
んとか、ステンジョい (へ) 登って言うて 一番上
い (へ) 登ってくと (いくと)。

すてんべ【名詞】物の最も高い所 [会話] 畝を
たっこお (高い) 盛るやんない (でしょう)。その
一番峠へせえ (しなさい) 言う事を ステンベ 植
えとけ (ておけ) とか言うて 一番上い (へ) する
事。

すてんべん【名詞】すてっぺんと同じ

…**すと**【接続詞】すると そおすると (尾) [会話]
そげん (そんなに) スルト まあ はざんやんかあ
(駄目だ)、そげん (そんなに) スルト ま しや
(それ) うちやれてかれ (壊れて行く) 言う時んな
あ (に) そげん スルト言うんなあ (言うのです)。
それを、スルト言うて るを 入れんと (入れず
に) スト言うて ソスト言うなあ (言います)、そ
おすると言うのを、ソストまあ はざんやんかあ
(駄目だ) 言うなあ (言います)。そげん (そんな
に) 言う時もあるわい (有ります)。うなし (同
じ) 言葉やけどなあ (だが)。

すどおし【名詞】きのこの一種 網茸 担子菌類アミ
タケ科の食用きのこ。夏から秋に松林に群生する。
傘の直径5～10cm、ほぼ平開する。傘の表面は
粘液におおわれ、初め赤褐色のち黄褐色になる。裏
面は黄泥色で大小不揃の沢山の浅い孔が有り、網目
状、肉は白く柔らかい。(志 (的矢)、四、安、津、

久、松、多、上、阿、伊、鳥、南) [会話] スドオシ言うな (いうのは) 笹のねえ (根) や、きい (木) の ねえん (根に)。どこん (に) でも はえとんなあ (生えています) スドオシは。あれ 又おいしいのな (のです)。汁 (味噌汁) 炊くと ずるずるとして。わしげ (私の家) の山の上 あしこい (あそこへ) いっぱい 出よおったんけどなあ (出ましたが) 今しや (今は) そげんもなあ (そんなにも)、あんまり (あまり) 繁ったるもんで (繁ってしまったので) 出やへんのなあ (出て居ないので) ひのめ (太陽光) しやせんと (しないと) 繁ったると出やへんの (繁ると出ないので)。日な (が) こお うっすらと (淡く) しとるとこ (している所) は よお (よく) 出る。昼休みん (に) 取りんいて (取りに行つて) かいやま (燃料にする薪を作るため立木を買う) い (へ) 行くと よお取りおった (よく取つて居ました)。スドオシや (は) どこんでも (どこにでも) よけはえとる (沢山生えている) けど 今しや そげんも無いんやろなあ (そんなに無いでしょう)。

すとんげ 【名詞】 頂上 峠の一番高い所 [会話] 山のストンゲや (だ) 言うてなあ 峠い (へ) 行くと。

すなあそび (砂遊) 【名詞】 砂を玩具として遊ぶこと

すなきも (砂肝) 【名詞】 鶏の砂囊

すなけぶり (砂煙) 【名詞】 砂が舞い上がって煙の様に見える現象

ずなし (図無) (頭無) 【名詞】 【形容詞】 途方も無い事 又、そのさま そのような人や物 (志 (布施田、鶴方、立神、国府)、員、一) [会話] おっきい (大きい) とか、ちっさい (小さい) とか ズナシやなあ (だ) 言うて、あんまりおっきいと (あまり大きいと) ズナシや (だ) 言うし、ちっそおても (小さくても) あんまり ちっちゃいなあ (小さいのは) ズナシ ちっちゃい とかなあ。普通でないのおを (のを) 言うんやろなあ (言うのでしょうか)。おっきかったり (大きかったり) 小さかったりな、特別な もん (物) を言うんやろなあ (言うのでしょうか)、ズナシ言うな (言うのは)。

すなぢ (砂地) 【名詞】 海岸、海底の砂の多い所 (張) [会話] スナヂい (へ) 播くと、ええね (よいのだ) 言うてなあ、こなすか (小砂) のなあ あるとこい (所に) 行くと、スナヂやなあ (だ) 言うてなあ こなすかな まぜるとなあ (まぜると) こや (此れは) スナヂやなあ (だ) 言うて 砂の よ

け (沢山) あるとこの (所です) あの 広の浜の なあ 畑い (へ) 行くと、こや スナヂで まあ あの みずすき (水はけ) な (が) ええんなあ (よいのだ) 言うてなあ。磯い (海女に) 行とて (行つていて) すなはらで スナヂでまあ おちいしな (が) ひとつつつ (一つつつ) 有るとなあ その はらおおび (下の鮑) 採つたてやら (とか) 言うてなあ、こなすかばっかで (小砂ばかりで) おた こいなとこい (こんな所に) おもてしてもなあ (思つても) それい (に) おちいしな (が) ひとつつつ (一つつつ) あるとなあ それん (に) よお (よく) おおびな (鮑が) おんねてや (居るのです)。めえ (若布) も、スナヂん (に) はえとて (ていて) やいこおて (柔らかくて) 言うてなあ、スナヂん (に) 石な (が) うまつたよん (ように) しとんのえ (しているのに) めえな (若布が) はえとると (ていとう) やいこおて むしりよいんてや (やすいのです)、おおた スナヂで むしりよおて (やすくて) ええなあ (よい) 言うて。砂原、言うのも 一緒や (です)。すなはらに まあ はえとてな (ていて) どいらい (大変) やいこおて むしりよおてええんよお (取りやすくてよいです) 言うて、せえ (瀬) の 上んのおは (ののは) かつとおてなあ (堅くて) むしつてもこんでなあ (取れなくて) つるつるとしてまあ すえ (端) だけ ちぎつてくる時も あるけど (が)、すなはらん (に) はえとんな (ているのは) やいこおて むしりよいんてや ねえな (根が) ごそごそ して来て。

すなば (砂場) 【名詞】 海底の砂の多い所 (鳥) [会話] 一緒やわいな (です)。スナバも すなぢもなあ。

すなはら 【名詞】 海底の砂の多い所 すなぢ参照

すなぼこり (砂埃) 【名詞】 1) 砂が埃の様に舞い上る事 2) 埃の様に物の上を覆う砂

すなぶら 【名詞】 鮫、木材などについていない鰹の群

すなもと (砂元) 【名詞】 海岸の砂のある所 [会話] 潮の はな (先端) が来ると ないぎ (汀)、スナモトな (が) 泡立ちもて (ながら) ざあざあ 潮な (が) 入れてくんの (来るのです)。

ずぬける (づぬける) (図抜) 【自カ下一】 普通の程度を越えている (大きい、偉い) ずばぬける 並外れる

すね 【名詞】 膝 膝頭 (志 (布施田、片田、志島)、鳥 (神島、坂手、答志)、南) [会話] わが (自

分)の スネでも むこおずね言う。

すねかぶと【名詞】 膝、特に膝の前面、又は、膝蓋骨(飯)

すねがわらう 膝ががくがくする 膝頭が震える

すねこぶ【名詞】 膝、膝頭 [会話] すねな(膝が) 痛い時でも、スネコブな(が) 痛い言うけどなあ(言います)。

すねなががつがつする 膝が、がくがくして運動が障碍される [会話] スネナ ガツガツシテ 歩くかれやへんねよお(歩かれません) 言うて、おりさかん(下り坂に) となると スネナ ガツガツシテなあ。

すねなびんぼになる【俚諺】 罰があたる すねなめしくう参照

すねなめしくう【俚諺】 罰があたる 膝が痛む すねがわらう参照 [会話] すねな(膝が) いとなって(痛くなって) 来ると スネナ メシクウ、すねな(膝が) いとおて(痛くて) 言うなあ。スネナ メシクテクンド(食べて来るぞ) 言うてなあ、欲な事したり がめつゐ事するとなあ そげん(そんなに) あんまりな(途方もない) 事したら、スネナ メシクテクンド 言うて よお言うてやなあ(よく言います)。がめつゐ事したり 欲な事すると スネナ メシクテクンド 言うて、わり(悪い) 事に行きあう(行き合わす) 言うよおな意味やろなあ(でしょう)。わり事が 来るど(来るぞ) 言う事やろなあ スネナ(が) ビンボン(貧乏に) なってく(いく)とか、あんまり がめつゐ事するもんで(ので) しまいにや(には) こんだ(今度は) 罰な(が) 当たって びんぼんなってくど(いくぞ)とか、言うよおな時に 使うんやろなあ(使うのでしょう)。

すねなわらう 膝に力が入らない。膝ががくがくする。 [会話] スネナ ワラウよお言うて、すねな(膝が) がつがつすんのを(するのを) スネナ ワロテ がつがつすんねよお(するのだ) 言うて。

すねのさら【名詞】 膝蓋骨 [会話] 膝小僧 スネノサラ言うんかい(言います)。

すねる【自サ下一】 我儘を通そうとしてうるさく言い張る。

すねんのお【名詞】 長年の功績 すねんは数年、久しい間(島根県邑智郡)と同じか

すの【名詞】 子守奉公の期間 代わり目 八月二日～二月一日、二月二日～八月一日の間各をひとすのと言う。スノウ(収納、出納) スイトウ(出納)(蔵

人所の下司で当所の公事を奉公する者)の訛か [会話] もり(子守)の 代わり日 八月二日と二月二日、ヒトスノ もりおいてもおて(子守に雇ってもらって) 半期 おんのを(いるのを) ヒトスノ 言うて。

すば。すばくら【名詞】 無精して怠ける事 ごまかす事 又その人 怠け者 横着者 無責任な言葉でたらめ 責任のおけぬ人(志(船越、布施田、浜島、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、多、度、伊、尾) [会話] スバクラ またくら おくら 言うね(言うのです)。人の めえ(目)を くらます事を スバクラや(だ) 言うてなあ。スバクラ かして(ごまかして)、あの人な(が) 秤の目 スバクラ かして 言うて、スバクラやよってん(だから) まあ 人のめえ(目) くらます(ごまかす) 言うて。よおなあ(よく) こそ松(仇名) やてら(だとか)、あきうど(仲売人) すると 秤のめえ(目) くらます 言うて、皆 嫌よおったねてや(嫌って居たのです)。こそうりん(内緒で売る事に) 行くとなあ ちよいちよいつ(少しずつ) 持てくのを(持って行くのを) 百め(匁) 有っても 八十めや(匁だ) 言うて めえ(目) くらますの(重さをごまかすのです) スバクラ 言う。スバクラすんの(するので) 嫌いやなあ(だ) 言うて スバクラ や すべっこいな(のは) 一緒やわな(です)。

すばくらかす ごまかす すばくら参照

すばしこい【形容詞】 機敏である 動作が早い すばやい(志(布施田)) [会話] スバシコオオテ(こくて) あや(彼は) 言うて。こそこそとするにげ(人間)をなあ。スバシコイねよってん(のだから) 言うて 人ん(に) 隠れてなあ したりなあ みとらんうちん(見ていない間に) すつと 持ったりすんのををなあ(するのを) スバシコイ 言うてな 人のめえ(目) かすめることをなあ スバシコイ 言うて。

すはだ(素肌)【名詞】 化粧気のない顔、肌 [会話] 化粧したこた(事は) 無いし、じよっく(いつも) スハダでなあ言うんかい(言います)。

すばつと【副詞】 1) 綺麗さっぱり 2) 切れ味のよいこと [会話] 1) スパットやめた言う時ん(に) そいな(そんな) こと 使うんかいなあ(使います) まあ スパット やめたれ(ました) まあ言うたりなあ。すっぱり言うたりなあ 2) 切れもん(物) が 切れるのも スパット 切ったた

(切ってやった)言うてなあ。切れもんな よお
(よく)切れて こやまあ かっとおても(堅くて
も)スッパット きれてたれ(切れていった)言う
て。

すばやい(素早)【形容詞】すばしこい 敏速である
すばらし(素晴)【形容詞】すばらしい 見事である
感心させられるようなさまである 非常に 大変
[会話] じっぱななあ(立派だ)言うて、おたこや
スバラシもんやなあ(物だ)言うてやんかい(言いま
す)。ええのな(よいのが)来ると おた スバラ
シもんやなあ こや(これは)言うてな、どいらい
(大変) ええもん(よい物)をなあ スバラシ言う
て、今し(今)のもんや(者だ)言うて、素敵な
(だ)言うてなあ。

すばる【名詞】切れた延縄、網などを海底から引きあ
げる金具(鳥)

すばんか Spanker【名詞】船の艫にあげる
観音開きの帆

すばん。すばんぼし【名詞】すばる 昂 おうし座に
ある散開星団 肉眼で見えるのは六個 統べる星の
意で古くから王者の象徴 [会話] スバンボシ言う
と なんやら(なんか)塊ったのおな(のが)有る
のなあ、それを スバンボシや(だ)言うて、スバン
な(が)あがって来た言うて ばらけとらんと
(散っていないくて)塊ってしとんの(しているの
を)。

ずぶ【副詞】全く 全然 ズブのしりと

ずぶぐさり【名詞】腐って柔らかくなっているさま
完全に腐っているさま(志(布施田)) [会話] 柿
な(が)腐っとても(ていても)蜜柑な(が)腐っ
とても こや(これは)ズブグサリや(だ)。

ずぶずぶ【副詞】【形容詞】1) 柔らかいさま 2)
泥酔したさま(志(布施田)、鳥) [会話] 1) なん
やかや 物な(が)腐っとても(ていても) てえ
(手)突っ込んだらと(でやると)ずぶんとしてく
となあ(していくと)、こや(これは)ズブズブや
なあ(だ)言うて。柿な(が)腐っとても(ていて
も)蜜柑な(が)腐っとても、芋でも何でも 腐っ
とらと(していると)ズブズブや(だ)とか。

ずぶとい(づぶとい)(図太い)【形容詞】周囲の反応
など気にせず平然としているさま 神経が太い
[会話] ズブトイ言うな(言うのは)、のぶといの
(のを)、肝玉な(が)太いの(のを)、のぶとい言
うけど 気が ものすごお(ものすごく) おつきい

(大きい)事を。

ずぶぬれ【名詞】【形容詞】体、衣類などがひどく濡
れる事 ずぶ 全くの着物や体の全体を濡らす様
まったく はなはだしく すっかり

ずぶり そぶり する様子 [会話] てつきな(が)
ええなあ(よい) なんさしても(なに、させても)
言うて、スブリな(が) ええ(よい)上手な人を。

すべ(滑)【名詞】表面の滑らかさ [会話] 鼻緒
なうと(作ると)鼻緒こすりて きゅつきゅつとす
ると すべな(が) よお(よく)なって じっぱん
なんねてや(立派になるのです)。

すべいし。ずべいし【名詞】表面の滑らかな石 那智
黒石 すべすべいし参照 表面が滑らかで光沢の有
る石(那智黒の角が自然に取れて表面が滑らかで光
沢のあるもの) [会話] ズベイシ くうろい(黒
い)石なあ(です)光ったの。くうろいのお(黒
いのを)。真っ黒い石な(が) かあらみたよん(瓦
のような)色んのおな(のが)有ると、ズベイシ
や(だ)言うて こすつて。ずべずべと しとりお
つたの(していたのです)。あの石はなあ そんで
(それで)ズベイシ言うて。ズベイシ 拾いん
(に) 行こや(行きましょう)言うて。

すべがしこい【形容詞】狡い [会話] 人を まじ
くらかして(誤魔かして)誤魔化すの(に)上手
なと(だと) あや(彼は)人だますの(に)上手
で スベガシコイ言うてな。

すべくら【名詞】狡猾な人 すばくら

すべくる(滑)【自ラ五】滑る(志(神明、国府)、鳥
(浦村)、松、多、北、南、熊)

すべこい(滑)【形容詞】狡い(員、三、鈴市、安)
[会話] 狡猾な事すると すこいとか スベコイと
か よお(よく)似た言葉や(だ)。

すべこおべ【名詞】つるつるに剃った頭 [会話] 坊
主の頭 すつたらと(剃ってやると) すべつとし
るやんない(しているでしょう)。つるつるしとる
のおを(しているのを) スベコオベ ずんべら坊主
とか。

すべこべ 滑らかな事 滑らかな石 [会話] スベコ
べを真石ばつか(ばかり)で言うて。

すべすべ(滑々)【副詞】【形容詞】すべるように滑ら
かなさま 手触りの滑らかなさまを表す語(志(布
施田)、三、鈴市、一、松、上、名) [会話] 坊主
の頭 すつたらと(剃ってやると) すべつとし
るやんない(しているでしょう) すらとしとるの(つ

るっとしているのを) スベスベ。

すべすべいし (滑々石) 【名詞】 表面の滑らかな石。
ずべいし。[会話] すべいし言うて くろうい (黒い) 石ななあ (です) ずべいしや (だ) 言うて 浜い (へ) いて (行って) ひろうとなあ まっくろ (で) なあ 光とて (ていて) スベスベいし ひろいん (いに) いこや (行きましょう) 言うて いきよお った (行って居ました)。

すべすべがみ。ずべすべがみ 【名詞】 表面が滑らかで光沢の有る紙 [会話] スベスベガミ言うの (言うのは) どおな (蟬が) ひいてあんのをなあ (有るのを) ズベズベガミや (だ) 言うて。光かつとる (ている) よおな、油紙みたよんな、しとんね (のようにしているのです) ピカピカ光つとる (ている) よおな 紙も あいなのおは しこおすんのに (手工するのに)、手芸すんのになあ (するのに) 使うけどな (が) あいなの (あんなのは) 子供らな (が) 折紙ん (に) よおなあ (よく) 買おて来て (買ってきて) 使うけどなあ (使います)。

すべすべする 滑らかである (阿、張、名)

すべた (素女) 【名詞】 1) 女の人をののしって言う語 2) 不行跡の女 [会話] 2) おなご (女) の人な (が) だらしないななあ (です) スベタ言うん かいなあ (言うのでしょうか)。

すべっこい (滑) 【形容詞】 1) ずるい すべっこいと 同じ 2) 滑らかである (鈴市、上、阿)

すべつとる 風がよく、海面が非常におだやかなさま。
(志 (布施田)) [会話] 風なよおて (がよくて) 今日 スベツトル 言うて、風もなんものおてなあ (少しもなく) しゃしゃなみ (さざ波) も なんものおて しとる (している) 時な (が) 有ると、おた 今日 風な (が) よおて スベツトンネヨ オ (ているのだ) 言うてなあ。波も なんも (少しも) 無い時 おた 今日 スベツトル 風な (が) よおて 言うて よお言うけどなあ (よく言います)。

すべでこ 【名詞】 綺麗な人形 [会話] 器量な (が) よ過ぎて 瓜実顔の人 見ると スベデコ みたよな (のようだ)。

すべなあ (縄) 【名詞】 藁縄 表面を滑らかにして有るもの (志) [会話] スベナア言うな (言うのは) こおして のおといて (なっておいて) そして こお より (縫り・ねじる) やつて (与えて) 束子 で こすると つるつとなるし、ざらざらなあ言うな

あ (言うのは) ざらざらつと のおたの (なつたのを) そんなり (そのまま) おいとくと (置いておくと) ざらざらなあ言うんし (言います)。よりや つといて (与えておいて) こすつてなあ じっばん なんの (立派にののを)。すくで (藁の外皮) 丸 けた (丸めた) のを 縄の丸けたのを 切つて こす つとなあ (こすると) じっばんなんの (立派になります)。すべすべん (に) なつて、ひげな (が) して 来たのおは (のは) ひげ むして すべすべん (に) なるもんで (ので) スベナア言うね (言うのです)。あんなわ言うな (言うのは) のおた (なつた) なあ (縄) 荒縄。スベナア言うのは 光つたよおな 光沢の有る 光沢も付くわな (付きます) こ すとなあ、ひげは も じけてくし (とれていくし)、ひつくい とこ (低い所) たつかい とこ (高い所) と ないよんなあ (ように) じっばんなんの。昔や (は) 荷作り縄 みたよん (のように) しよ おつ たなあ (して居ました)。今し みたよん 針金 やど け (など) よ け 使わ せんやんない (多く使わないでしょう)。商人 (仲買人が) な 籠 しばんのおも (縛るのも)、なあ (縄) で しよ おつ たねやん かい (していたのです)。荷作りする 今は ナイロン な (が) 有るし 針金 で 大概の もな (物は) するやんない (でしょう)。そや もんで (それで) なあ (縄) は まあ よ け 使わ せんけど (多く使わないが)。が つこい 行く時 分 (頃) 四年生 時 分 (頃) から 夜 な べ して が つこ (学校) から 来る と 芋 も 切つて 麦 も、か して し と け よ お (しておきなさい) 言うて、家の事 ちや つちや つと (手早く) し と いて (しておいて) ほ して (そして) そのあい (間) に こんだ (今度は) 藁 を さん ば (三束) し わ あ つ (四束ずう) 打 つ と いて (打つておいて) 夜 な べ に それ を の お て (なつて) こ す つ て ひげ も 出 刃 で 切 つ て じっばん し と いて (立派にしておいて)、こ が い (樽に) 一日 の お た 分 三 ば (三束) でも し わ (四束) でも の お た 分 わ あ (輪) に して へ し 込 んで (押し込んで)。そして まあ あの い つ そ く 言う と 藁 な (が) 十二 わ や ん かい (束です)。その十二わ (束) なう と、大概 一貫 あ ん ね (有るのです)、縄 な (が)。束 な (が) お つ き い (大きい) のと ち つ ち や い (小さい) のと ある けど、まあ い ち わ (一束) か 半 分 の 違 いや (です)。そや も んで (それだから) い つ そ

く のおたよって (なつたから) 一貫有る言うて、又 もおいっそく なうと 二貫や (です)。ほすとまあ (そうすると) 家の人ら (達) に うわぶき (表面) を のおてもろて (なつて貫つて) 巻いて もろて 越賀い (に) 売りん (に) 行きよつたの (行って居たのです)。五貫ぐらい ためん (の) ためる (の)に) 一月ぐらいも かかる時な (が) あんね (有るのです)。そんでも (それでも) がっこい 行きもて (学校に行きながら) そげんして (そんなにして) 夜なべして 稼ぎよ おつたね (稼いで居たのです)。その なあ (縄) のおて 越賀 まで 売りん 行きよ おつたの (に行つて居ました)。そんな (それが) たまん の な (たまるのが) うれし も んで (嬉しいので) 一日ん (に) ひとよ さ (一夜・一晚) 三 ば (三束) なう日も有るし しわ (四束) なう日も有るし、それ わあん (輪に) して こがい (樽に) こおして (入れて) こがな (樽が) もや が つて 来ると (盛り上がつて来ると) 一杯ん (に) なつて 来たよ つてん (から) 家の人ら (達) に 巻いて もら お か (もらおうか) 言うて、そげんして (そんなにして) 売りん (に) 行きよ おつたね (行って居たのです)。なあ なあ (縄が)、今は (今は) いら ん けど (いらないが) 昔や (は) そんで (それで) あきう ど (商人) の人ら (達) が さい ら (秋刀魚) 開いて 干物ん (に) して あの た ね て (束ねて) 籠い (に) 皆 詰 めて その なあ (縄) で 荷 作 り し て か ち も ち な (徒持ち・運搬人が) 皆 山 田 (伊勢) の 市い (市場に) 持 て き よ お つ た ん や ん か い (持って行きました)。それに 皆 使 よ お つ た も ん で (使つて居たので) なあ な (縄が) よ け 売 れ よ お つ た の (沢山売れて居たのです)。

すべなよおなる 1) 肌が滑らかになる 2) なめらかなになる 3) よく滑る

すべらかす(滑)【他サ五】 滑らす(熊) [会話] すつてのこと 落 と し た り お つ た よ お (落とすところだった) 言うて、落 と し た る (てやる) とか スベ ラ カ ス ト カ。

すべり(滑)【名詞】 1) 船を陸から海に移す時、又海から陸に引き上げる時、船の下に当てる丸太(志、熊) 2) 和船の船底に二本並べて打ち付ける櫂の木で、あげおろしの際、滑りをよくするもの(志(布施田)) [会話] 1) スベリ 言 う な (言うのは) 舟 引 く の ん (の)に) 昔 や (は) い ち に ん ま い (一度) 行 て (行つて) 来 る と す ぐ ん (に) 舟 引 き よ お

つ た や ん な い (引いて居たでしょう)。引 い て き よ お つ た わ い (引いて来ました)。スベリ こ の く ら い ば か つ う つ (約1.5~2mばかりずつ) あ い (間隔) あ け て こ お や つ て、2) そ す と (すると) 舟にも に ほ (二本) 櫂 の き い (木) スベリ な (が) 底 に や つ て あ ん ね (当ててあるのです) 滑 り よ い よ ん (滑りやすいように)。それ い (に) 油 引 い て こ の 下 い (に) こ ろ ば か す (転がす) スベリ い も (にも) 油 引 く わ な (引きます)。そ す と (そうすると) よ お (よく) 滑 る や ん な い (でしょう)。スベリ お ろ し て 来 い よ お 言 う て 沖 人 な (漁師が) 来 る 今 頃 ん (午後三時頃に) は よ (早く) 来 る 時 や (は) 今 頃 や わ い (です)。が こ (学校) か ら 来 た ら スベリ お ろ し ん 行 け よ お (おろしに行きなさい) 言うてなあ、道 具 う ち つ け と い て (学用品放り投げて) 浜 い (に) 行 て (行つて)、ま あ (もう) 父 さ ん ら な (達が) 来 る 時 分 や の ん な あ (頃なのに) 思 て (思つて)、な い ざ い (波打ち際に) 置 い と く と (置いておくと) 流 し た る も ん で (てしまうので) こ こ い (波打ち際より少し上へ) 迄、朝 は 沖 い (に) お ろ し と い て (舟を出しておいて) スベリ を 上 げ と い て そ し て 又 よ さ り (夜) 来 る 時 分 (頃) に な る と、又 その スベリ 引 く の ん な あ (舟をあげるのに) 下 い (に) ま で お ろ し て く ん や ん か い (おろして行くのです)。そ し て せ な (そんなにしなれば) 浜 い (に) 置 い と く と 流 し た り (てしまつたり) 他の浜の も ん な (者が) 取 り ん (に) 来 た り し て スベリ 無 い よ お ん (ように) し た る も ん で (てしまうので)、朝 は が こ い 行 く ま で 沖 人 な (が) 行 く と、スベリ あ げ ん (あげに) 来 て、が こ か ら 来 る と こ ん だ 来 ん の ん (今度は来るのに) 舟 引 か ん なら ん も ん で (引き上げなければならぬので) スベリ お ろ し ん (に) 行 き よ お つ た ん (行って居たのです)。スベリ お ろ し と け よ お 言 う て、お ろ し と か ん と (おろしておかないと) こ ん だ (今度) 舟 な (が) 来 る と 舟 ば な (を) 浮 け と い て (そのまま海に浮かべて) スベリ お ろ し ん (に) こ な は ざ ん も ん で (来なければいけないので)、来 る ま で ん (に) 浜 の 裾 い (に) お ろ し て 並 べ て ち ゃ ん と し と か な な あ (しておかなければ) は ざ あ ざ よ お つ て (いけなかつたので) 忙 し 目 張 よ お つ た の お (張つて居たのです)。スベリ は 丸 太 と 両 端 に 粹 な (が) 付 い と る (付いている)

四角ん (に) なっとる (なっている)、あれは おつきい (大きい) 舟をなあ 引く時や (は) あれや (で) ないと ちっちゃいなあ (小さいのは) 砂い (に) ずり込んでくの (めり込んでいきます)。舟の重み (重量) でなあ。スベリな (が) ほっそいもんで (細いので) ずり込んでくもんで (めり込んでゆくので) 粹つけて 粹にしとくと (しておくと) そすと (そうすると) 持つのでも 真ん中い (に) 入って じょおほお (両方) の手で 車 曳くよん して (ようにして) 持てて (持って行って) そして すと (そのようにすると) 舟ななあ (が) あのワクスベリすると 引きよいの (引きやすいのです)。砂い (に) ずり込んでかんで 砂い (に) ずり込んでくと (いくと) スベリな (が) 滑らせんやんない (滑らないでしょう)。舟の人ら (達) は ワクスベリしよおったの (して居たのです)。

すべりいし【**名詞**】表面の滑らかな石 特に那智黒石の丸い滑らかなもの [会話] スベリイシ言うのな (言うのが) ある。真つ黒い石で ほんどん (本当に) すべすべしとるもんで (しているの) スベリイシや (だ) 言うのなあ。

ズベリざか【**名詞**】傾斜の急な坂道 地名として使用される (固有名詞) [会話] 〇〇げ (家) の とこ (所) を あすこ (あそこ) を ズベリザカ言よ おったの (言って居たのです)。がっこい (学校に) 上ってく (いく) とこ (所) きっさんなとて (急になっでいて) すべってくもんで (いくので) ズベリザカ 言よ おったんやろなあ (言って居たのです)。ズベリザカの どこそこな (が) 言うて 仇名ん (に) しとりおったわい (していました)。〇〇さん家から△△さん家迄 上がってく とこな 有るやんない (でしょう)。あしこ (あそこ) 迄 ズベリザカや (と) 言いおったね (言っていたのです)。坂な (が) 急なとこ (所) そげん (そんなに) 急にも (でも) 無かったけどなあ、急なとこな 有っても あしこ (あそこ) だけ ズベリザカや言うて まだ あれより 急なとこも、有るけどなあ あすかあ (あそこは) 仇名ん (に) なとて なあ (なっています)。

ずべる (滑)【**自ラ五**】ずべる 滑る 物の表面を滑らかに動く 表面が滑らかで固定できず動く (志 (布施田)) [会話] ズベルも、ずべるも一緒や なあ (です)。今日は 雨な (が) 降ったや (たら) 道な (が) ズベツテ言うの。

すぼがる 閉じる 縮む すぼまる、すぼむ参照 [会話] スポガル言うのは 縮む言うの (の)です、すぼむ すぼげる すぼがらせん (ない)。

すぼげて すぼめて 閉じて [会話] ロスボゲテ 上品にしとると (していると) おちよぼ口して すましこんどんねよお (こんでいるのだ) 言うて。

すぼける【**自カ下**】解ける ほどける [会話] すっこける すっこけてた (ていった) とか、すっこける ほどけるのおを (のを) すっこけてた とか スポケルとか言うて、スポケテタ 言う事も有るわい (有ります)。

すぼげる【**自ガ下**】つぼめる 縮める 開いた傘などを閉じる (志 (立神、神明)) [会話] スポゲル 言うて 広がとんのおを (ているのを) これ スポゲタレ (縮めてやれ)。傘でも 開いとんのおを スポゲルとか、なんでも (なにでも) あんまり (あまり) 開き過ぎとると (していると) もおちよいと (少し) スポケタランカレ (てやりなさい) 言うてなあ。開がとると (していると) もおちよいと スポゲタヤええのん (縮めればいいのに) 言うて。

すぼし (素干)【**名詞**】開かないで丸のまま干物にした小魚 (志 (浜島、布施田)、桑市、多、阿) [会話] 鯛のスポシ さいら (秋刀魚) のスポシ、丸干しん (に) して すう (簀) い (に) 干すもんで (ので) スポシ。簀を 編んだのおい (のへ) 皆昔や (は) 干しよ おったよ て なあ (干して居たので) 今しや (今は) 網い (に) さがらすけど (吊すが)。

すばた【**名詞**】1) 魚名 宗田鯉 サバ科マルソオダ、全長30~40cmに達す。体形は鯉に似ている。背方は青黒色で、白色の斜走帯が並び、腹面は銀白色で鯉のような縞は無い。断面は丸くなる。(志) 熊灘沿岸 2) 人をののしって言う語 役立たず [会話] 1) 魚のスポタも 有るし なあ (有ります)。2) なんか こお すぼんだ よんしとる (縮んだようにしている) 人も あや (彼は) スポタや なあ (だ) 言う人も 有るし なあ。

すぼまる (窄)【**自ラ五**】すぼんだ状態になる 狭くなる 細くなる すぼむの延 (大言海)

すぼむ (窄)【**自マ五**】1) 先のほうがだんだん細くなる 小さく縮む しぼむ つぼむ (志 (鶴方)、鳥 (鳥羽、加茂)、亀、張、名) 2) 勢いのよかったものが衰える 弱くなる [会話] 1) スポム 言う うな (言うのは) 縮まる事をなあ スポム 言うのな

あ (言うのです)。もおちよいと (少し) スポメテ かんかれ (いきなさい) 言うて、編んどても (でいても) ひいろいと (広いと) もおちよいと スポメテかな、はざんやんかあ (いかなければ駄目だ) とか、もおちよいと 開いてかな はざん とか言うてなあ、おっきい (大きく) したり、ちっそお (小さく) したりすん (する) のなあ、おっきいのお (大きいのを) ちっそおすんの (小さくするのを) スポメル言うてなあ。すぼんだり 開いたり 菊の花言うて 遊戯すんのも (するの) しよおったやんかい (して居たではありませんか) 皆な (が) てえ (手) 引っ張っておって (つないでいて) すぼんだ言うて 又 ひいらいた (開いた) 言うて 遊びおったもんなあ (遊んでいたものです)。

すぼめる (窄) 【他マ下一】 開いていたものを閉じて小さくする 先の方を狭くする すぼむの口語 (北) [会話] すぼめとけ (ておけ) 言うて 傘スポメル 言うて。

すぼら 【名詞】 なすべき事をしなかつたりして、だらしの無い事、又、そのさま すぼら なげやりでしまりのない事 (志 (浜島、鶴方、甲賀)、鳥、張、南) [会話] ズボラやなあ (だ) あや (彼は) 言うて、さぼる事を 言うて、仕事で 人な (が) いっしょけんめしとても (一生懸命していても)、わがたなんもせんと (自分は何にもせずに) しとんの (して) あひた (人は) ズボラやなあ (だ) 言うて、あやまあ (彼は) すべこおて ズボラやよって (だから) 言うてなあ。

すぼられる 1) 男に驕り者にされる 2) 放蕩に身を持ちくずす [会話] 1) 男ん (に) 騙されて スポラレテ こお (子供) 孕まされて ええ (よい) なぶりもんにおおて (おもちゃにあつて) 言うて。

すぼる 【自ラ五】 怠ける すぼら と関係有る語 [会話] ズボル言うな (言うのは) すんぬけてく (ていく) 事を。すぼらの事を、だらしない (の) すぼら言うんよってんなあ (言うから) 仕事しとんのおを (しているのを) わがと (自分) すこけてくの言うんやるなあ (言うのでしょう)。

すぼんどる 締まっている 狭くなっている [会話] 巾着の口 開けんのを (開けるのを) 口な (が) スポンドシノ (でいるのを) ひっちやけたれ (開けてやれ) 入れのくいわれ (入れにくい) 言うて。

すぼんどる 1) くすぶって居る 2) すぼめて居る

小さくしている 3) 勢いが無い [会話] 3) すぼんだよん (ように) しとらんと (してなくて)、おっきいなって (大きくなって) だくんおれまあ (楽に居なさい)、スポンドラント (でなくて) 言うてな。スポンドル言うね (言うのです)。

すま 【名詞】 海魚 ひらそうだ 宗田鯉 まるそうだ (すぼた参照) に較べるとやや側扁する

すま (隅) 【名詞】 隅 角 囲まれた区域の角、又、端の方 スミ (隅) の訛 (大言海) (志 (片田、布施田、鶴方、神明、甲賀、国府、安乗)、鳥 (答志、鳥羽)、員、三、鈴市、鈴郡、津、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南、熊) [会話] 角の事をなあ スマ 言うて、スマいて (行って) すくどられ (すくんでいる・小さくなっている) あやれ (あれ) 言うて、そや (それ) 隅この埃も 取らな (取らなければ)、隅この埃 見よまあ (見なさい) 言うて ごみくたな (が) 隅っこい (に) 審つとると (審つていると) すみずみも 掃除せな (しなければ) 言うて、すみくた 隅の事を すみくたや (だ) とか、すみずみや とか、角のどこい (所に)。かどかども 掃除すんなら (するのなら) ええけど (よいが) 座敷を 丸く掃く 言うて。そのスマ 掃除せんと (せずに) そげん言うやんかい (そんなに言います)。

すまいおけん 隅におけない (南)

すまいつけとる (すまひつけとる) 住んで居る (志 (布施田))

すまう (すまふ) (住) 【自動五】 住んで居る スム (住) の延 (大言海)

すまざった。すまざったなあ。すまざったのお 1) すみませんでした 2) 別れの挨拶 (志) [会話] 1) おおたまあ 待たして スマザッタナア 言うて、すまんなあ 言うのを スマザッタナア 言うてなあ。

すまし (澄) 【名詞】 吸い物 塩、醤油で味付けした汁 すまし汁 [会話] スマシ 言うて 汁 (味噌汁) を うっすういのおをな (薄いのを) こや (これは) スマシやなあ (だ) 言うてなあ。すいもん (吸物) の うっすういのお (薄いの) こや (これは) スマシジルやなあ (だ) 言うてなあ。

すましこむ (澄込) 【自マ五】 1) 平然としている 平気 他所行き表情やそぶりをする 2) そんな事、かわり無いと言う表情や素振りをする [会話] 1) まじめくさつとる (ている) 事を スマシコム。スマシコンデ あやあれ (あれ) 言うて、真

面目ん (に) しとるとなあ (していると) あや (あれ) スマシコンドンナイ (すましこんでいる) 言うてなあ。

すましこんどる 平然としている 真面目な態度をしている [会話] あや (彼は) すまして 真面目ん (に) してまあ ちんと (正しく) してまあ きちっとしてまあ 真面目に しいんとしとると (していると) まあ まじめくさとられ (ている)、まじめくさって まあ スマシコンドラレ (でいる) 言うてなあ。スマシコンドル (でいる) 言うのも まじめくさとる (ている) 言うのもなあ 意味は 一緒やけど (だが) 言い方な (が) 違うだけであ、スマシコンドラレ (でいる) あやれ言うてな、おとなし (おとなしく) しんびょおん (神妙に) しとるとまあ すまして あやれ言うてなあ。

すましじる (清澄汁) 【名詞】 吸い物 汁は味噌汁を言い 汁に対して醤油、塩にて味付けしたもの [会話] 吸いもん (物) の うっすいのなあ (薄いのです)、こや (これは) スマシジルやなあ (だ) 言うて。

すましや (清屋) 【名詞】 気取ってまじめな顔をする人 きどりや

すます (済) 【他サ五】 1) その事を終える 特に食事 2) 借りた物、特に金銭を返す (北、南) [会話] 1) まあ なんもかも (何も彼も) 皆、仕事を しまわして (終って) まあ 終ると、仕事もスマシテ ま だくやなあ (楽だ) 言う時も あるしなあ なんでも 話でもまあ すんだか 言う時も あるしなあ。1) 御飯 食べる まあ、すんだかい (済みましたか) 言うて、はいまあ すんだわい (済みました)。飯 くるとこい (食べている所に) 行くと、おおた ごじぶん (食事) の 最中やのお (です) 言うて 言うやんない (言うでしょう)、そすとまあ すんだよお (終りました) 言うて 食うた あとなら言うしなあ。スマシタヨオ (ました) 言うのをな すんだよお 言うて 2) かったもんを (借りた物) かやすと (返すと) ま スマス言うてなあ まあ スマシテ だくやなあ 言うてなあ。

すます (清澄) 【他サ五】 盛装する めかす 他人行儀にする (南)

すます (住) 【他サ五】 住ませる 住むようにする

すまづま (隅々) 【名詞】 隅々 すまに同じ [会話] 隅のことを言うんかい (言うのですか)、スマズマも えごと (十分に) 掃除せんと (せずに) こやれ、

角な 座敷を 丸く掃く言うて スマズマせんと (しないと) 言うなあ。隅の ほこりもはらわんか (払いなさい) 言うてなあ。きれんしや (綺麗好き) 家や (は) まあ 隅も、みな ほぜやあるいて なあ (掘り出して) するし、まあ ぞおらくな (だらしな) 家や (は) 隅のはあ (方は) 箒 やらせんもんで (当てないので) みじんな (埃が) こえん (こんな) にも 積もつとる (ている) 時な (が) あるやんかい (有ります)。

すまた (素股) 【名詞】 性交渉の時、女性器に挿入せず、女性が両太腿を合わせ、その間に男性器を入れ交接する事 (志 (布施田)) [会話] スマタ食わして (食わせて) 言うて。スマタ食わした言うて エッチな事する時ん (に)。男の人は それを本気になつとんのおを (なっているのを) 女は いややもんで (なので) こおなあ そいなのおを (そんなのを) 言うねえんかいなあ (言うのではないのですか)。おなごな (女が) まあ 嫌で 男は いっしよけんめん (一生懸命に) なつとるけど (なっているが) おなごな すこた食わす事を (騙す事を) スマタ。

すまだった。すまだったなあ。すまだったのお すみませんでした [会話] すまんなあ (済みません) 言うのを スマダッタナア 言うて。

すまっこ (隅) 【名詞】 すまに同じ (志 (浜島、鶴方、神明、国府、安乗)、鳥、度、員、鈴市、鈴郡、安、一、久、多、上、阿、張、名、伊、北) [会話] すみずみ言うのも 一緒やわい (です)。スマッコえ まあ へしこんどく (押し込んでおく) 言う 時も あるしなあ スマッコから 皆 あやれ (あれ) 出してきたれ (来ました) 言うて、すみずみい (へ) なんやか (いろいろ) 皆 へしこむ (押し込む) 家な (が) 有るやんかい (有ります)。

すまなんだ。すまなんだなあ すみませんでした 御免なさい (上、阿、張、名、南) [会話] スマナンダナア 言うの (のを) すまんだなあ 言う人もあ なあ (有ります)。そやまあ (それは) そいな (そんな) 事して すまざったなあ 言うのを すまんだなあ 言う人な (が) 有るわい (有ります)。そいな (そんな) 事 したて (してしまつて) すまらつたなあ えらいわり (大変悪い) 事したなあ言うのを スマンダナア 言う人な (が) 有るてや (有ります)。長い事 (時間) おって (居て) 帰る時も スマンダナア 長い事 お喋りして言う時ん (に)

使う事も有るわい (有ります)。

すまんだのお すみませんでした (南)

すまらった 住まなかった

すまらった すみませんでした [会話] すまんだなあ言う人も有るし、すまだったなあ言う人も有るし、スマラッタなあ言うて、その人ん (に) よってなあ言い方な (が) 違うもんなあ (違います)。

すまらったなあ。すまらったのお 1) すみませんでした すまらった参照 2) 別れる時の挨拶の言葉

すまん すみません 許して下さい (志、鳥、松、多、上、伊、南、熊) [会話] スマンなあ言うて 気の毒なあ (だ) まあ 待たしとて (ていて) 言うのを スマンなあ言うて。

すまんけど 心苦しいが すみませんが (熊) [会話] スマンケド 気の毒なけど (だが) これ してくれるかい (ますか) 言う時も有るしなあ。スマンケドこれ まあ もててくれるかい (持って行ってくれますか) 言う時ん (に)、まあ 気の毒なけど (だが) 言うのを、スマンケド言うてな。気の毒やけど (だが) まあ これ たのもかいなあ (頼のみましようか) 言うて 物 頼む時ん (に) 気の毒やけど 言うの (のを) スマンケド言うてなあ。

すまんこと 心苦しい事 有難う (南) [会話] スマンコトしたのお (しました) 言うてなあ、したた (してしまつて) 後でなあ おおた スマンコトしてのけたわい (してしまいました) またして (又、又) 言うて。

すまんことやったなあ。すまんことやったのお すみませんでした [会話] スマンコトヤツタナア言うて まあ わり (悪る) かったなあ言うことやなあ (です)。わり かったなあ 言うのを すまんことしたてのお (してしまつて) 言うたりなあ、スマンコトヤツタノオ言うたり ことわる (許してもらふ) 事をなあ。

すまんだ 済みません 有難う (南)

すまんだなあ。すまんだのお 済みませんでした 有難う御座居ました (志、伊、熊、阿) [会話] スマンダナア 言う人もあるしなあ。その人ん (に) よってなあ おおた すまだったなあ言う人もあるしなあ すまらったなあ まあ 言う人も有るしなあ。その人ん (に) よってなあ 言い方な (が) 違うもん (違います)。すまんな (に) 言うのも すまん (に) 言うのも 一緒やわい (です)、なあと のお (に) 言う時や (は) すま

のお言うて たいがい言うけどなあ (大体言います)、女の人らの時や (は) すまんなあ すまらったなあ言うしなあ。すまらったのお (すみませんでした) 言うのをな スマンダノオ 言う時も有るしなあ うなし (同じ) 言葉やけど (だが)。

すまんなあ。すまんの お すみません (南、熊)

すみ (隅) 【名詞】 すまに同じ [会話] すま すみっこ すみずみ スミ 一緒。

すみ (墨) 【名詞】 イカ、タコの体内に有る黒い液 [会話] 鳥賊や 蛸が吐く ひつじ、ひつじや (だ) 言うし、スミ 言う人も有るしなあ (有ります) いかの ひつじ吐いたてやら (とか) 蛸な (が) ひつじ吐いたてやら 言うて、くうろいのお (を) な (を) 黒いのを) ひつじや 言うて 黒いスミ吐くと ひつじ吐いて おこしてまあ言うてなあ。

すみ (墨) 【名詞】 大工の墨壺 墨繩の略

すみ (済) 終り [会話] これでスミ こんで (これで) スミや (だ)。借金もまあ こんで (これで) すまして まあ スミや 言うてなあ。すます事をなあ こんで (これで) スミや でえ (です) 言うて言う時な (が) 有るもん (有ります)。

すみ (墨) 【名詞】 黒穂病にかかった麦についている黒い粉 すみぼに同じ [会話] 麦のすつぼ (素穂)、すらぼ (白穂) は。スミばつか (ばかり) 黒穂や (です) スミばつか 入つてくと (畠へ入ると) 顔も すみまめぐりん (炭だらけに) なる。

すみくた 【名詞】 すまに同じ [会話] 一緒やわい (です) スミクタイ よせとけ (ておけ) 言う人も 有るしなあ すみい よせこんどけ (寄せておけ) 言う人な (が) 有るし (有ります)。

すみけし (炭消)。すみけしつぼ (炭消壺) 【名詞】 火消壺 [会話] スミケシ言うて、かあら (瓦) の壺の事言わせんかい (言いませんか)。“親父入れとけ消し壺へ” 言うの あれ スミケシツボ言うんな (言うのです)。蓋 (が) してあつて 火 焚くと おきな (燠、残り火が) よけ (沢山) 出来るともつたない言うてなあ、それい (に) 皆 消しとくと (ておくと) 堅炭の代わりん (に) それを 火鉢い (に) 入れたり、こんろい (七輪に) 入れたりして 使うのん (に) (使うのに)。消し壺い (に) 入れとくの (入れておくのです)、火消し壺言うのなあ。割り木を焚いた こんこん (火勢の強い状態) しとんの (しているのを) もつたないのん (の) (に) 言うて それい (へ) 皆 消しおつたわい

(消して居ました)、消し壺い(に)。

すみだあら(すみだわら、すみだはら)【**炭俵**】**【名詞】**炭を入れる俵 藁、あし、かやなどで編んで作る タワラの訛 [会話] スミダアラ言うてなあ あの 藁で編んでなあ てえねん(丁寧)にせんと(せずに) ざらざらと のおたのおでなあ(編んだので)、秋い(へ)行くと まだ たあな(田が) あからまんとなあ(熟さない)と スミダアラ ねえやん(姉さん) 編んでくれえ(下さい)言うたりなあ、みがきずな入れる たあら(俵)と スミダアラとは よお にたよなのおやわい(ようなのです)、そすと かやで 編むとこ(所)も有るしなあ。スミダアラを 藤 切ってきて 編むとこもあるしなあ、いろいろ その所ん(に)よってなあ、なんやかや(いろいろ) 藤な(が) よけ(沢山)有るとこは 藤 切ってきて 藤 曲げて スミダアラん(に) 編むとこ(所)も有るし、そして かやで 編むとこ(所)も有るしなあ あの 買おて来ると いろいろの たあらな(俵が) あるやんかい(有ります)、その所ん(に)よってなあ。編む材料な(が) よけ(沢山)有るもん(物)で あむとなあ。炭いれる 炭をまあな 三貫なら 三貫はかってなあ それ入れて みいとこからげて(三ヶ所縛って) ここらい(へ)出してくるやんない(でしょう)。

すみっこ【**名詞**】隅 すま参照(三、員、鈴郡、鈴市、安、松、多、伊、尾、南)

すみつば【**名詞**】火消壺(南)

すみば【**名詞**】黒穂病にかかった麦の穂 [会話] みいん(に) ならんと(ならず)に、ほんと(本当)の 真つ黒ん(に)なって 炭や(です) そんで(それで) スミボ。

すみまめぐり 墨だらけ まめぐる 何処も彼も その物を沢山つけていること 混ざっている事 [会話] 習字すると スミマメグリン(に)なって。

すみやき(炭焼)【**名詞**】魚名 しまいさぎ シマイサキ科の海魚。全長約30cmに達す。背方は青灰色で、体側に四本の黒い縦縞が有り、その間にははっきりしない細い条が有る。イサキに似て縞の有る所からこの名が有る。口先は尖る。浮き袋の伸縮によって音を出す。(志(鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、度、伊、南) [会話] スミヤキ言うのは 魚も スミヤキ言うのなあ。

すむ(済)【**自マ五**】終わる 話がつく 折り合う

[会話] 話しな(が) スムとか、なんか 用事 済ました言うて。揉め事も 話しな(が) ついた 揉め事も まあ(もう) スンデ 解決ついた 言う事 やるなあ(でしょう)。まあ スンダ言うてなあ 揉め事な(が) まあ スンダ、解決ついたら こんで(これで) 一段落済んだれ(済んだ) 言うて よお言うやんかい(よく言います)。

すむもすまんもほりぬきいどやれ【**俚諺**】済みませんとあやまった時に返す言葉 掘り抜き井戸だから澄んでいるのか 濁っているのか判らない [会話] 済まんだ(済みません) 言うて、スムモスマンモ ホリヌキドヤレ言うて 掘抜き井戸やのん(だのに) 上等やれ(だ) 言う事やるな(でしょう)。掘抜き井戸やよって(だから) 澄んだねやら(のか) 澄ませんねやら(ないのか) 濁つとんねやら 判らせんやんかい(判りません)。スムモスマンモ ホリヌキドヤレ言うな(のは) 澄んどんねやら(澄んでいるのか) 澄んどらせんねやら(でないのか) 判らん言う意味やなあ(です)。

すむれ【**名詞**】鯉だけが集まって居る群。木片、鮫などについていない鯉の群。

すめ(素目)【**名詞**】1) 海女が潜水眼鏡をかけないで水中に潜り海底を見回す事(志、鳥) 2) 酒を飲まない時 すめん(志(志島)、鳥、南) [会話] 1) 眼鏡かけんと(掛けずに)行くと スメンで入ってた(行った)。眼鏡かけんと 昔や(は) 行きおったけど(行って居たが)、今しゃ(は) そいな(そんな)事 無いけどなあ。昔は わしらな(私の) 親の婆さん(祖母)ら 眼鏡かけんと スメで 行くねてわい(行くのだそうです)。そすと(そうすると) めえ(目)も なんも しおな(海水が)入って 河豚の目みたよん(のように) 磯(海女作業)から来ると 真つ赤ん(に)なって しとりおったんどお(していたのだ) 言うて、親の婆さんな(が) 言よおった(言て居ました)。眼鏡かけんと 底い(に) いて(行って) めえとんのかい(見えているのですか) 言うて、めえとるけど(見えているが) わがとな、りきがん(自分の肉眼)だけで見ると キラキラして そげん(そんなに)はつきりとは 判らせんなあ(判りません)、そやもんで(それで) いっしょけんめ(一生懸命)で めえひつちやけて(目開いて)するし、めえい(目に) しおな 入るもんで(ので) 家い(に)来ると 河豚のめえい(目に) 塩 したよおんしとり

おった(ようにしていた)言うて、言よおった(言いました)。真っ赤ん(に)なって めえ(目)もなんも 河豚のめえい(目へ) 塩したのおより(のより) あっこおなりおったれ(赤くなって居た)言うて、眼鏡かけんと 入るもんで(潜るので)。そやけど(それだが) 鮑やどけ(など) よけおるもんでなあ(沢山いるので) 足で踏んだりすると きりつともおたりして それを取りおったね(取って居たのです)。見やんと(見ずに) よけおりおって(沢山居て) それい(に) 登ったる(登ってやる) 時な(が) あんね(有るのです)。鮑のほおとんの(這っているのに)、そすと(そうすると) きりつとして あっおる(居る)言うて 獲ったり。手探りしたり、たいがい(大体) けんとで(見当で) 獲りおったんやろなあ(獲ったのでしょう)。おおた(ああ) そげな(そんな) 事して、昔の人ら(は) 目もなんも よお(よく) しまわらったのお(悪くしなかったですね)言うたら、しもたててなあ(悪くしても)又、目薬さしや治られ(点せば治ります) 言よおったてや(言っていました)。りきが わがとな(自分の) 目だけで 肉眼の事 りきが ん言うた(言います)。

…ずめ(づめ) …しずめ しどおし どおし 通し 一連のものが 始めから 終り迄 続いている 始めから 終りまで (阿、張、名) [会話] 仕事シズメで くたばった(疲れた)。ずうと 仕事ばっかしとる(ばかりしている) 事を 休まんと(休まずに) なんもかも シズメやったなあ(だった)言うて、シズメン(に) しとて(して) まあ シズメやったよお(だった)。仕事だけやしん(だけでなく) 泣きズメ 笑いズメ、よさり(夜)も 夜ズメ 言うて よさりごと(毎晩) 夜更け迄 仕事しとると(していると) 夜ズメして 言うて なあ 夜ズメばっか(ばかり) して かいだり(かいだるい・疲れた)とか 眠たいとか 言うて なあ ほん(本当に) 夜ズメばっかで(ばかりで) このごろ(この頃は) まあ 言うて よさり(夜) 夜なべして 幾日も 続くと なあ 夜ズメで くたばったよお(疲れた) 言うて。

すめし(酢飯)【名詞】 酢を入れた御飯 [会話] スメシ言うな(言うのは) 唯 御飯だけの事を 言わせんのかい(言いませんか) スメシ言うな。

すめる(済)【他マ下一】 済む [会話] 神さんへ 参ると 気な(が) スメンネけど(るのだが) まだ

よお参いらんね(のだ) 言うて。

すめん(素面)【名詞】 1) 酒に酔っていない事 又、その顔 しらふ(志(浜島、布施田)、員) 2) 化粧していない顔 [会話] 1) スメン言うな(言うのは) あんたな(が) 今し(今) スメンやんかい(です)。酒飲まんとおるよって(飲まずにいるから)。スメンの時や なんも よお言わんで(言えなくて) 言うて、酒飲みやなあ(酒飲みは) スメンでは なんも(少しも) よお言わんね(言わないのです)。酒 飲まな(飲まなければ)。真面目な時や(は) よお言わんで スメンでは なんも よお言わんとおって(言わずにいて) 言うて、酒 飲むと くだまいて。2) 女の人な(が) 化粧しとらんのも スメン、素顔 言う。

すも 住まおう 住むこと にする

すも【名詞】 すもう 相撲 角力 すもうは スマヒ(相撲) の訛(大言海) (志、鳥(鳥羽、加茂)、鈴郡、鈴市、一、松、多、上、名、伊、尾) [会話] 相撲言わんと(言わずに) スモ。スモトリ見よや(見ましよう)、スモ見よや 言うて。スモトリ これは お相撲さん スモトリ すもお取り 言わんと スモトリ。

すもじ【名詞】 酢を加えた飯に 魚肉、卵、野菜 などの 具を まぜたもの 五目鮓 すしの すに 文字を 添えたもの (志(布施田)、上、阿) [会話] 御飯へ 酢うって こお(具) 入れて すんの(するのを) スモジ。魚だけ 入れんのは(入れるのは) てこねやわい(です)。生魚 入れんのは てこね。そやよって ん(それだから) なんやかや 具入れんのを(入れるのを) スモジ 言うなあ。牛蒡 や 人参 や(だとか) 入れんのを なあ。この頃の てこねは スモジと てこねの あいのこ(間の子・中間) こお(具)も 打ち込んで(入れて) 上手にして あると うまい なあ(美味です)。あれもう まい 魚のこお(具) もして 具も 入っとなあ(入っているのは) うまい。

すもた 住んだ

すもった 元気が無い 萎縮 している [会話] しびたれとて(萎おれていて) 言うやんかい(言います)。なんやら(なにか)、スモッタ よんしとると なあ(ようにしていると)。しおれとると なあ(ていると)、思案 した よんしとると なあ、しよびたれとる(ている) とか 言うて。

すもとらせん 住んで いない

すもとり (すまふとり) 【名詞】 力士 すも参照 (志 (鵜方、神明、立神、国府、安乗)、鳥)

すもどり (素戻) 【名詞】 1) 不漁 漁が無くて空手で戻る事 2) 目的を果さずに帰る事 [会話]

1) ほんまあ (本当にもう) 今日 なんもはざん で (駄目で) スモドリ やったよ お (だった) 言うて、じょおし (漁師) の人ら (達) は、そやよってん (それだから) 朝、行くの ん (のに) すう (酔) の もん (物) 食うと 縁起取って (かついで) ひた (人は) 嫌う。スモドリして来る言うて、猿の事もなあ 漁へ行く時 猿の話しすると 嫌うの。そして わしらな (私達が) 磯い (海女作業に) 行ても (行っても) 舟な (が) 揺れるもんで (ので) 肩い (に) つられたるやんない (つかまるでしょう)。朝 おりるまで (海女作業を始めるまでに)、そすと (そうすると) 商売肩押した言うて ピーンと して く にげ (していく人間・人) が ありおったわい (有りました)。肩い (へ) ひよろけるもんで (よろけるので) ひよいとつられたると (つかまえてしまうと) 怒ってなあ こんして (こうして・肩をいからして) 肩して おこしおった (よこしました)。誰やら (誰か) どいらい (大変) 縁起かつぐのおで (かつぐので) かたいでも (傾いても) ひよろけて ちよいとつられてくと (少しつかまると) あんな (彼女の) 肩い (に) つられてくと やっからかさ れんど (ひっくり返されるぞ) 言うて、こげんして (こんなにして・肩を引いてよこして) そしたや (そしたら) ひっくり返ってくやんない (ひっくり返っていくでしょう)。すと (すると) やっから返った言う。倒れた 言う事 倒されんど (倒されるぞ) 言うのを やっからかしてた やっからかされた言うてなあ。漁師い (へ) 行く (漁をしに行く) 時なあ (に) 猿の事言うと なんもかも 皆 去って くやろ (いくでしょう)、そやもんで (それだから) 嫌うの 縁起とんの (取るのです) 去る言うて。去られる言うやんかい (言います)。漁な (が) 無いとは ざん (駄目だ) 言う事やなあ (です)。勝る言うて 縁起とつきやええよおなもんやけど (取っておけばいいようなものだが)。縁起や (は) 取りよで (ようで) 餅や (は) 食いよ言うて。

すもとる 住んで居る (志) [会話] あの家や (は) 人な (が) スモトンノカレ (ているのか) あやまあ なんも (少しも) 人な (が) スモトル よんしとらせ んやんか (ようにしていないでないか) 言うて、破

れさがしてまあ うちやれさがしとると (壊れて居ると)、あの家やなあ (は) にげな (人間が) スモトンノカレ あやまあ なんやら (なにか) まあ荒れてなあ うちやれたとこ (壊れた所) も なお さんとおんない (居る)。スンドル (でいる) 言うのをなあ スモトル 言うの なあ (です)。

すもとんね 住んで居るのだ

すもも (酸桃) 【名詞】 はたんきょう バラ科の落葉小高木。高さ3~6m、葉は互生し、長さ5~7cmの狭長卵形、縁に細鋸歯が有る。四月頃、葉に先立って葉腋に白色で径約2cmの白色の五弁の花が咲く。果実は径2~5cmの球形、またわ広卵形で赤紫色、又は黄色に熟す。果肉は甘酸っぱく多汁。[会話] スモモ 言うな (言うのは) あっかい (赤い) ちっさいのななあ (小さいのです) あ はらんきよおや (巴旦杏) スモモ やてら (だとか) 言うて、有るやんかい (有ります)。今 しんなあ (今の物は) うまいわい (美味です)。おっかい (大きく) なって 真っ黒ん (に) なって 昔の スモモ こんだけばか (これぐらいばかりの) ちっさいのおや (小さいのです) こころから 売りん (に) 行たの (行ったのは)。あ ちや (あちら) から くんな (来るのは) 大きなおな (のが・物が) 持て 来るわい (持ってきてます)。あ、スモモ や (だ)、はらんきよおや 言うて、よお (よく) 似たもんや (ものです)。そいなもんしか (そんなものより) 昔や (は) の おて (無くて) したのん (のに)、今しゃ (は) ネクタア 言うの な (のが) 流行って きて て (来ていて) おいしいんやんかい (美味です)、あれ。

すもり (巣守) 【名詞】 子供の無い人 子供の無い婦人 妊娠しない女性 卵が孵化しないで巣だけ守って居る事から (志 (越賀)) [会話] スモリ 言うな (のは) 子供の無いの (のを)、子供の 出来やせん の (出来ないのを) スモリ、鳥な (が) 卵を よお割らんと (孵化させないと) こや (これは) スモリ や なあ (だ) 言うて、卵を よおかえさんと (孵化させないと)、子供の 出来ん (出来ない) 人を スモリ や (だ) 言う。

すや すれば [会話] おっかいのおでも (大きなでも) こぎりし として スヤ (小さく切るしておいてすれば) 食いよのおん (食べやすいのに)。

ずやげる すり上げる [会話] ズヤゲル 言うて、こお (子供) おおどても (背負っていても) こおな

(子供が) 背中から ずつてくと (落ちて行くと) ズヤゲエ言うて、上の方い (へ) あげんのなあ (あげるのです) ズヤゲル言うて。

すら (空) 【名詞】 知らぬ振りをする とぼける (志 (布施田)、鳥) [会話] マ斯拉言う、スラしとる言うのは まあ 私ら (に) あんたが、なんか (貴方が何か) 言うてもなあ なんも (少しも) 知らん顔して 他処向いて あんたな (が) 言うこた (事は) 聞かんと (聞かずに) まあ スラしとる (している) 言う。そして とのおた事 (質問した事) 言わんと (言わずに) 他の事言うとんの (言っているのを) スラして よそ事言うとられ (言っている) 言うて。あんたな 言うても あんたの言う事 知らん顔して こっちやで (こちらで) いらん (いらない・別の) 事言うてなあ しとるのおを (しているのを) マ斯拉や (だ) 言う。マ斯拉しとる (している)。スラ言うたり (言ったり) マ斯拉、あや (彼は) マ斯拉で ほん (本当に) スラしたんてや (したのだ) 言うてなあ。スラバコやわな (です)。スラバコ おなし (同じ) 事やけど (だけど) スラバコやわなあ (だなあ) 言うて あんまり ごおなわいて (あまり腹が立って) 来るとなあ スラバコや (だ)、あやまあ (彼は) 言うの。幾ら こちらな (が) 言うても なんも (何も) 言わんと 知らん顔しとるやんない (しているでしょう)。そすと (そうすると) こっちや (こちらは) 腹立って来る もんでなあ (ので) おおた スラバコやわ (だ) 言うの (のです)。

すらうで 【名詞】 手関節の運動障碍 関節を屈伸させると痛みと共にぎいぎいと言う音を伴う すらで、えびでとも (志 (布施田、鶴方、神明、立神、国府、安乗)) [会話] スラウデ言うて、なつともしやせんねけど (何ともしないのだが) ひとり (自然) いとなつてくんの (痛くなって来るのです)、くじき (捻挫) も なんもせんでも (しなくても) どいらいいとおて (大変痛くて) こでな折れん (手関節の屈伸が出来ない) 時な (が) あんねてや (有るので) す)。

すらえんじょ。すらえんりょ 【名詞】 心にも無い遠慮 [会話] スラエンジョ、かしんもて (菓子持って) 来てくれても まあええのん (もうよろしい) まあ ええのん言うやんない (言うでしょう)、欲しいて おつて (欲しくて居ながら) それ、スラエンジョして、スラエンジョしとらんと (していなくて) もて

けえ (持って行け) 言うて。

すらおぼえ 【名詞】 うろ覚え (北)

ずらかす 【他サ五】 ずらす 下に落とす 位置を動かす [会話] ズラカシトケ (ておけ) ちよいと (少し) いじらかすのおを (動かすのを) ズラカシトケ まあ (ておけ) ちよいと 言う時もあるしなあ。揃えてあんのをなあ (有るのを) ちよいと (少し) 取りよいよん (やすいように) ちよいと ズラシトク やれ (ておきなさい) 言うてなあ。ぞらす (動かす) こと、ぞらしとけ 言う人も有るしなあ ズラカス 言う人も有るし。きちつとして有るのを ちよいと 場所を移す。ちよいと いじらかすの、なぶつて (さわって) ぞらかしたたれ (てしまった) 言うてなあ、じっぱん (立派に) きちつと まあ して有っても まあ なぶつてたりなあ (さわって行ったり) いじらかしたりして、まあ いじくじん (凸凹に) なつてくと (て行くと) まあそやれ じっぱん (立派に) してあつたや (有ったら) ぞらかしたて (てしまって) まあ言うたり、ズラカシタテ 言う人も有るしなあ (有ります)。下え 落としたんのも (てやるのも) ズラカス。下え すべらかしたたれ (滑らしてしまった) 言うて、下いなあ (へ) なんか持つとて (ていて) 落したと (てやると) まあ おとししや すべらして おとしたた よお (落してしまった) 言う時もあんなあ (有ります)。

ずらかる 【自ラ五】 逃げる

ずらい 【形容詞】 ずらい

すらじに (空死) 【名詞】 そらじに 死んだふりをする事 [会話] 死んだ振りしとんの (しているのを)、死んだ真似しとんのを スラジニ。死んどらんとおつて (死んでないのに) えごつと (完全に) 死んだよおん (ように) 真似しとんのを スラジニ 言うの。熊が出て来たら スラジニせえ (しなさい) 言うやんかい (言います)。

すらする 知らぬ振りをする 空惚ける

ずらつと 【副詞】 1) 残る所のないさま すべて ずらり 2) 人や物が並び連なる様 [会話] 2) 並んどんのおを (並んでいるのを) ズラツと並んだ言うの。陳列しとると (していると) あや (あれ) ズラツと 並んで まあ言うて。

すらで 【名詞】 そらで (空手) 何が原因ともなく手首の痛む病気 すらうで参照

すらとぼける 知らないふりをする (志 (神明、志島、

国府)

すらね (空寝) 【名詞】 すらね 寝たふりをする事
(志 (布施田)) [会話] 寝たふり、ゴオゴオ軒かいて。狸寝の事を スラネ言うんやわい (言うのです)。スラネして あやあれ (あれ) 言う。コオコオ言うて 口あいて 寝たふりしとんのをなあ (しているのを) スラネや (だ) 言う。おおた スラネして あや言うて。

すらぼこ 【名詞】 とぼけていること又、その人 おすら 参照 [会話] 人の言う事 耳に入れんと (入れずに) おすらしとんのおを (とぼけているのを) スラバコ。

すらほ 【名詞】 稲、麦の実の入らない穂 白穂 [会話] 麦の スラホ言うてまあ 実の いらんのをなあ (入らないのを) ほん (穂に) 出てもなあ みい、よおいらんと (実が入らなくて) すかさかん (に)、スラホ言うのもあるし、しらほ言う時も有るしなあ (有ります)。ま たあ (田) も まあこや しらほな (が) 多いなあ 言うて、時化ん (に) おおたり (逢ったり) 虫んさされたり (蝨虫などが入ったり) すると、みいな (実が) いらせんのをなあ (入らないのを) しらほや (だ) とか、スラホや (だ) とかなあ。みいな (実が) 入っとらせんと (入っていないと) スラホな (が) 多いなあ 言う時も有るし、しらほな (が) 多いなあ 言う人も有るしなあ (有ります)。

すらぼける (空惚ける) そらとぼける 知っていて、承知で知らないふりをする。(志 (浜島)、鳥、北) [会話] スラボケテ、スラボケル なつとも言わんと (何にも言わずに) 知らん顔しとる (している)。人ななあ (が) なんやかや (何や彼や) 言うてもなあ なんも 聞かん (聞かない) ふりして なつとも言わんとおるの (言わずに居るのを) スラボケル。知つとおつて (知っていて) 知らん (知らない) よおな 格好。そいな (そんなのを) スラボケトル言うてなあ 知つとおつて (いて) 知らん顔して あや (あれ) スラボケテおんない (います) 言うて。

すられ します 出来ます [会話] おらげ (俺家) も あげな (あんな) 事スラレ、言うなあ (言います)、おらげ (俺家) も あげなこた (あんな事は) よお (よく) スラレ言うたりな。

すり 【名詞】 ひざらがい くさずり貝科に属す 小判形で体長5~6 cm、幅3~3、5 cm背面中央

を前後に褐色斑の有る八枚の殻が並び、その周囲には小さな刺が密生する。下面の広い足で潮間帯の磯の岩に付着し、岩に付いた藻類を食べる。岩からはぎ取ると腹面に曲り膝関節の皿になぞらえて、ひざら貝の名がある。(志、鳥 (菅島)) [会話] 磯ばた (海岸の暗礁) の スリ言うな (のは)、島のあわい (間) に ぺたっと ひつついとてなあ (ていて) のみで 起しても 起されやせん (起せない)、爪が 八枚有んねやろなあ (有るのでしょうか)。縁に くるうとなつとて (なっていて) それに 粒々のしやりな (が) 一杯付いとて (ていて) 真ん中は ちっさい (小さい) 爪なつとて (なっていて) ふち (端) は ちっそおてなあ (小さくて) だんだんと おっきい (大きく) なつてなあ 真ん中に。そして ごおたん (甲羅に) なつとて それを こおすると (折り曲げると) ひばり (ひび・亀裂) が割れるやんかい (でしょう)。それを 抜いといて (抜いておいて) そして 摺鉢でこるばかしたると (転がしてやると) ふちの しやりな (が) 取れてくね (取れてゆくの) です。その爪だけ残つてなあ、爪の 真ん中を へしよつたと (へし折つてやると)、そして 取つたてなあ (取ってしまった)。磯ばたい (へ) いて (行って) 食べる時は 摺鉢で出来やへんやんない (出来ないでしょう)。島で こそげんねやんかい (擦つてやるのです)。こんだ (今度は) 爪のとこ (所) は きゅつと へしたると (押しつけてやると) 折れると 取れやすいもんで (ので) それ 取つといて (取つておいて) 食べおつた (食べて居ました)。かつとおて (硬くて) そやけど (それだが) うまいねてや (のです)。すう (は) はりはりするやんかい (でしょう)。はりはりすると おいしいなあ。せんがき と 若芽と入れて三杯酢で、そして スリは 摺鉢ですつた (摺つておいて) スリのはりはりや (だ) 言うて、あれ ざつと 湯がいといて (ておいて) すると うまいね (美味です)。そやけど (それだが) 硬いね (のです) 硬いねけどなあ (のですが) その はりはりな (が) おいしいなあ。どびごき (嫁が皿) とは 又 違う。どびごきや (は) もこつとしとて (して) 鮑みたよんしとるやんない (ようにしているでしょう)。あれを 又 とて来といて (取つて来ておいて) うつすう (薄く) 切つてなあ わた (内臓) 取つといて (ておいて) 鮑食べるよおんしとんの (ようにしているのです)。なます

ん(に)すると 二杯酢で食うと。今しは(今は) 誰も 獲らせんもんで(獲らないので) どいろお(大きく)なって それを 剥いて(ておいて) えごと(十分に) 揉んどいて(でおいて) うっすう(薄く) 切って 酢だまりで食べたら 鮎 食べるよおんしとねよお(ようにしています)。どびごきと一緒に どびごきや(は) まああるいの(丸いの)そして あの 一緒に ひつついとる(いている) 六角形みたよおなの(ようなのを) あや(あれ) こおもりやら(こうもり傘・鶴の足とか) なんやら(何とか) 言うやんかい(言います)。ちよいと(少し) かど張って こおもりみたよおん(みたいに) 傘さしたよおんしとるもんで(ようにしている)ので こおもり。あや(あれは) 食べた事無いけど 食うよおん(食べるように) 無いけどなあ 食わへんなあ(食べません)、どびごきや(とか) スリは 皆 食うなあ。どびごきや(は) うまい。昔や(は) 食わらったけど(食べなかったが)。スリは 食べよおったけど(食べて居たが)、どびごきや(は) そげんよけ(そんなに沢山) 食べらったけど(食べなかったが)、あれ 炊いても あんまり(あまり) おいしいくないけど 二杯酢で食べたら おいしいね。鮎 食べるよおんしとて(ようにして) おっきいもんやもんで(大きいもの)ですから。

ずりあがる【擦上】【自ラ五】 あがる はいあがる [会話] ズリアガル ずりゃがって来たれ(来ました) まあ 言うて 下い(へ) 落ちこんどんのな(でいるのが) ま あがってくと、ズリアガッテ来たれ 言うて。がっこ(学校)も なんも よお出来んでも(少しも出来なくても) また これ ちよいちよいつなあ(少しづつ) おっきいなりいか(大きくなるのか) まあ 勉強すんのか(するのか) 知らんけど(が) よお出来るよん(よく出来るように) になって来ると、ま そん(それ)でも あや(彼は) ずりこんでたけど(落ちて行ったが) ズリアガッテ来たなあ 言う時な(が) あるやんかい(有ります)。あれも(彼も)、まあ こや おちこんでまあ だくだいや(落第だ) 思たけど(思ったが) そんでも(それでも) ズリアガッテ来たなあ言うてな よお(よく) 出来て来ると。

ずりあげる【他ガ下一】 引きずりあげる [会話] こお(子) おおどてもなあ(背負っていても) こおな(子が) まあ 背中から ぞやげえまあ(上げなさい)

い) 言うて あの かきやげえ(かき上げなさい) 言うてなあ こおして 尻を かきやげえ(抱かえてあげよ) 言うのんなあ(のに) ぞやげえまあ、ぞやげ(上げる事)もせんと(せずに) あやれ(あれ)、ぞらして(下らして) 言うて。こお(子) おおでも(背負っても) ま 尻の方い(へ) しとるとなあ(していると) ぞらしてまあ ズヤゲタレまあ 言うてなあ。上げる、かかええ(抱えよ) 言うのをな ぞやげえ言うて。

ずりおちる【自タ上一】 落ちる 滑りながら落ちる 抵抗にさからって落ちる [会話] 滑って 落って くよん(落ちて行くように) ま ずるずるとしてく(して行く) 時な(が) 有るやんかい(有ります)。あやれ まあ ズリオチテクネ(て行くのだ) ズリオツタレ(ていった) とか、ズリオチテ(て行った) 言うてなあ。ずるずると 下い(へ) さがって くとなあ(て行く)と。

ずりおとす【他サ五】 すべり落す [会話] ズリオトスは こつちやから(こちらから) 落すのなし(の)です。ま しぜん(なにせせずに) と おって くな(落ちて行くのは)、ずりおりて くな(て行く) あやれまあ言うてな ま ちよいと(少し) かかえやとかな(支え当てておかなければ) ま あや(あれは) ずりおりてかれ(て行く) 言うてな。

ずりおりる【自ラ下一】 滑り降りる(桑市)

ずりがね【擦鉦】【名詞】 葬式の時の銅鑼 擦り合わせ鳴らせて使う [会話] スリガネ 葬式のスリガネ、スリガネ打ちや(だ) 言うやんかい(言います)。どんちゃんがねすんのをなあ(するのを) スリガネや(だ) 言うてなあ、葬式の時 どんちゃんが ん あれをなあ。どんちゃんがねな(が) 鳴って来たれ(来た) 言うてなあ どん言うて 太鼓打つと、ちゃん言うて あれするもんで(ので)、どんちゃんが んや(だ) 言うてなあ 言よおったの(言っていました) どん ちゃが んな(が) 鳴って来たれ 葬式な(が) 出るかして(とみえて) 言うて よお言よおったてや(よく言っていました)。出る時や(とか) それから 墓い(に) いて(行って) 焼香してなあ 終るとなあ あれをなあ どん ちゃん言うて 葬式が 終わりですよ 言うねや るなあ(言うのでしよう)。

ずりきず【擦傷】【名詞】 物と物が摩擦して出来た傷 特に物に当たってすりむけた皮膚 [会話] スリキズ ちよいと(少し) まあ スリキズ。スリキズ

は そやけど (しかし) 一番 おとしなあ (怖いです) 黴菌入れたると (てやると)、ちいな (血が) 出たると (出てしまうと) ええんけどな (よいのだが) ちいな、出やんと (出ないと) スリキズはまあ一番 おとしね (怖いのです)。

すりきり【摺切】【名詞】 容器に丁度一杯のこと (志 (布施田)) [会話] スリキリ言うて あの茶碗えまあ 飯 もつてくれえ (よそつて下さい) 言うて、もつても (よそつて) 八分目もるとなあ、スリキリ もつてくれ (よそつて下さい) 言うてなあ。えん (縁) から 中ん (に) 入っとんの (ているのを) スリキリや (だ) 言うね (言うのです)。して えん (縁) から 上い (に) あがると もやがとる (盛り上がっている)、もやげてもろて (盛り上げて貰って) 言うしなあ (言います) 一杯 一杯んの (ののを) スリキリ言うて。まあす (枡) でも 米、はかっても 一杯ん (に) なって そして 棒で こすつたるやんない (こすつてやるでしょう) そやもんで (それで) そんで (それで) スリキリなあ (です)、すつたるもんで (こすつてやるので) スリキリ言うて。そしてあの 八十八 今し (今) 皆 ゆわうやんない (祝うでしょう) そすと 八十八は 昔やなあ (は) 餅こぼるとなあ (配ると) そして 竹をなあ 節をせんとなあ (せずに) じょおほしい (両端に) 紙張ってなあ そして 八十八 つぼ (粒)、米入れてなあ、こばよおったね (配って居たのです)。

すりきれる【摩切】【動詞】 擦れ合って切れる 破れる

ずりこけてた 滑り落ちた

ずりこける【自力下一】 ゆるんで落ちる すっこける [会話] ズリコケテタレ (て行った) 言うて、ずっこけてた 言うてな、ズリコケテタ (て行った) 言うて、ぞれおちてくと (崩れ落ちて行くと) ズリコケテタレ まあ言うて。ぞれて (崩れて) こお 落つてくの (て行くのを)、雨な (が) よけ (沢山) 降って 土手な (が) ぞれおちてたれ 言うてな、くろぼく (黒い土) の 土手な (が) まあ 雨ふくで (含んで) 落つてくの (て行くのです) まあ 土手な (が) ぞれおちてたんよお (て行きました) 言うて、よお言よおったわい (よく言っていました)。水を くくんで (含んで) がけくずれや (だ) 言うの なあ (です) そいな (そんなのを) ズリコケル 言うね (言うのです)。

ずりこむ【自マ五】 1) ずるずると入り込む、滑る ようにして落ちる 泥の中などに入る (員) 2) 入り込む [会話] ズリコンデタない (でいった) まあな。いきなり (急に) 落ちて 土ん (の) 中い (へ) ズリコンデタレ (でいった) 言うてな、土ん 中い 入つてく (て行く) ことをなあ ズリコンデタ (て行った) 言うてなあ。1) 落ちたや (ら) まあな 土ん 中い ズリコンデタレ 言うて 土な (が) やいこいもんで (柔いので) 言うて、よお言うやんかい (よく言います)。

ずりこんでく 入り込んで行く [会話] **ずりこむ** (入り込む)、ずれおちる (すべり落ちる) 言うて ズリコンデク のを。

すりちがひ (すりちがひ)。すりちがえ (すりちがへ)

【擦違】【名詞】 少しの事で行き違いになる事

互いに触れ合う程近くを、それぞれ反対方向に通る過ぎる事 [会話] すりちんしたん あ言うて、行き違いする やんない (でしょう)、そすと まあ あれげい (彼の家へ) 行たや (行ったら) まあ おや (俺は) スリチガエ してなあ言うて、行き違い んな んのを (になるのを) スリチガエや (だ) 言うて。すりちんしてまあ よお あわんと来たよお (逢わずに来ました) 言うて。

すりちん【名詞】 すれ違い [会話] かたいっぽな (片一方が) 出て、かたつぼな (片一方が) 入って来る。スリチンして言う時 な (が) 有るやんかい (有ります)。スリチン やつたんなあ (だったのだ) 言う、入れ違い言うのを スリチンしたんなあ (したのだ) 言うて。

すりつける【他カ下一】 こすりつける なすりつける [会話] てえ (手) 切つたや (ら) 薬を スリツケトカナ まあ (ておかなければ)、そやまあ はざんわれ (それはいけな) 言うて。スリツケル 言うてなあ なんえ (何に) でも こんな (これが) 破れてたけど (ていったが) 糊で まあ スリツケトケ (ておけ) とかなあ、傷 すると 薬 スリツケル とか言うてな、こお にじくりつけんのをなあ こすりつけんの (つけるのを) スリツケル 言うてな。

ずりつける 衝突する [会話] いきなり (急に)、落つてたり (て行ったり) するとなあ、ずんといたよお (行った) 言うてな、ずんと ズリツケテタ まあ いと おて (痛くて) 言うて。

すりみ【摺身】【名詞】 魚肉を摺りつぶしたもの

[会話] スリミ言うな (のは) 魚のみい (身) をなあ 取って 搦鉢で搦ってなあ。鯉節をなあ たくとなあ (炊くと) かどぶしな (鯉節が) 傷な (が) いとるとこな (ついている所が) あるやんない (有るでしょう) そすとなあ その スリミをなあ 搦つといて (ておいて) それを 傷いなあ (に) 塗ってなあ 鯉節の 傷いやすのん (治すのに) しよおったわい (して居ました)。かどぶしの その うちゃれい (壊れている所へ) なあ その スリミをなあ すりつけてなあ 炊くと まあなあ 鯉節みたよん (のように) じっぱんなつてくんでや (立派になって行くのです)。魚のみい (身) を搦りつぶして 団子汁作る時も スリミん (に) しといてなあ (しておいて) そすと うまいけど (が) まあ そいな世話な (そんな面倒な) ことより ジャッキでなあ 潰してくれるよつてなあ (から) 搦らんでも (なくても) ええけどなあ (よいが)。昔や (は) 搦鉢でなあ じっぱん (立派に) すよおったんでや (搦って居たのです)。こお (粉) も入れて 味噌も入れてなあ 団子んすんのは (にするのは)、そして、スリミん (に) すんな (するのは) まあ、その 魚のみい (身) だけをなあ 搦鉢で じっぱん (立派に) すると まあ 糊みたよんなつてくわい (のようになって行きます)。

すりむけ【**擦剥**】**【名詞】** 摩擦によって出来た皮膚の傷 皮膚が剥けている傷 [会話] スリムケたたれ (て行った) まあ言うてなあ あの すりきずすると こけて (転んで) まあ すね (膝) すりむいて きたよお (来ました) 言うてな。

すりゃ【**接続詞**】 すれば それならば、そんなら。すればの転 (大言海) (志、安、多、度、伊、北) [会話] あいな (あんな) ことして、あいなこと すやとか、スリヤとか、あいなこと すやええ (すればよい) 思て (思つて) 言うて 言う時な (が) あんな (有ります)。あいなこと すやええ (すればよい) おもて (思つて) あげな (あんな) こと すんねやかなあ (するのだろうか) 言う時な (が) あるやんかいな (有ります)。ええおもて あいな (あんな) こと すんねやかな 言うてな。あいなこと スリヤ ま、ええ 思とんねかいなあ (思っているのか) 言う人も有るしなあ すや言う人も有るし (有ります)。

すりよる (**擦寄**)【**自ラ五**】 1) 近くに寄って行く
2) その人の気に入られようとして近くに寄って行

く、又、上手を言う [会話] 1) おんなどこい (俺の所へ) スリヨツテ来て言うて、ねきんおつても (近くに居ても) 芝居みいんいても (見に行つても)、おた あの人な (が) おらなどこい スリヨツテきたや (来たら) くそおて (臭くて) まあ言うて よお言うやんかい (よく言います)、ねきい (近くに) 寄ってくること スリヨルとか すりつけて来たとか言うてな。

ずりよる【**自ラ五**】 近くに寄って行く すりよる

すりわり【**名詞**】 挽き物臼で粗らく搦り割ること 又 その物 (志 (布施田)) [会話] スリワリ言うて、臼でなあ、こお (粉) に ひいたらんと (ひかずに) あらくとお (粗く) ひいてなあ、それを 飯を水よつけ (沢山) 入れて やいこお (柔かく) お粥 みたよんしといてなあ (のようにしておいて) それ い (へ) その こお (粉) を 振り掛けるとなあ、ねんぼりと (粘りが出て) 餅みたよん (のように) なつて、うまいんでや (旨いのです)。南瓜入れたり 芋入れたり 小豆や、ささげ 炊いてなあ、入れると また うまいんでや。

すりわりみそ 雑穀を挽き物臼で引き割った物を入れた雑炊 ひきわりみそ参照

すりわりめし 御飯に雑穀を挽き割った物を入れたもの (志、鳥)

する【**他サ変**】 ある行為を行う (志 (浜島、御座、片田、畔名、志島、甲賀)、鳥 (坂手)、鈴市、松、上、阿、張、名、伊、北)

する (**搦**)【**他ラ五**】 産卵する

する (**剃**)【**他ラ五**】 剃る そるの転 かみそり等で ひげや髪の毛などをそぎ取る (志 (布施田、御座、甲賀)、鳥、鈴市、松、上、阿、張、名、北) [会話] 仕事スル。編みもん (物) スル。裁縫スルとかなあ、畑の仕事もスルとか。味噌スル 胡麻スル それこそ 搦り込む。おっさんな (和尚さんが) 頭スル (剃る)。剃る言うのを スル言うね。ひげそる言うのを スル言うの。まいのき (眉毛) もすつて言うてなあ 口髭もすつて言うてなあ。こころ (下腿) も 擦りむけた言うて 言うやんかいなあ (言うのです)、こけて (転んで) 傷ん (に) なると。よんべ (昨夜) も テレビで すね (膝) 傷して 薬つけとたや (ていたら)、おら (私の) 子供の時にや (には) 年がら年中 (一年中) すねに 傷の無い時や (は) 無かつたのんなあ (のになあ)、今しみたよん (今のよう

に) 履くもん (物) 履かせんで (履かないので) 着るもん (物) だけやよって (だから) こけると (転ぶと) すぐん (に) すね 擦りむいて、すねん (に) 傷な (が) 絶えるこたなかよおつたの (事は無かった)。今しゃ (今は) すねん (に) 傷する言うこた (事は) めつたん (に) 無いけど、昔ゃ すねな (が) 無事で おるこた (居る事は) 無かよおつたなあ (有りませんでした)、年内傷しとよおつたの (していたのです)。昔ゃ (は) なんも 履かせんもんで (履かないので)。昔の人ら (は) すねん (に) 傷 有るもな (者は) かや原 よお通らんで (通れなくて) 言うて、昔ゃ すね 皆 傷ごろん (傷だらけに) しとりおつたやんない (したいたでしょう)。すねん (に) 傷な (が) 有ると わり (悪い) 事 しとると (していると) さいご (その時) まあ 警察の前とか わり 事した家の前とか よお通らんと (よく通れなくて) すねん (に) 傷な (が) 有るもんで (ので) よお通らんねどお (通らないのだ) 言うて 昔ゃ 言よおつた (言っていました)。

する (擦) 【他ラ五】 1) こする 物と物とをふれ合す 2) 挿鉢、石臼などに入れて物を細かく砕く

ずる 【名詞】 ぜんざいの餅の代わりに、ときびの粉の団子を入れた物 ずるずる参照 [会話] ズル。とびき (ときび) の ぜんざい。“餅の無いぜんざい”と かけたら 何を解く言うて “しとら (一人) 娘”と 解くわいなあ (解きます) 言うて 解いた心は言うて そこは 昔さん “餛汁 (案じる) ばかりや (です)” 言うて 底い (に) 餛汁ばっか (ばかり) 残る。団子だけ えって食たると (選って食べてやると) 餛汁が残るもんで (ので) そこは (其処・底) 皆さん あんじるばかりや 言うて。しとら 娘で よさり (夜) おっそいと (遅いと) やんない (でしょう)。そやもんで (それで) しとら 娘 や (だ) 言うて 餅の無いぜんざい。

ずる 【自ラ五】 1) 位置や時間が決まった所から少しはずれる ずれる (志 (布施田)) 2) 狡猾な人。少し外れている人 [会話] 1) 場所が動く言うのも ズル。ちよいと (少し) そこ ズットルやんかあ (ずれているでないか) ずれとるやんかあ (ずれて居るでないか) 言うてなあ いじとると (動いていると・前の通りでない) ずれとる 言うてなあ。2) 人間でも ちよいと (少し) ズレトンナア (ている) 言う人も 有るしなあ、あやまあ (彼は) ち

よいと ズレトンねよってん (のだから) すてっこい (狡い) 事するとなあ。ちよいと いがんどる (歪んでいる)、こお 横つちよんなつとんのを (横向きになっているのを) ズル 言うて。

ずる 【自ラ五】 動く

ずるい (狡) 【形容詞】 1) 自分の利益のためごまかして、うまく立ち回る性質である 信用できない (志 (浜島 国府)、鳥 (相差 桃取 坂手)) 2) しまりが無い ふしだらである 不品行である 身持ちが悪い (特に女性) (張、名) 男女関係のみだらなさま (志 (布施田)) 3) だらしない [会話] 3) ズルいなあ あや (彼は) 言うて、なんでもだらしないとなあ、あや (彼は) 人間な (が) ズルイネよってん (のだから)、した事な (が) だらしないわれ (です) 言うてなあ。2) おなご (女) でも 男に だらしないもな (者は) ズルイ 言うてなあ。あや、ズルウテ (彼女は狡くて) 誰でも 寝やして (寝させて・寝て) 言うて。身持ちな (が) わり (悪い) 言うのを、ズルイ 言うて。あや、ズルウテ 男や (と) 言うて 誰でも 寝やす (寝さす) 言うて。だらしない事するもんでなあ (ので) ズルイ。

するがごとく するように [会話] 鮫な (が) 来て 言うて、スルガゴトク 昔 まあのもん (魔物) おおたりすん (逢ったりする) のを そげん (そんな) に 言うたね (言ったのです)。

ずるけ (狡) 【名詞】 怠ける事 (上、阿、張、鳥)

ずるけとる 1) 怠けて居る 2) ゆるんで居る

するける 【自カ下一】 ずり落ちる (鳥 (鳥羽)) [会話] 北海道 笹な (が) よけ (沢山) あるもんで (ので) 笹へ 魚 刺しとる (刺している) 話しや (です)。そすと (そうすると) ずうっと 後ろへ スルケテくやんない (ていくでしょう)。

ずるける 【自カ下一】 1) しなければならぬ事をしないで居る。怠ける (鳥、上、阿、張) 2) 結んでいたものが緩んで解けかかる (帯・紐等) 整っていた形が崩れる (北) [会話] 2) ズルケテタなあ (てしまった) 言うて、なんでも 縛つたのおが (のが) しぼけてくと (解けていくと) ズルケテクなあ (いく) そやあれ (それ) 言うてなあ、1) して (そして) 仕事でも ズルケル まあ なんもせんと (せず)に 言う。するけてくと (すり抜けてくと) ズルケル 言うてなあ、そやま (それ) 帯も ズルケテクナイ (いきます) そろそろんして ズルケ

ル言うてなあ。薪や(とか) なんや(何か) 束ねて あんの(あります) あれも ズルケル言うてなあ 抜けてなあ。

するごっと する度に(志(立神))

することなすこと する行為すべて(志(布施田))

ずるずる【副詞】【形容詞】 1) 怠慢なさま くずぐず(志(布施田)) 2) 柔らかいさま 鼻水などを吸るさま [会話] 2) こや(これは) まあ やいこおて(柔らかくて) ズルズルやなあ(だ)、ぜんざい とびきのずるや(だ) 言うてなあ あの 小豆炊いて さと(砂糖) 入れてなあ とびきだんご 入るとまあ ズルズルとやいこおてなあ(柔らかくて) つるつるすんね(するのです) そやもんで(それで) あんで(あれて) ずる言やおったんかいな(言ったのでしょうか) 今日はまあ 雨な(が) 降って 休みやよつて(だから) ずるしょおか(しましよう) 言うてなあ。2) ズルズル ごとばな(青漬) すすつて言うてなあ はな(漬) を、ごとごとと 上い(へ) 吸うたてなあ(吸って) ごとばな(青漬) すすりこんで まあ言うて。

ずるずるべったり【形容詞】【副詞】 折目切り目のない事 [会話] 借金しても だんだん伸ばしてくのを ズルズルべったり引きづつとて(引きづつて居て) 言うて。

するで。するでえ します

するとさいが。するとさいご …すると その時(一) [会話] そげん(そんなに) スルトサイゴ うちやれてくど(壊れて行くぞ) 言う時ん(時に)、そげん(そんなに) スルトサイゴ そやまあ(それは) うちやれとらせんのかれ(壊れていないか) とかなあ そのときんなあ(時に) そげん(そんなに) スルトサイゴ 言う事言うのなあ(です)。これはその時に そいな(そんな) ことしたら 言う事やな(です) ソストサイゴ はざんわれ(駄目だ)。

するに 1) するでしょう 2) します

するに します [会話] スルニイ言うら(が) あんなあ(有ります) する言う事。

するにことかいて 程度を越えて、してはならない事をする

するのやったら するのだったら

するび【名詞】 隣寸(志(畔名)、鳥(相差、加茂)、桑市、鈴郡、鈴市、一、松、多、上、阿、張、名、伊、北、尾、南、熊)

するやい するものか [会話] おら(俺は) したない(したくない) 言うのを、だな(誰が) 言うてな。だな(誰が) スルヤイ 言う訳やなあ(です)。

するやらせんやら するのかしいないのか

するやんかい します [会話] あんた(貴方) も スルヤンカイ、しやせんかい(しませんか) 言うて、人な(が) する事みとて(見ていて)。

するやんない するのでしょうか [会話] そげん(そんなに) スルヤンナイ、はな(漬) すすつたり スルヤンナイ、そげな(そんな) こと しやせんかい(しませんか) 言うて。

ずるよも【名詞】 狡い人 怠け者 [会話] ずるうて(くて) 怠けてばつかおつて(ばかり居て) 言うてな、あや(彼は) ズルヨモヤどお(だ) 言うて。

するわい します しておきます [会話] 責任 おおて(負つて) こや、わしな(これは私が) スルワイ しとくわい(しておきます) 言うて。

するん 1) する(度、尾、熊) 2) するだろう

するんや するのだ(松、上)

するんやんない するのでしょうか [会話] スルヤンナイ言うて 途中え んを付けても 一緒のこと やけど(だが) その人ん(に) よつてなあ ゆいよななあ(言い様が) みな違うねてや(のです)。そげん(そんなに) 言うんやんない(のでしょうか) 言う人もあるし 言うねやんない 言う人もあるしなあ 言うねどお(言うのだ) 言う人も有るし。

ずれ【名詞】 位置、時間、または考えなどが基準よりはずれて合わない事 くいちがい [会話] あの話も まあ わしな(私が) したのおと(のと) どいらい(大変) ズレな(が) あんなあ(有ります)。違うと さいごなあ(その時) あんたな(貴方が) 言う事と わしらな(私の) 言う事と どいらい ズレな あんなあ 言うて、あんた(貴方) と 私と此処い(へ) 来た時ん(に) ズレな有つてなあ、すれちがいや(行き違いだ) 言うてな すれちがいな(が) 有る言うてなあ。

ずれおちる【自タ上】 下の方へ滑って落ちる ずり落ちる [会話] ずれおつてたれ(落ちていった) 言う。落つてたれ 言う人も有るし ずれおつてたれ言う人も有るしなあ、ズレオチル言う人も有るし。うなし(同じ) 言葉やけどなあ(だが) 意味は ずれこむ言う人もあるし。ずれこむ、ずりこむ、ズレオチル言うのも みなまあ うなし 言葉やけどなあ(です)。

すれがしこい【形容詞】 狡猾である 機敏である
(志(布施田)) [会話] スレガシコイ、すべがしこい 一緒や すでがしこい言うのも、すでっこい言うたりなあ あや(彼は) まあ すでっこいねよって(のだから)言うて、すこいことするとなあ あやまあ すでっこいて まあ言うて、人のめえ(目) くらまして(誤魔化して)言うて、すてっこいと すべっこいと 一緒や(です)。言うにげん(人)によってなあ 言うことな(が)違う。人がこれ ほし(欲しい) 思とても(思っています)自分で ヒュツと持てくのを(持って行くのを)さぞい。スレガシコイ言うねやろなあ(言うのでしよう)。

すれこい【形容詞】 狡猾である 悪賢い ずるい
すこい参照(志(甲賀、片田、浜島、立神、志島、国府、安乗)、松、度、伊) [会話] スレコイ事して言うてなあ 狡猾な事を スレコイ言うんな(言うのです)。スレコオテ(くて) あや(彼は) なんもかも ひんまるけてかれ(全部丸め込んで行く)。人のもん(物)でも なんでも 持てくと(持って行く)と スレコオテ言うてなあ。スレコイ言うのなあ ごまかす事やわい(です)。

すれこむ 1) 時間が遅れる、おそくなる 2) 滑り落ちる

すれすれ(擦擦)【名詞】【形容詞】 1) 触れ合いそう な程近いさま 2) もう少しである基準限界に達し そうなさま きわどいさま(志(甲賀)) 3) すれ違い 4) 互に仲の悪いいさま(志(甲賀)、鳥(鳥羽)) [会話] 2) スレスレやなあ言うて、ま 一緒やなあ(だ) 言うのをなあ スレスレやなあ(だ) 言う人も有るし、3) スレスレん(に) なつてて(なつていって) 言うて、話してもなあ 話な(が) どっちゃんかっちゃん(行き違い) するとなあ、話な(が) まあ スレスレん(に) なつてた(なつて行った)とかなあ 言う時もあんなあ(有ります)。すれちがいん(に) なつてた(なつていった) 言う時 言うしなあ。そして なんでも(何でも) こお、スレスレ まあ ほん すりきりや(だ) 言うてな、すりきり 一杯もろたよお(貰った) 言う時も有るし、すりきり一杯もつてくれ(よそつて下さい) 言う時もあるしなあ(有ります)。

すれすれんなる 1) 意見が合わない 2) 力が競り合う

すれちん【名詞】 すれ違い すりちん(志(布施田)) [会話] スレチンした言う、行き違いん(に) になると、おおた スリチンした言うけどな(言います)。すれちがいやった(だった) 言う人もあるし してまあ よおあわらったよお(逢えなかった) 言う時もあるけど。スリチンも、スレチンも 一緒やわい(です) 一緒やけどなあ(だが)、その時ん(に) よつてなあ うなし(同じ) にげな(人が) 言うてもな 言う事な(が) ちがうてや(違うのです) うなし 言葉やもんでなあ(なので)。

すれっこい【形容詞】 悪賢い ずるい(志(御座、布施田、鶴方、神明)) [会話] あや(彼は) スレコイ 言うてな、あんまり(あまり) 狡猾な事 するとなあ あや(彼は) スデッコオテ(狡くて) まあ 言うてな スデガシコオテ 言うて。狡いとか なんかなあ、なんでも いんちきしたり 人のめえ(目) くらましたりすんのなあ(誤魔化したりするのです)。

すれとる 1) 狡猾である 世慣している(志(布施田)) 2) 物が擦れて傷んでいる すれる参照 [会話] 1) スレトネよつてん(ているのだから) 言うて、人な(が) あばずれん(乱暴者に) なつとんのなあ(なっているのです) あやまあ(彼女は) スレトテ(ていて) まあ なんしたてて(なにをしても) 人の言うこた(事は) ま がいる(蛙) の つらい(面に) 水かけるよんしとて(ようにして) いて 人の言うこた 気にしやせん(しない) 言うのをな、そいな(そんな) 時ん(に) 言うんやんかいなあ(言うのです)。太平楽なこと言うたり したりしてまあ 人の言うこた がいん(あまり) 気にせんと(せずに) しとんの(しているのを) まあ がいるのつらい 水かけるくらいやれ(だ) あれん 言うたてて(彼に言っても) 人の言うこた(事は) 気にしやせんにげなあ(しない人です)。2) きもん(着物) まあ こや(これは) スレトル ま よけ(あまり) あの きもんばつか(着物ばかり) 着とるもんで(着ているので) まあ すりきれてたれ ま そおでぐちなてやら(袖口がとか)、裾な(が) スレトル とか言うてな。

すれる(擦)【自ラ下一】 狡猾になる ませる [会話] すれて来る 言う事やろなあ(でしょう) スレル言うのは、大人になって すれて来た言う事 こおへて(世間ずれして) 来た。

すれる (擦) 【自ラ下】 物と物とが触れ合って傷つきそこなわれる スル(摩)の訛 [会話] スレル内股な(が) スレル 若いもんらなあ(者達) よお(よく) こえとるやんない(肥えているでしょう)、そやもんでなあ(それなので) わかいもんな(若い者が) 肥てまあ 足な(が) ふつといと(太いと) そすと またくらなあ(内股が) またずれな(が) して言うやんない(言うでしょう)、スレテまあ言うて 股と股とな(が) ひっついとるもんで(引っついてるので) 汗で ひっついて、すれん(る) のをなあ スレル 言うて。

ずれる 【自ラ下】 1) すべり動く 低い方へ移動する。2) 正しい位置や時期からはずれる [会話] 1) 2) すべってく(すべって行く) 言うんか(言うのか)、その場所が、はずれる言うんか ズレル言う。ズレタレ(ていった) まあ そや そこな(が) やいこいもんで(柔らかいので) まあ ふんだたや(踏んでしまったら) ズレタレ(て行った) 言う時もあるし。ぞれてた(ていった) おかた(大体) ぞれた言うんなあ(言います) ぞれてたれ(て行った) ま そやれ 土手な(が) 言うてな ズレル言う人もあるけどなあ。

すわつとる (据) 1) 安定している 2) 動かない 3) 置いて有る

すわり (据) 【名詞】 ある物を他の物の上に置いた時のおちつき具合 物の安定度 [会話] 物 置いた時に、スワリな(が) ええ(よい) とか、わり(悪るい) とか、尻な(が) ペたんとする と こやどいらい(これは大変) スワリな(が) ええなあ(よい) 言うてなあ、尻な(が) ま こや(これは) でこぼこでまあ がたごとすられ(します) 空白ふまれ(踏む) 言うてなあ。尻な(が) でこぼこしとると(していると) ごとごとすると、からうすふまれ(踏む) そやれまあ えごと(十分に) 尻 ならしたれ(平らにしてやれ)、そや スワリな(が) ええやんかあ(よいでないか) 言うて、スワリな(が) わり(悪るい) こと がたごとすんのを(するのを) からうす踏む言うて。

すわり 【名詞】 つわり 悪阻 [会話] 子 はらんどると(妊娠していると) げえげえ言うてなあ するとまあ スワリやなあ(だ) 言うて。 つわりや(だ) 言わんと(言わずに) スワリや(だ) 言うて、うどん 小麦の 滓びきしよおより(するより)、スワリヤミして 寝てござれ言うてな 昔や(は)。

すわりかけ すわろうとする時 [会話] 腰掛えなあ 腰かける時をな スワリカケ言うわいなあ(言います)。腰掛え スワリカケたや(ら) まあ 来い言うて よびんきて(呼びに来て) とか言うてなあ。

すわりこむ (座込) 【自マ五】 ある場所に座って動なくなる。入り込んで腰を据える。

すわりこんぶ 【名詞】 足の甲に出来る胼胝 [会話] 足の甲に出来るのを言うの(の)です、スワリコンブとも言うし むかいこんぶとも言うしなあ。

すわりもん (据物) 【名詞】 招待された人が持って帰るように前もって御膳についている菓子など、引出物 (志(鶴方、神明、甲賀、国府、安乘)) [会話] 昔は 落雁言うのな(のが) スワリモンで、人参や ごんぼ(牛蒡) 鶴や亀にして 押しもん(押し物・落雁)にして。

すわりやみ 【名詞】 つわり 妊娠悪阻 [会話] つわり言うのを すわりや(だ) 言うて、スワリヤミや(だ) 言うて、スワリヤミ言う と 座つとて(座つていて) 病むんかいなあ(のでしょうか) 言よおつた(言っていました)。“腹もにかにか 頭も やめる(痛む) スワリヤミかよ 恥ずかしや” “うどん小麦の粕挽きしよより スワリヤミして 寝てござれ” 小麦の粕引きすると なんも(少しも) こおな(粉→子が) 出やせんもんで(出ないので) 言うねやるなあ(言うのでしょうか)。

すわる (座) 【自ラ五】 1) 正座する (志(国府、越賀) 鳥(坂手)) 2) 鳥や虫が止まる (志(志島、国府)) [会話] 1) あんた(貴方) が 座つとる(ている)、むかう言うの。むことれ(座っている) 言う と なんや(何か) 婿取れ言うよおな言い方やなあ(だ) 言うて、2) 鳥な(が) スワルたら(とか) 虫が スワルたら、とまる事をなあ。鳥がとまる言うのを きいん(木に) スワットラレ(すわっている) 言うてなあ。鳥がとまるとる言やええのん(言え方がいいのに) 鳥な(が) あしこん スワットラレ(あそこにすわった) 言うね(言うのです)。とまんねやったら(止まるのだったら) 普通やけど(だが) スワル。

すわる (座) (据) 【自ラ五】 物がその場所に位置して居る 土瓶が火鉢にスワットル(志)

すわるとばあとる 太った人 尻の大きい人

すわるやない 座ってはいけない やないは動詞について禁止を表す

ずん 【名詞】 1) 行き詰まり 限界 2) 物に突き当

った時の表現

すんぐ すぐに 直ちに (志 (神明) 鳥 (鳥羽、桃取、相差)、阿、度、伊、南) [会話] スング。スング行くわ (行きます) 言うて、今し (今) たった今言うのを スング。

すんぐに 直に すぐに (志 (神明) 鳥 (相差)、三、鈴郡、亀、安、一、松、上、阿、名、伊) [会話] すぐん言うんかい (言うのですか) 来い言うたや (言ったら) ま すぐん とんで来たれ (来ました) 言う そのにげ (人) によってなあ、スングニ まあ 来たれ とか、スングニ来たない (来ました) 言うたりなあ その にげ (人間) によってなあ、ん 使うにげ (人間) も有るし。

ずんぐり 【副詞】 身長低く肥えている様 (上、阿)

すんぐん 直に すぐに

ずんずくずん 【副詞】 1) 連なっている状態 2) 急に变化するさま [会話] 1) ずずつと 次から次へすん (するの) まあ ひとりなつて (一人前に・成長する) 来たれ (来ました)。そやあれ (それ) 言うて。胡瓜が ここにも ありや (有れば) あしこ (あそこ) にも ふしなんで (並んで) して来ると ズンズグズン なつてたれ (しまった)。

ずんずらご 【名詞】 自分より五代目の子孫 (志) [会話] ズンズラゴ 言うて、やしやご (子・孫・ひこ・やしやご→ずんずらご) の次の ズンズラゴ。ズンズラゴまで言うて めつたん (に) ないなあ。やしやごは 今し (今) 有るけどな。ズンズラゴ 言うて 百越えやななあ (百歳以上でなければ)。茶寿 (百八歳) 越さなはざんなあ (越さなければ駄目です)。

ずんずん 【副詞】 どんどん (志 (布施田))

ずんずんつなぎ 【名詞】 数珠続き [会話] 数珠つなぎ言うて (のを) ズンズンツナギ。

すんだ (済) 動作の完了を示す補助動詞 終わった、特に食事 [会話] まあ スンダよお 言うて ま 話もまあ スンダよお 言う。今日は こんで (これで) スンダンかい (のですか) 言うてなあ、終りを ま こんで (これで) 終りかい 言うの ま スンダン カイ 言うてなあ 御飯もスンダ、食べた まあ スンダンカイ まあ スンダよお ま 食うたよお (食べました) 言うてなあ。

ずんた 【名詞】 耳の聞こえない人 (志 (片田、船越、浜島、布施田))

すんだかい。**すんだかな** 食事は終わったかの意味

夕食時、或いは食事時に他家を訪れる時の挨拶の言葉 [会話] まあ (もう) スンダカイ 言うて、ごじぶん (食事) スンダカイ 言うて、今晚 言うて 行くと ごじぶんスンダカイ 言うてなあ。はよいて も (早く行っても) スンダカイ 言うて、まあ すんだよお (すんだよ) 言うてな。食事は終わったとか 言うのな (いうのが) まあ すんだよお 言うて、やつとるか (やっていますか・食事中ですか) 言うて 入って来る人も有るし、やつたよお (終わった) 言うて。やって来た 言う人もあるし、入って来んのん なあ (来るのに) 心やすい (気心の知れて居る・仲のよい) 家やわいなあ (です)。普通の家ならなあ 今晚 言うて 入るけど、心やすい家は おお やつとるか 言うて やつたよお 言うて。めしどきん いて (食事時に行つて) 挨拶ん (に) 入る時ん (に) まあ スンダカイ 言うてなあ、入って来るな (来ます)。

ずんたのこみみ 【俚諺】 聴覚に障碍の有る人が大きい声では聞こえないのに、低い声の話し声が聞こえる事 [会話] おつきい (大きい) 声で言うて 聞こえやせん (聞かないのですし)、ちつちやい (小さい) 内緒話 して (して) 聞いて 聞こえる時 も有るし ズンタノコミミ。

ずんたのそらみみ 聴覚に障碍のある人が大きい声で話しても聞こえない事。かつてつんぼ参照

すんだよお 済みました 終りました 特に食事時、人がすんだかいと尋ねた時の返事 [会話] 飯くとるとこい (食べている所へ) 行くと、おおた ごじぶん (食事時) の最中やのお (ですな) 言うて、スンダヨオ 言うて、喰うた後 なら言うし、済ましたよ お 言うのを スンダヨオ 言うて。

すんたらず (寸不足) 【名詞】 1) 寸法が足りないこと 背の低い事 2) 馬鹿 普通より少し劣っている事 又、その人 3) 鮑の規定以下のもの (志) [会話] 2) あんごしのおを (馬鹿なのを) あや (彼は) 八分やよつて (だから) 言うて、スンタラズ も、もやしな (が) 足らんねやれ (足りないのだ) まるきんや (だ) 一銭につませんたら (とか) 言うて。

すんだんかい 終りましたか、すんだかいと同じ。 [会話] ま スンダンカイ 言うて、ああ、ま すんだよお 言う人もあるしなあ、その人ん によってなあ ま スンダンカイ ま スンダカイ 言うてな 途中 えん 入れたり 入れらつたり (入れなかった

り)。

すんで 過ぎて [会話] 十五日正月言うのは 正月
スンデから 十五日の かいばしら (粥柱) 言うて。

すんでえ します

すんで。すんでに。すんでの。すんでん 【副詞】 もう
少しで 危うく すつてのこと参照 (志 (布施
田))

すんでのこと 【副詞】 危うく もう少しで (志 (浜
島))

すんど するぞ するだろ

ずんと 【副詞】 1) 重いさま。強く心に響くさま。

2) 物に突き当たるさま [会話] 2) ズント まあ
ずりつけてたれ (落ちていった) まあ言うてな、あ
の いきなり (急に) まあなあ あの 落ちてたり
(落ちていたり) するとなあ ま ズント いた
よお (行った) 言うてな。1) ズント まあいとお
て (痛くて) まいきったよお言うてな。わるわれて
(叱られて) ズントこたえた まあ ごっすり (大
変) しごかれて ズントきたよお (来た) 言う時も
ある。重たい (重い) と ズント 重たい とか、
どいらいおもたいなあ (大変重い) 言う時な (が)
あるなあ (有ります)。

ずんど (寸胴) 【名詞】 舟形的一种 ずんどう 上か
ら下まで大きさの変わらない事 (志 (御座、国府、
安乘)) [会話] ズンド言うて 今し (今) の舟と
ちよいと (少し) 違うよおなあ (です)。すどん
として 昔や (は) ちよろ 言うて 表の先のも な
あがい (長い) のを ちよろや (だ) 言うてなあ。
その ちよろな (が) すたつて (流行遅れなっ
て) こんだ (今度は) ズンドん (に) になったの。先
な (が) すどんとしてあるもんで (ので) ズンド言
いおったんやかなあ (言って居たのでしょうか)。
先な (が) ちょんぎつとらんと (尖ってないで) す
どんとしてあんな (あるのが) 流行って来て ズ
ンドや (だ) 言いおった (言って居ました)。

ずんどぎり (寸胴切) 【名詞】 輪切

すんどりむし 【名詞】 尺取虫 (志 (鶴方、神明、立
神)、鈴市、安、松、多、度、尾) [会話] しゃく
とり虫言うて 寸とんのをなあ スントリムシや言
うて。

すんどる 1) 過ぎて居る 越えて居る 終って居る
2) 住んで居る

すんな するな 禁止 (志 (浜島、布施田、鶴方、神
明、立神、志島、甲賀、国府、安乘)、鳥 (浦村、

鳥羽)、鈴市、三、張、度、北、南) [会話] そげ
な (そんな) 事 スンナ言うてなあ、したらいかん
(いけない) 言うのをな それしたらはざん (駄目
だ) 言うてなあ それしたら はざん スンナ言う
て。

すんなあ します する している

すんない する している [会話] おらも (俺も)
そいなこた (そんな事は) スンナイ。おらも (俺
も) そげなこた (そんな事は) みな すられ (しま
す) とか、あげな (あんな) ことスンナイ、おらも
あげな (あんな) こと すられ (します) 言うなあ。

すんなてや してはいけない。禁止。 [会話] そい
な (そんな) ことしたら はざんてや (いけません
)、スンナテヤ言うてな、して はざん (いけな
い) ことはなあ、そいなこた (そんな事は) まあ
スンナテヤ言うて、よけ (あまり) したらはざんて
や (駄目だ) 言う時なあ、そや (それは) やめとけ
(ておけ) 言うのをなあ そいなことすんな そい
なことすんなよお (そんな事するな) ま 今度から
そいな ことすると、人らん (に) わらわれんど
(笑われるぞ) 言うてな。

すんなり 【副詞】 抵抗感がなく素直なさま [会話]
竹な (が) 真つ直ぐん (に) 立つとると (てい
ると) 素性のええ (よい) スンナリしとる (してい
る)。おおた あや すつとして 素性な (が) え
えなあ (よいです) 言うけどなあ、すいすいしとる
やんかあとか (しているでないかとか) 言うけどな
(言いますが)。すうつとしとると (していると)
おおたまあ あや すいすいして どいらい (大
変) 素性な (が) ええなあ 言うけどな (言いま
す)。スンナリと ええなあ 言うて 言う人も
あるやんかい (有ります)。

すんにい します。しますよ。(鈴市) [会話] する
にい言う人ら あんな (有ります)。するにい言う
人らもあるなあ (有ります)。するにいと スンニ
イと 言う人ん (に) よつてなあ そげな (そん
な) 言葉 使う人もあるなあ スンニイ言う人もあ
るし、すんない (する) 言う人もあるし、そのにげ
ん (人) よつてなあ すんない そげなこた (事
は) おらも (俺も) 言うて。

すんにたらん 1) 馬鹿 2) 少し小さい 届かない
[会話] 1) ちよいと (少し) おかしな事言うて
あや (彼は) スンニ タランのやれ (のだ) 言う。

すんぬける 怠ける さぼつて仕事場からいなくなる

その場所からいなくなる [会話] スンスケル すんぬけてく (ていく)、仕事しとんのおを (しているのを) わがと (自分が) すこけてくのを (ていくのを)。

すんね 1) する 行く (張) 2) するのだ

すんねけど するのだが [会話] おや (俺は) それ スンネケド なったらしたて (何とかしてしまつて) よおせんねよお (出来ません)。

すんねてや するのです [会話] オッチョコネな (が) 村中 アコーデオン弾いて その人な (が) おどんねてや (踊るのです) 嫁をいじめる欲婆がいくら信心したとて 神や佛は知らぬ顔言うて その人な (が) スンネテヤ。

すんねてわい。すんねてわな (女性語)。すんねてわれ するそうです 他所行きスンネテワイ

すんねなし 1) するのだから 2) しないから

すんねもん するから するのだから [会話] もとから (始めから) 判つとんのお (判っているのに) そいな事 (そんな事) スンネモン。

すんねやんかい。すんねやんかな (女性語)。すんねやんかれ するのです

すんねやんない するのでしょうか [会話] スンネヤンナイ言う。あんだ (貴方) も そげな (そんな) こと スンネヤンナイ言うて、するでしょお 言う事やけどな (だが)、スンネヤンナイ言うてな。そいな (そんな) こと するやんない言うたり、スンネヤンナイ言うたり、すんの (するのです)。一緒に言葉やけどな (だが)、そいな (そんな) こと言うねやんないてやら (言うのでしょうか) スンネヤンナイ言うたりなあ。

すんねよって。すんねよってん するのだから [会話] あんまり (あまり) 世話やきん (に) 来ると、そいなもん (そんな事) ほつといてえ (構わないで下さい) わしや ええよおん (私はよいように) スンネヨッテ、自分の勝手 (都合) のええよおん スンネヨッテン言うて。

すんの するのです するのを [会話] 仏さんをまつってくれる人が のおて (無くて) スンノを めんめん (各々) の家でも 無縁仏まつる 言う事をやなあ (です)。

すんのける より分ける 除く [会話] おっきいのおと (大きいのと) ちっちゃいのおと (小さいのと) ごちやごちやに有って こや (これは) ちよいと (少し) せえらしよって (よいから) スンノケト

ケ。

すんのな するのが

すんのなし するのだから

すんのに するのに (安) [会話] おんなしたんのに (俺がしてやるのに) おんな (俺が) スンノニ まあ のな (お前が) そいな (そんな) こと せんでも (しなくても) おんな (俺が) スンノニ ほつとけや (放っておきなさい)。

すんのを するのだ (鈴市、伊)

ずんばい 【名詞】 虫のついた椿の葉 変形した椿の葉 ずんばい (瓢石) つぶてからの転か 丸く石つぶての様に變形している (志 (布施田、畔名)) [会話] ズンバイ言うと (言うのは) はたぶら (椿・椿の実) の おばやなあ (小母・近縁の物です)。みいは かったいやんな (堅いでしょう) 油な (が) つく (搗く) ももな (果実・丸い物が) 入って かったい。ズンバイ言うのはなあ あれの おばか おじ (小父・近縁の物) 言うんやろなあ (言うのでしょうか)。やいこおいのな (柔らかいのが) 有って がっこ (学校) 行く時分 (頃) 取りん (に) 行きおつた (行きました)。ズンバイ取って 尻突いて言うて。はたぶら (椿) のきいへ。ほおすると (そうすると) テエズンバイ言うな (言うのは) 手みたいん (に) 広がつとんのお (広がっているのが) 有るし、ほして (そして) まあるきたい (丸い) はたぶらみたいんのお (椿の実みたいなのが) あるしな。

すんばこ 【名詞】 神経痛、リューマチ等手足の痛む病氣 スンバク (寸白) スバク (寸白) の訛。元来は腹痛、婦人病、條虫類による疾患を指した。(大言海) (志 (浜島、志島、甲賀、国府)) [会話] スンバコ言うな (言うのは) 今し (今) で言うて 神経痛言うんやろなあ (言うのでしょうか)。スンバコな (が) おこつて言うてなあ、どこやかや (どこかここか) 痛かったり 腰が痛かったりすると、まあ今日は スンバコな (が) おこつて 寝とる (寝ている)、今しで言うて 神経痛やかな (だろかな) 思うね (思うのです)。筋が痛かったり かいなな (腕が) 痛かったりすると、スンバコな (が) 入った言うてなあ。スンバコな (が) 入って いと おて (痛くて) 言うねよって (言うのだから) 昔の ひた (人は) 足い (に) スンバコな (が) 入った たら (とか)、てえ (手) 入った たら 言うねもんで (言うので)。

すんばこすじ 【名詞】 少しのかかわり すんばこすじ

もたよる参照 [会話] ちよいと (少し) 親戚の人でも かづけて (かこつけて) 呼びに行く 言う事 やろなあ (でしょう) スンバコスジ言うて。

すんばこすじもたよる 少しの関係でも頼りにする。大切にする。[会話] スンバコスジモ タヨツテま あ あの家や (は) よんで (招待して) くれてまあ言うてなあ、従兄も はとこも よんだり (招待したり) するとなあ あの家や (は) ごっつおしたや なあ (御馳走したら) おおた 昔の おやこ (親類) も みな よおで (招待して) くれて言うのをなあ スンバコスジモ タヨツテ よおで (呼んで) くれた言うたり、なんでも 昔のことをするとなあ おおた あの家や (は) スンバコスジモ タヨツンナイ (頼りっている) 言うてな。 ちよいと (少し) の かんけえ (関係) も まあなあ よんだり (招待したり)、くれたり するとなあ スンバコスジモ タヨツテえらいなあ (大変だ) あの家や (は) 言うて。

すんばこだま 【名詞】 1) 淋巴腺の腫れ 2) 静脈瘤 [会話] 1) スンバコダマや (だ) 言うて、てえ (手) や 足な (が) ぐりぐりしとりおったやんかい (していました)。2) ああおおなって (青くなって) ぶくぶくして あや (あれ) あの人の足 見よ まあ (見なさい) 言うて、あや (あれは) スンバコダマや (だ) 言いおったね (言っていました)。

ずんばら 【名詞】 つばな ちがや 又はその花穂 イネ科の多年草。高さ60cm、葉は線形で先が尖る。晩春葉に先立って、白い絹状毛を密生した長さ10~20cmの円柱形の花穂を出す。花穂をつばな、ちばなど言い、古くはほくち(火口)に用いた、若い花穂を子供がよく食べる。(志(片田)) [会話] ズンバラはなあ ちがやの 出て来るやんない (穂が出て来るでしょう)。その まだ 出てかんうち (出ていかない間) のを ズンバラ 言うて、とりんきおったわ (取りに行つて居ました)。子供の時分 (頃) に。それを 食いおったの (食べて居たのです)。なかの芯を 開いてくと (いくと) ほおん (穂に) なつてなあ 開いてくんけど (いくが)、はらんどる (孕んでいる・穂が出ない) うちなあ (に) まだ ふくらんどる (膨らんでいる) うちん (に) とんのを (取るのを) ズンバラや (だ) 言うて。

ずんぶり 【副詞】 1) 日の全く暮れたさま とつぶり 2) 舟に一杯荷を積んださま 水中に沈み込むさま

(志(布施田)) [会話] 1) 日な (が) ズンブリ 入れるまで 働いとる (ている)。

ずんべらぼお。ずんべらぼおず 【名詞】 【形容詞】 凹凸がなく、又変化も無くのっぺりしている事、又、そのさまや物 [会話] てえも足も ズンベラボオ に がにもじきん (に) したた (してやった) 言うて、がに (蟹) を、足を 皆 もじいたると (もいでやると) ズンベラボオ に なつてくやんない (なつていくでしょう)。そやよつてん (それだから) なんやかや もじいたると がにもじきん (に) したた (してしまった) 言うて、全部 もじいたると なあ。うた (ああ) がにもじきやなあ (だ) 言うて、がにの足 もじくよおんなあ (ように) ズンベラボオ に したると (してやると) ままま (ああ) ズンベラボオ に したて (してしまつて) がにもじきやなあ (だ) 言うて。

すんば(寸棒) 【名詞】 1) 鮑、海老の大きさを計つたりする尺木 これ以下は採つてはいけない 基準となる長さを示す物 (志(布施田)、鳥) 2) 田植え用の物指し [会話] 2) スンボ 言うて たあ植えたり スンボなし (ですし)、1) 鮑 でも スンボ、海老のスンボ も 有るし。はかんなあ (計るのを) はかんの (計るのを)、スンボ 言うたら (言つたら) 物差しやけどなあ (ですが)。海老でも 大小分けんのなあ (分けるのです) スンボ で 計るやんない (でしょう)。鮑 もなあ いく (通る・商品になる) のと いかん (通らない) のと 言うて、つま るよおん (ように) して 市場へ 行くと ちゃん と 有つて それへ はめるよおん (ように) して 有つて ちよいと (少し) ちっさいなあ (小さい) 思うと はめて (入れて) ごそつと すると いかせんね (通らないのです)。いく言うのは 合格すんの (するのです)。いかせん言うのは ペけで、ちっ そおて (小さくて)、スンボ な (が) ちよいと でも 足らんと (少しでも足りない) ごそつと 入つて くと (いくと) はざんの (駄目なのです)。ちよいと 上 に来る位い (に)。2) 田の スンボ 言うのは たあ植えの 間隔 このくらいの 間隔で 植えて ある やんない (でしょう)。ほすと (そうすると) ちよぼな (印が) こおして 有つて なあ それへ 植えて くの (行くのです) 寸な (が) 取つて あつて。それ あて ごといて (当てがつておいて) その チョボ を めあて (目標) に 植えて くと (いくと) まつ すぐん (に) なんの (なります)。

ずんぼろ【名詞】 茨 さるとり茨 ユリ科の落葉低木。各地の山野に生える。高さ 0.6～2 m、茎はつる性で節ごとに曲り、まばらに棘が有る。葉は楕円形又は、卵円形で長さ 6～9 cm、葉柄の基部に托葉の変化した二本の巻ひげが有り、他物にからむ。雌雄同株、初夏、葉腋から花柄を出し、六花被を持つ、黄緑色の小花を多数散形につける。果実は小球状で、紅色に熟し食べられる。猿が棘にひっかかる意から名がつけられた。(志(越賀、鶴方、神明、安乗)、鳥(菅島)、度) [会話] ズンボロの もも (実) 言うてなあ。ズンボロは それ 団子する時ん (に) する ちまき (いばら餅) のことを ズンボロ 言うんやんかい (言うのです)。ズンボロの はあ (葉) 取ってきて 言うてな、ちまきの はあ (葉) を だ つつで (包んで) ある やんない (でしょう)、団子な (が)、あれを ズンボロのはあや (葉だ) 言うて。そやよって (それだから) あれの もも (実) を なあ ズンボロの もも (実) 言うんや るん (言うのでしょうか) あれ あつかあいも な (赤い実が) なる やんかい (なるでは有りませんか)。